

2-53 水戸城跡（第7地点第25次）

所在地 水戸市三の丸 1-6-29（特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下）

調査期間 平成22年10月4日～10月8日

調査面積 2㎡（陥没した箇所1.5㎡四方）

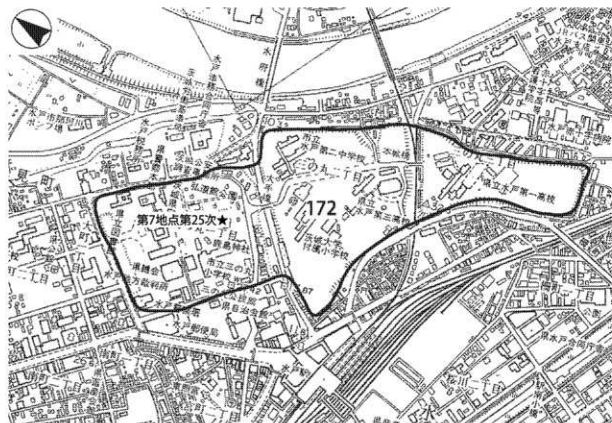
調査原因 史跡の毀損に伴う原状復旧

調査担当 渥美賢吾

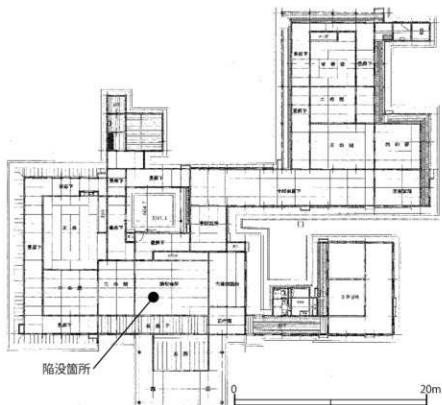
調査経緯 日常行われている重要文化財の見廻りの際、旧弘道館正庁の正面玄関に面した諸役会所の床下において束柱の礎石据え付け部分が大きく陥没し、礎石自体が崩落していたことが発見された事から（第141図）、平成22年7月13日付公街第153-2号及び7月22日付公街第163-2号にて、重要文化財及び特別史跡の毀損届が提出された。その後、平成22年8月4日付公街第181-3号にて特別史跡の現状変更許可申請書が提出され、平成22年9月17日付22受庁財第4号の921にて文化庁長官の現状変更許可を得たことから、陥没の原因と特別史跡旧弘道館の指定地内に包蔵されていると見込まれる重要遺構への影響を明らかにするため、10月4日から諸役会所の南東部（陥没箇所とその周辺）の畳3枚分とその直下にある昭和35年修繕の板材を暫定的に取り外し、投光器3基を配置して、調査員及び調査補助員が床下へと潜り込んだ。崩落土層を丁寧に除去した後、重要文化財である正庁を支える整地層のうち崩落の危険性のある部分を土層断面の観察を行いながら掘削し、崩落土層の直下に推定される遺構の検出にあたった。調査終了後、平成22年11月18日付公街第354-3号にて現状変更終了届が文化庁長官あて提出された。

(1) 調査の概要 遺構が確認されるまで、土層断面の確認等を行いつつ慎重に掘削を進めていったが、現況地盤から1mの深度までは、陥没に伴う整地土や地山層の崩落土層が続き、この間多くの石材の出土をみた。それは、折り重なるように出土したことから、崩落に伴い落ち込んだものと推定されるとともに、昭和34～38年の修理工事の際に礎石周囲に配置された根固め石と考えられた。また、瓦や土器・陶磁器の破片が大量に出土した。

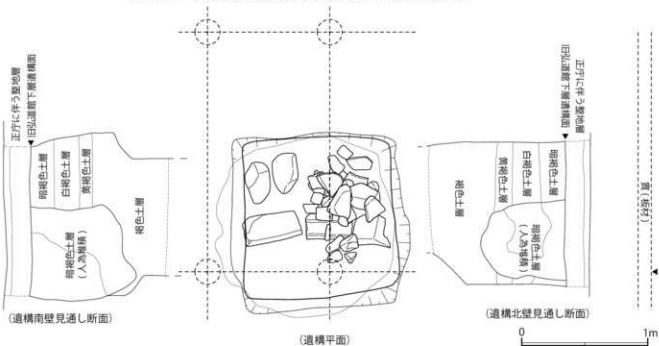
現況地盤から1mの深度を超えたところで、次第に掘方が方形状になるのがわかったが、出土した石材の下になお空洞があることが確認され、そのまま調査を終了したとしても、礎石の復旧が難しいこと、未だ遺構の性格が判然としないことから、さらに30cm程度掘り下げを行った。その結果、平面プランが円形の大土坑となること



第140図 水戸城跡（第7地点第25次）の位置



第 141 図 特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下陥没箇所的位置



第 142 図 特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下陥没箇所の大形円形土坑

が明らかとなった(第 142 図)。ここで遺構の埋土に対して、ピンホールによるボーリングを行ったところ、未掘削深度が 1m 以上の深さを有していることが判明したことから、当該遺構は、弘道館運営以前に廃絶した井戸跡である可能性が高いと判断した。また、現況地盤から 1～1.3m において、前述の石材や瓦、土器・陶磁器のほか多量の焼土が炭化物粒子とともに出土した。それが何に起因するのかを明らかにすることはできないが、近傍に焼成等



写真 173 諸役会所床下陥没箇所（東から）



写真 174 諸役会所床下陥没箇所（東から）



写真 175 諸役会所床下陥没状況（北から）



写真 176 諸役会所床下陥没箇所掘削状況（東から）



写真 177 諸役会所床下陥没箇所掘削状況（東から）

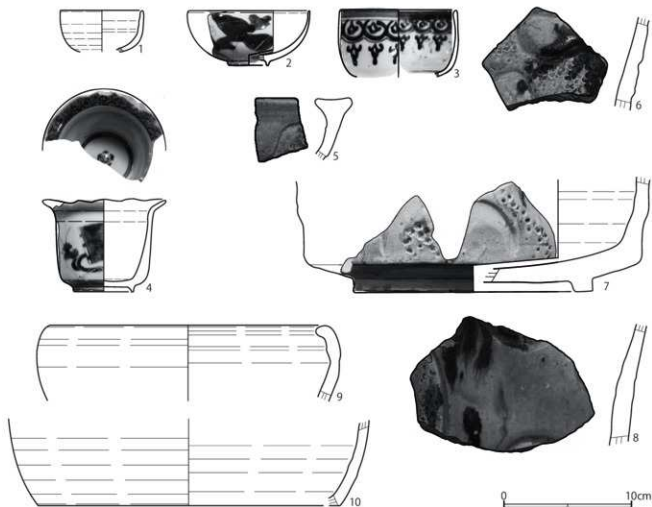


写真 178 諸役会所床下陥没箇所土層断面（東から）

に関する遺構があったか、焼損した建造物等があったことが想起される。

観察した土層断面はほぼ堆積の混乱した崩落土層であり意味をなすものではなかったが、大型円形土坑の壁面の見通し断面において、正庁に伴う整地土層と土坑の関係が明らかであったことから、これを記録に留めた。さらに整地土層の直下で大型円形土坑の埋土を切る溝状遺構の断面が確認されたが、これについては調査面積が限られていることもあり、性格は不明である。なお、陥没の原因については、①大型円形土坑（推定井戸）の埋土が十分に堆積しておらず、弘道館造営当初からある程度の空洞があったこと、②調査における掘削の最中に鼠の巣とおぼしき物体が2基確認されたことから、当初から存在していた空洞がさらに広がっていたと考えられること、以上の2点により、東柱直下に大きな空洞が生じ、これが自然災害等により何らかの大きな力が加わったことで陥没したものと推定される。
(渥美)

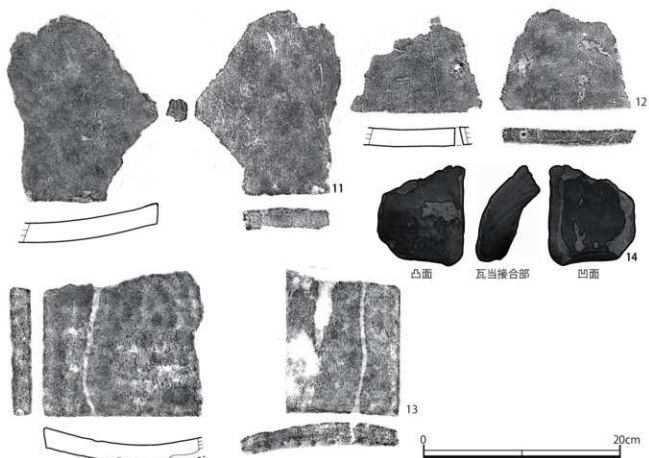
(2) 出土遺物 第143図1は器種不明の陶器であり、仏飯具の可能性がある。外面には灰釉が掛かっており、内



第143図 水戸城跡（第7地点第25次）大形円形土坑出土遺物①

面腰部以下は無軸である。底部（脚部カ）を欠失しており、内外面に貫入がある。生産地は不明だが遺構の検出状況から18世紀後半の年代が推定される。2は磁器の半球碗で、外面は透明釉、畳付は無軸で、外面に染付で花卉文が描かれている。肥前産と推定され、1700年代～1860年代の年代が与えられる。3は磁器の小丸碗で透明釉、外面口縁部の帯線に一重圏線、体部に瓔珞文、高台脇に二重圏線、内面口縁部帯線に瓔珞文、見込みに二重圏線が染付で描かれている。肥前産と推定され、1760～1810年代の年代が与えられる。4は磁器の折縁筒型碗で、透明釉が掛けられ、畳付は無軸、外面には花蝶・本・波文、高台脇には一重圏線、高台には二重圏線、折縁上面には四方博文（輪花）、見込みに二重圏線、見込み中央には五弁花文が染付により描かれている。肥前産と推定され、17世紀～18世紀前半の年代が与えられる。5～8は陶器・水鉢（植木鉢転用）での破片である。いずれも同一個体と考えられ、5は口縁部、6・8が胴部、7が胴部～底部の破片である。紐作り成形で、外面には灰釉と鉄軸が掛けられ、外面には流水文、水飛沫部分を刺突で表現している。高台は削出高台で、内面には目痕が2箇所認められる。瀬戸・美濃産と推定され、18世紀後半以降の年代が与えられる。9・10は土師質土器の火鉢である。別個体と考えられ、9は口縁部、10は底部の破片である。いずれも轆轤成形で、外面にミガキ調整が施され、9は内面に、10は内外面に煤が付着している。10の底部には砂目認められる。在地産と考えられ、近世以降の製品と考えられる。第144図11～13は平瓦で、いずれも板作り・型当て成形による。12は穿孔が1箇所認められ、釘孔の可能性が考えられる。いずれも在地産と推定され、17～18世紀の年代が与えられる。14は軒丸瓦で、板作り・型巻成形によるもので、凹面には布目痕が認められる。瓦当面を欠失しており、剥落面には瓦当との接着効果を高めるための円弧状の沈線が施されている。在地産と推定され、17～18世紀の年代が与えられる。

（渥美・関口）



第144図 水戸城跡（第7地点第25次）大形円形土坑出土遺物②

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 特別史跡旧弘道館造営以前の遺構であるが、指定地内の遺構であることから、遺構の覆土は完掘せず、空洞部分を山砂により埋め戻し原状復旧することとした。(渥美)

第3章 個人住宅建築に伴う本発掘調査

第2章で報告した試掘調査のうち個人住宅建築に伴うもの及び平成20年度・平成21年度試掘調査分の個人住宅建築に伴うもので、記録保存を目的とした本発掘調査を6件実施した。このうち、アラヤ遺跡第3地点(台波里第73次)については今後刊行を予定している『平成23年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』に収録予定である。以下、遺跡毎・地点毎に報告する。

3-1 沓掛遺跡(第4地点第2次)

所在地 見川町 2570-1, 2570-4

調査面積 418㎡

調査期間 平成22年4月13日～平成22年6月11日

検出遺構 土坑15(近世1・時期不明14), ビット10(古墳時代1, 時期不明9)

出土遺物 縄文土器(早期後葉・中期中葉・後期), 土師器(古墳前期), 陶器・土師質土器皿・銭貨(近世)

調査担当 米川暢敬

調査概要 平成21年度の試掘調査で遺構が確認された区域について、個人住宅の建築が予定され、伐根及び切り土が生じるため、申請建物建築部分を中心に伐根・切り土の及ぶ範囲を調査対象とし、発生残土置場の確保の都合上、北区・南区に分割して調査した。

(1) 土坑 計15基を検出した。計測値については、第5表のとおりである。時期については、SK03より近世の土師質土器皿(カワラケ)の底部片が1点出土していることから、近世の所産である可能性が考えられる。他の土坑については時期不明である。

(2) ビット 計10基を検出した。P05からは古墳時代前期の土師器残片が出土したことから、古墳時代まで遡る可能性があるが、他の9基は出土遺物がないため、時期は不明である。計測値は、第5表のとおりである。(米川)

(3) 出土遺物 第146図1は表土中より出土した縄文土器である。単節LR縄文が立て方向と横方向に分けて回転



写真 179 北区遺構検出状況(南東から)



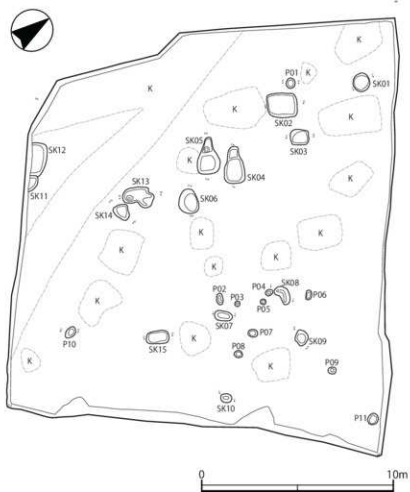
写真 180 北区遺構完掘状況(南東から)



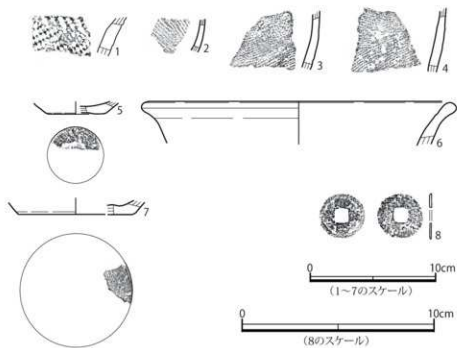
写真 181 南区遺構検出状況(南東から)



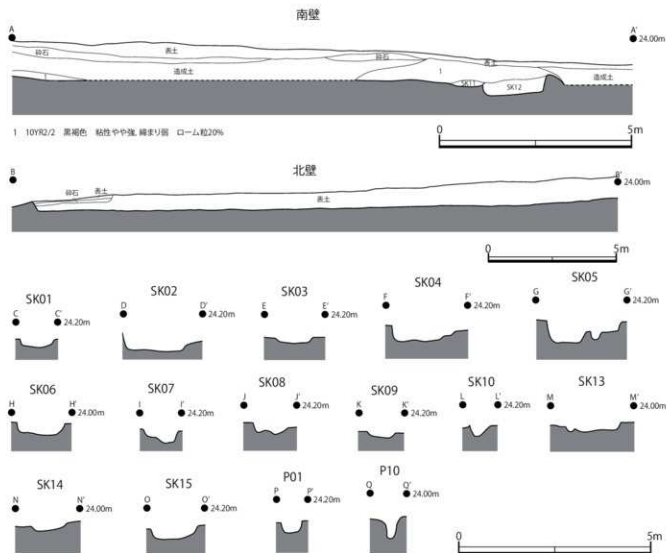
写真 182 南区遺構完掘状況(南東から)



第145図 沓掛遺跡（第4地点第2次）における遺構の配置



第146図 沓掛遺跡（第4地点第2次）出土遺物



第 147 図 沓掛遺跡（第 4 地点第 2 次）の本調査区・遺構土層断面

第 5 表 沓掛遺跡（第 4 地点第 2 次）本発掘調査検出の土坑・ピット一覧

遺構名	規模 (m)	深さ (m)	形状	遺構名	規模 (m)	深さ (m)	形状
SK01	0.8 × 1.0	0.22	円形	P01	0.5 × 0.58	—	円形
SK02	1.7 × 1.3	0.26 ~ 0.42	隅丸長方形	P02	0.35 × 0.6	—	長楕円形
SK03	1.0 × 0.9	0.16	隅丸方形	P03	0.28 × 0.3	—	円形
SK04	1.1 × 1.9	0.1 ~ 0.4	長方形	P04	0.42 × 0.38	—	長楕円形
SK05	1.1 × 2.0	0.25 ~ 0.6	長方形	P05	0.38 × 0.32	—	円形
SK06	1.1 × 1.7	0.3 ~ 0.35	円形	P06	0.34 × 0.5	—	長楕円形
SK07	1.9 × 0.6	0.2 ~ 0.35	長楕円形	P07	0.5 × 0.42	—	長楕円形
SK08	1.9 × 1.0	0.26 ~ 0.28	不整形	P08	0.45 × 0.38	—	円形
SK09	0.7 × 1.1	0.12	不整形	P09	0.4 × 0.4	—	円形
SK10	0.6 × 0.5	0.28	円形	P10	0.55 × 0.6	0.5 ~ 0.6	長楕円形
SK11	(0.7) × 0.9	—	—	P11	0.58 × 0.62	—	円形
SK12	(0.8) × 1.9	—	隅丸長方形				
SK13	1.7 × 1.1	0.26	不整形				
SK14	0.8 × 0.9	0.2	三角形				
SK15	1.2 × 0.75	0.34	隅丸長方形				

施紋されている。器厚や縄文の在り方からみて中期中葉の加曾利E式期に帰属するものと考えられる。2は遺構確認より出土した縄文土器である。単節RL縄文が回転施紋されており、器厚からみて後期以降の所産と理解される。3～6は古墳時代前期の土師器である。3～5は表土中、6はP05より出土した。3～4は胴部片で外面に刷毛目調整の痕跡が残されている。5は底部片である。6は土師器の壺もしくは甕の口縁部片で、内面には刷毛目調整の痕跡が残されている。7はSK03より出土した土師質土器皿の底部片である。糸切りの回転方向については未詳だが、胎土や色調などから近世の所産と理解する。図8は銭貨である。腐食が著しく、文字の判別はできなかった。法量と裏面に文字がないことから、銅一文古寛永（寛文8（1669）年初鑄）の可能性が高い。（川口・関口）

3-2 一戦塚遺跡（第1地点第2次）

所在地 牛伏町 181-1, 182, 185, 186 の一部

調査面積 168.32 m²

調査期間 平成22年7月13日～平成22年8月13日

検出遺構 竪穴建物跡1（古墳前期）、溝跡1（奈良・平安）、ピット2（時期不明）

出土遺物 弥生土器（弥生後期）、土師器（古墳前期・古墳終末期・奈良・平安）、須恵器（古墳終末期・奈良・平安）、打製石斧（縄文）、砥石（奈良・平安）、鏡形石製模造品（古墳中期）、炉石（古墳前期）、青銅製品（奈良）

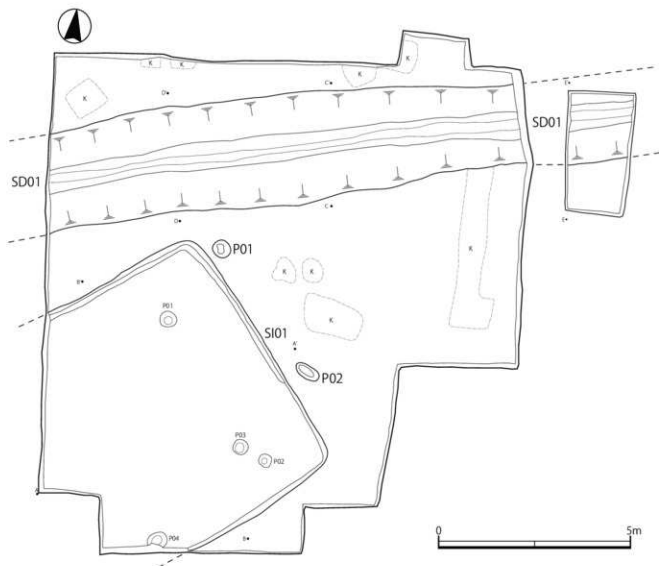
調査担当 米川暢敬・色川順子

調査概要 平成20年度に実施した試掘調査の際に竪穴建物跡3軒が確認され、西側へ申請建物を移動したが、S103の延長部分が検出されることが予想されたため、申請建物部分を調査範囲とした（第148図）。表土を除去した結果、S103の延長部分は検出されず、別の竪穴建物跡1軒と溝跡1条が検出された（第149図）。

(1) 竪穴建物跡(S101) 調査区の南側半分で検出された。調査できたのは2/3程度で残りは調査区外へ伸びている。主軸方向はN-130°-Wで、規模は東西長が7.0m以上、南北長は7.3mである。耕作による攪乱が床面まで到達しており、遺存状況は良くないが3層の覆土から成る（第150図上段）。壁から床面までの深さは0.44～0.6mで、北壁～東壁の途中までは壁溝が巡っている。東壁の南側半分～南壁では壁溝は検出されていない。屋根を支える柱を埋設したとみられる主柱穴は4基礎確認されており（P01～P04）、中でもP02とP03は近接して構築されている



第148図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）の本発掘調査範囲の位置

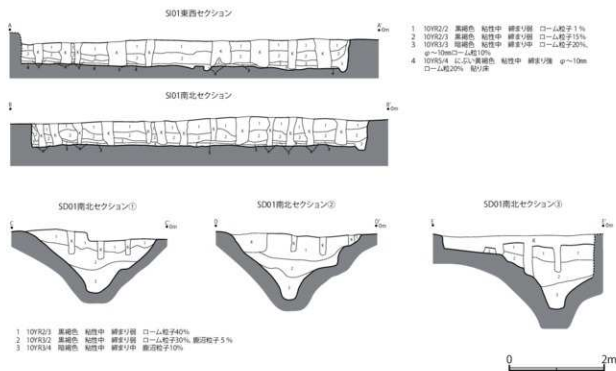


第149図 一戦塚遺跡(第1地点第2次)の本発掘調査の遺構配置

ことから、いずれかが柱の据え替えに伴い新たに構築されたものと理解される。攪乱により検出は困難であったが、炉石とみられる石器が出土していることから床面に炉石が存在した可能性が高い。遺物は土師器と炉石が出土した。

第151図1～2は有段口縁壺形土器である。1は頭部が細いのに対し、2はかなり幅広く腰と壺の折衷のような印象を持つ。1は有段口縁部に刷毛目が僅かに観察され、稜の部分に細かい刻み連続して施されている。2は刷毛目は持たないが、胴部は板状工具によりナデ調整が施されている。3～14は甕形土器で、6・7は口縁部に連続する刻みを有するのに対し、3～4と8～10は口縁部に刻みを持たない。5は底部～胴部にかけての破片である。10は他の資料に比べてやや小形で鉢としても分類できるかもしれない。3～5・8～10は外面に刷毛目調整が施されている。第152図11～13は底部の破片で13はかなり大きく、大形の壺形土器の底部である可能性もある。14は頭部以上を欠失しているが、小形の壺形土器の可能性もある。15～16は器台形土器で外面は縦方向のナデもしくはミガキ調整が施されている。15の脚部が柱状であるのに対し、16は中空状となっており、円形の透しを有する。17は高環形土器の脚部で外面は縦方向のミガキ調整が、内面は横方向の刷毛目調整が施されている。柱状を呈する。18～20は小形の埴形土器で18は赤色塗彩されている。21～35はミニチュアの手握ね土器である。36は被熱によるクレーター状の剥落と赤化が顕著に観察されることから炉石とみられる。以上の遺物の技術的・形態的特徴から、SI01は古墳時代前期後半～末の竪穴建物跡と考えられる。(米川)

(2) 溝跡(SD01) 調査区を北東方向から南西方向に横断する溝で他の遺構との重複はない。主軸方向はN-110°-Wで、上面幅2.5～3.0m、中面幅0.5～0.75m、底面幅0.15～0.3mで深さは1.28m～1.4mを測る。断面は

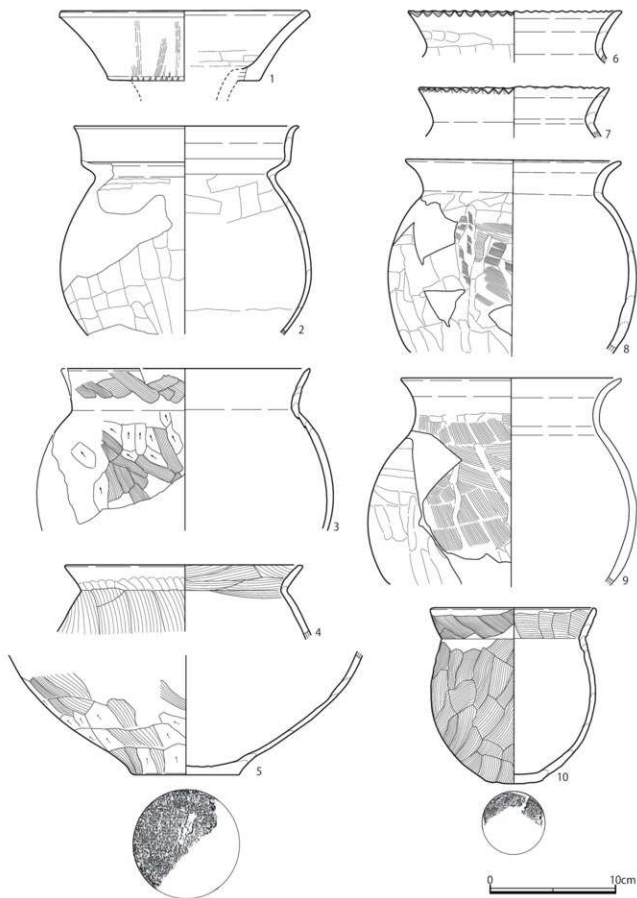


第150図 一戦塚遺跡(第1地点第2次)本発掘調査区の遺構土層断面

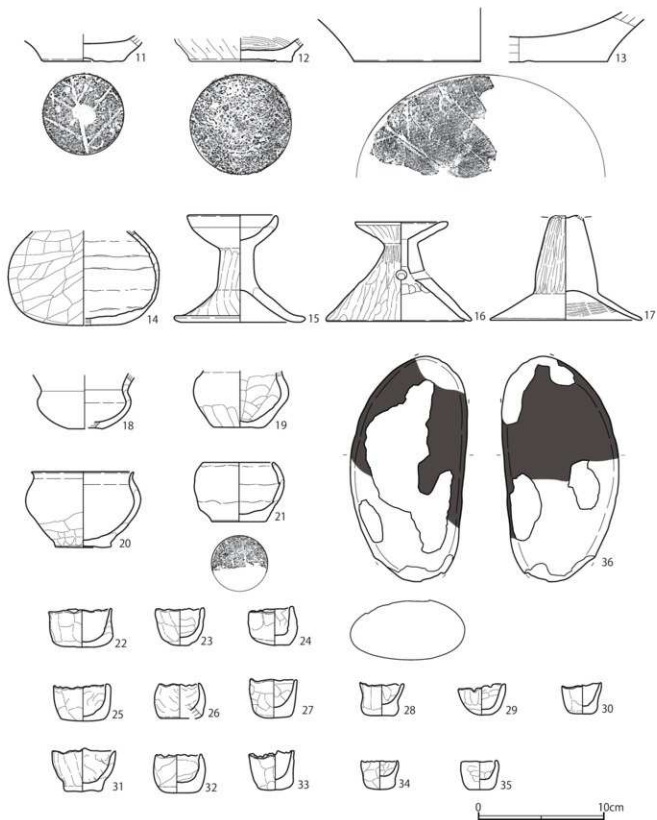
葉研状を呈し、北側に幅の狭いテラス部分が観察できる箇所もある(第150図下段)。上面が擾乱されているが、覆土は3層に分層される。遺物は土師器・須恵器・砥石が出土した。

第153図1は土師器環で体部はヘラ削り、胴部中央の稜から上はミガキ調整が施されている。技術的・形態的特徴から6世紀前葉～中葉に位置づけられる。2・3は須恵器の無台環である。4は須恵器の有台環である。5・6は須恵器の環蓋である。揃まみ部は欠失しているが、端部は折り返しとなっており、技術的・形態的特徴から8世紀第3四半期頃の製品とみられる。7は三方透しを持つ高環で、8世紀第2四半期頃の製品とみられる。8～10は須恵器甕で、8が口縁部～頸部片、9が頸部～胴部片、10は胴部～底部片である。いずれも内外面に叩きや当て具痕はみられず、9世紀以降の製品と理解される。11は高台が付く須恵器の短頸壺で8世紀第2四半期以降の製品とみられる。12は甕の底部片で外面には平行叩きの痕跡がみられる。9世紀以降の木葉下窯跡群とみられる甕はいずれも外面に叩きの痕跡が見られないことから8世紀代の製品と理解しておきたい。13は須恵器甕の胴部片である。外面には握格子状叩きが、内面には同心円文の当て具痕跡が顕著にみられる。こうした特徴を持つ須恵器甕は水戸市山田窯跡群(常陸古代窯業史研究会 1998)で出土していることから、7世紀第4四半期の製品と考えられる。第154図14は須恵器甕の胴部片である。15は砥石である。打撃による剥離面が数力所に認められ、表裏面・左右両側面には顕著な研磨の痕跡が認められる。以上のようにSDO1からは、6世紀前葉～9世紀と幅広い時期の遺物が出土しているが、機能していた時期は8世紀代で9世紀以降に埋没したと理解しておく。(米川)

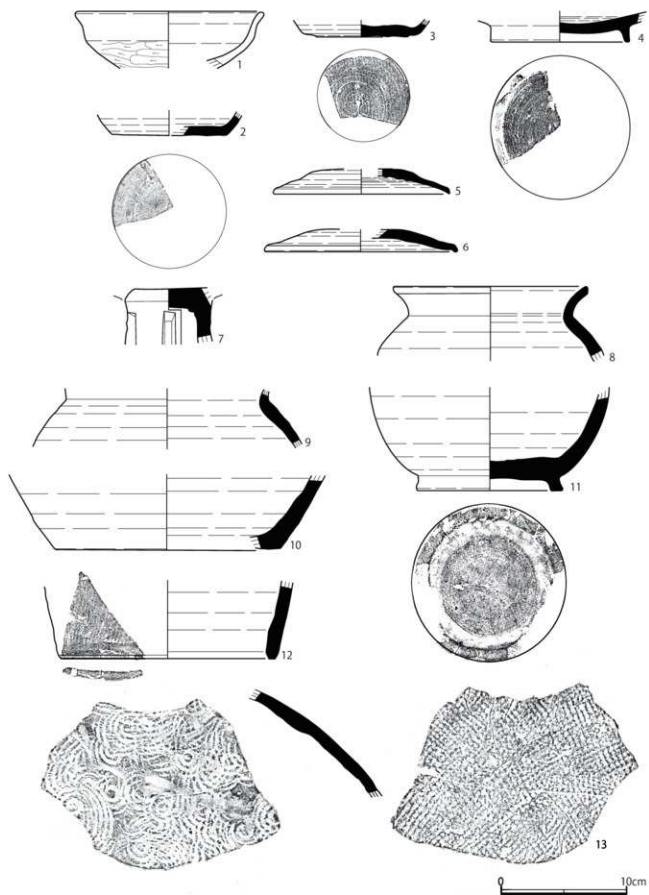
(3) 遺構外出土遺物 第155図1は縄文土器の深鉢形土器の口縁部片で前期後葉浮島式と考えられる。2～4は弥生時代後期の壺形土器である。3は底部片、2・4は胴部片である。いずれも後期十王台式と考えられる。5は打製石斧である。器体中央～刃部は欠失しているが短冊形に分類されるものと考えられる。扁属時期については不明確であるが、縄文時代のものであろうか。同様の製品は南側に接する牛伏古墳群代4号墳の調査(内原町教育委員会 1999)でも出土している。6～8は古墳時代前期の土師器である。6は小型の平底になる埴形土器で、胴部外面はヘラナデ調整が施され、内外面ともに赤彩されている。7は高環の脚部片で柱夾状を呈するものである。8は壺形土器の底部に近い部分で外面はヘラナデ調整、内面は一部に刷毛目とナデ調整が施されている。9は滑石製の双孔円板で古墳時代中期中葉に位置づけられる。10は土師器環で胴部はヘラ削りと一部ミガキ調整が施されている。技術的・形態的特徴から6世紀前葉～中葉に位置づけられる。11は須恵器環で、胎土や色調などから水戸市木葉下窯跡群の製品と考えられ、9世紀以降の製品と考えられる。12は刀装具の籠である。青銅製で奈良時代～平安時代の製品と理解しておきたい。(川口)



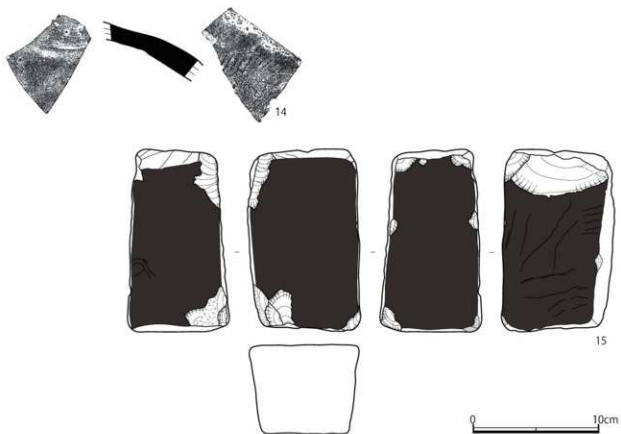
第 151 図 一戦塚遺跡（第 1 地点第 2 次）本発掘調査 S101 出土遺物①



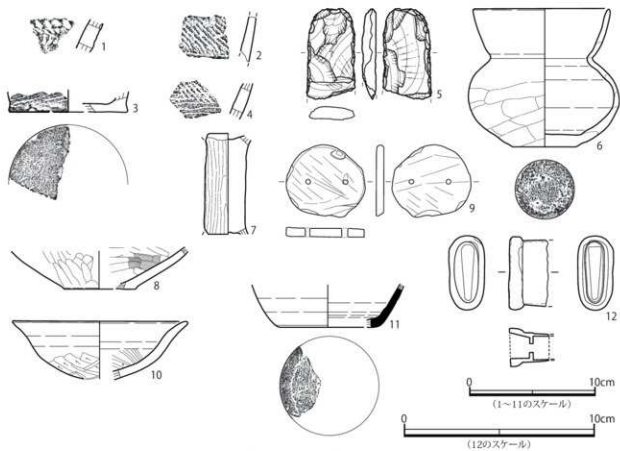
第 152 回 一戦塚遺跡 (第 1 地点第 2 次) 本発掘調査 S101 出土遺物②



第153図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査SD01出土遺物①



第154図 一戦塚遺跡(第1地点第2次)本発掘調査SD01出土遺物②



第155図 一戦塚遺跡(第1地点第2次)本発掘調査遺構外出土遺物

3-3 台波里官衙遺跡（台波里第69次）

所在地 水戸市波里町字前原 2865-6 番地

調査面積 67.26 m²

調査期間 平成22年10月2日～平成22年10月7日

検出遺構 柵列1（古墳終末期）、井戸跡1（中世～近世）

出土遺物 土師器・須恵器（古墳時代終末期）、瓦（奈良・平安時代）、瓦質土器・土師質土器・陶器（中世～近世）

調査担当 川口武彦

調査概要 埋蔵文化財に影響がある申請建物建築部分を調査対象範囲とし、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第156図）。

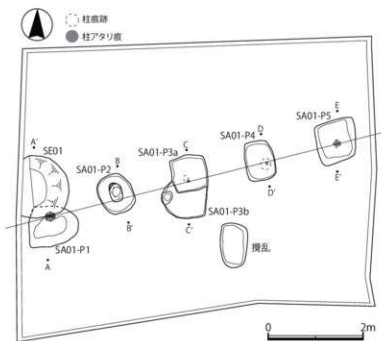
(1) 柵列（SA01） 調査区の中央で検出された（第156図）。柱穴は計5基確認されており、P1が井戸跡SE01により切られている。個々の柱穴の属性は第6表に記載のとおりである。P3bを除きいずれも隅丸方形に近い形を呈しており、1辺が0.8m～1.3mと規模は大きく、深さも0.6m～1.0mと深い。一般的な集落遺跡でみられる平面形状が円形のものとは明らかに異なり、官衙的な様相を呈している。埋設されていた柱の直径は柱痕跡の規模から直径0.25m～0.35mと推定され、柱間

はP1～P3が6尺（1.8m）で、P3～P5は8尺（2.4m）と異なっている。周辺における既往の発掘調査の成果から、これら5基の柱穴は掘立柱建物跡を構成するものではなく、一直線に続くことが確認されていること、主軸が周辺で確認されている（第160図）、柱掘り方埋土に7世紀第4四半期に採集していた水戸市山田窪跡群の製品とみられる須恵器が含まれていることから、7世紀後半に造営された柵列であると判断した。

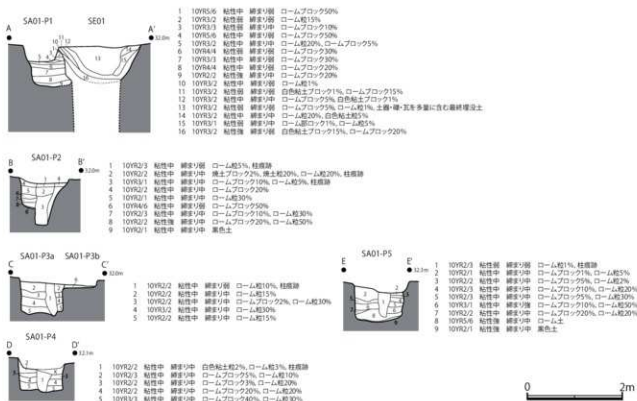
(2) 井戸跡（SE01） 調査区中央の西端で確認された。南北1.75m、東西1.2m以上で、推定直径1.75mである。遺構確認面までが深く、安全確保の観点から0.75m以上の掘削はできなかった。深さは1.8m以上あることをボーリングステッキにより確認している。SA01-P1を切って構築されている。断面は漏斗状を呈しており、人為的に埋め戻されていた。遺物は最終埋没土である1層を中心に覆土上層からまともって出土した。近世期の遺物が最終埋

第6表 台波里官衙遺跡（台波里第69次）柵列SA01柱穴属性

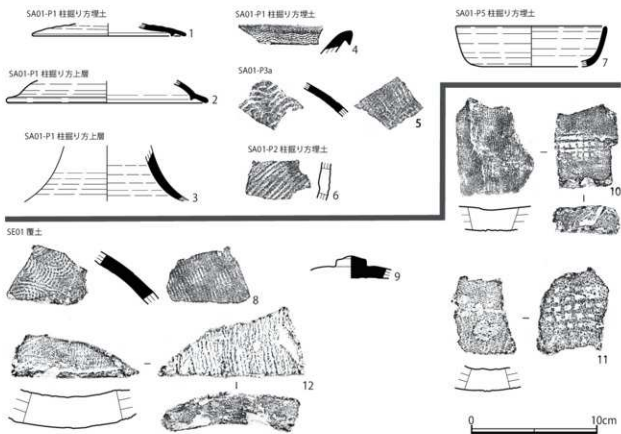
柱穴名	東西長 (m)	南北長 (m)	深さ (m)	柱痕跡径 (m)	平面形
SA01-P1	1.3	1.2	0.87～0.9	0.25	隅丸方形
SA01-P2	0.9	1.05	0.6～1.0	0.35	隅丸方形
SA01-P3a	0.95	0.95	0.7～0.8	0.25	隅丸方形
SA01-P3b	1.2	1.1	0.15～0.19	—	不整形
SA01-P4	0.8	1.05	0.67～0.73	0.25	隅丸方形
SA01-P5	1.05	1.1	0.77～0.83	0.25	隅丸方形



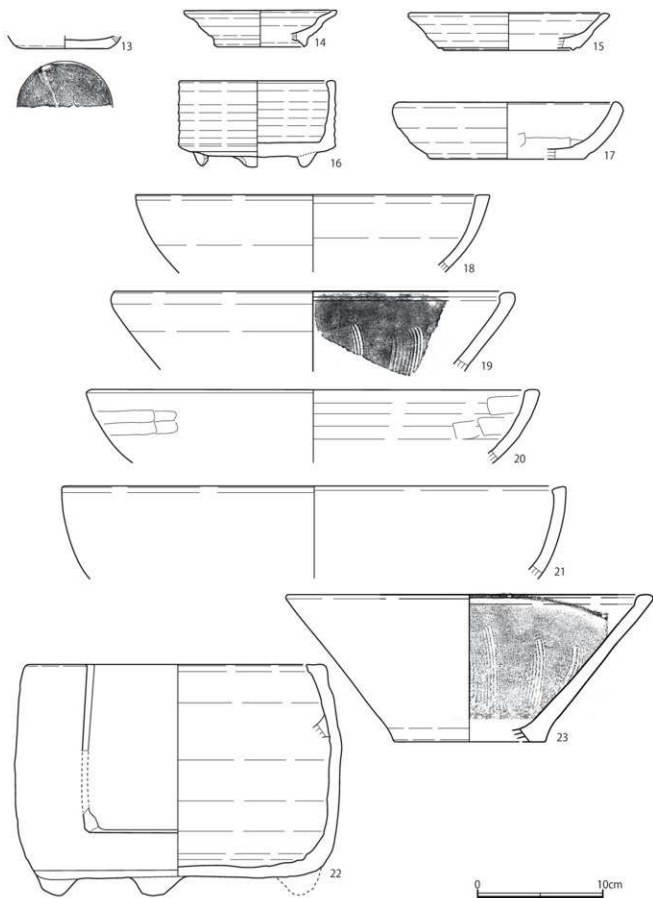
第156図 台波里官衙遺跡（台波里第69次）本発掘調査区遺構配置図



第157図 台渡里官衙遺跡(台渡里第69次) SAO1 柱穴土層断面



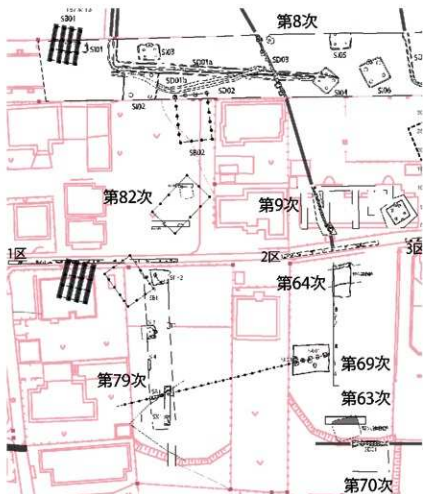
第158図 台渡里官衙遺跡(台渡里第69次) 出土遺物①



第 159 圖 台渡里官衙遺跡（台渡里第 69 次）出土遺物②

没土である第13層を中心に覆土層に含まれていることから、中世の井戸跡と考えられ、近世に至って人為的に埋め戻されたと理解される。

(3) 出土遺物 第158図1～7は冊列SAO1を構成する柱穴から出土した遺物である。1はSAO1-P1柱掘り方埋土から出土した須恵器杯蓋である。内面にかえりを有しており、7世紀第4四半期に位置づけられる水戸市山田窯跡群の製品とみられる。2はSAO1-P1の柱掘り方上層から出土した須恵器杯蓋で、内面にかえりを有しており、7世紀第4四半期に位置づけられるが、胎土に雲母を含んでいることから、新治窯跡群産の製品とみられる。3はSAO1-P1の柱掘り方上層から出土した短脚杯蓋の脚部の破片とみられ、近隣で実施した第26次調査の際にも7世紀第4四半期に位置づけられるT5-001号遺構（竪穴建物跡）から出土している（川口・瀧美編 2007）。4はSAO1-P1の柱掘り方埋土から出土した須恵器甕の口縁部片である。折り返し口縁になっており、口唇直下に4条の柳描き波状文が施紋されている。5はSA-1-P3aから出土した須恵器甕の胴部片で、凸面には覆格子状叩きが、内面には青海波文が施紋されている。同様の製品は水戸市山田窯跡群の須恵器甕にもみられることから、7世紀第4四半期の製品とみられる。6はSAO1-P2柱掘り方埋め土から出土した土師器の甕である。外面には粗い平行叩き痕が施されている。7はSAO1-P5柱掘り方埋土から出土した須恵器無台杯である。同様の製品は水戸市山田窯跡群第2号窯の須恵器にもみられることから、7世紀第4四半期の製品と考えられるが、山田窯跡群第2号窯の製品には高台が剥落した痕跡があり、有台杯の可能性もある。第158図8～第159図23は井戸跡SE01から出土した遺物である。8は須恵器甕の胴部片である。外面には格子叩き痕、内面には青海波文が施紋されている。同様の特徴を持つ須恵器甕は水戸市山田窯跡群の須恵器甕にもみられることから、7世紀第4四半期の製品とみられる。9は須恵器杯蓋である。胎土は灰黄色を呈しており、薄緑色の自然釉の付着が認められる。こうした特徴は水戸市木葉下窯跡群産の須恵器にはみられず、静岡県湖西市の湖西窯跡群産の製品である可能性が高い。7世紀末～8世紀初頭頃の製品と考えられる。10～12は平瓦である。10と11は凸面に正格子叩き痕が残されているのに対し、12は凸面に長縦叩き痕が残されている。10は凹面に枠板圧痕の一部が見られることから、桶巻き作りによる製品



第160図 台渡里官街遺跡（台渡里第69次）周辺における遺構の確認状況



写真 183 遺構検出状況 (南西から)



写真 184 SA01-P1 完掘状況 (南から)



写真 185 SA01-P2 土層断面 (西から)



写真 186 SA01-P2 完掘状況 (北から)



写真 187 SA01-P3a・P3b 土層断面 (西から)



写真 188 SA01-P3a・P3b 完掘状況 (北から)



写真 189 SA01-P4 土層断面 (西から)



写真 190 SA01-P4 完掘状況 (北から)



写真 191 SA01-P5 土層断面 (西から)



写真 192 SA01-P5 完掘状況 (北から)



写真 193 SE01 土層断面 (東から)



写真 194 遺構完掘状況 (東から)

と考えられる。12は台渡里官衙遺跡群での出土例から一枚作りによる製品と考えられる。(川口)

今次調査でSE01から出土した中～近世遺物のうち、11点を図示した。詳細は観察表(第7表)を参照されたいが、内耳土鍋の可能性のある土器類(17・18・20・21)、カワラケ(13)、風埴(22)等の土器類が目立つ。また瀬戸・美濃産陶器皿(14・15)や播鉢(19・23)等も出土している。これらの遺物群は、中世末～近世初頭のもので近世(18世紀以降カ)のものに大枠でグルーピングできる。すなわち前者が14・17～21・23で、後者が13・15・16・22である。おおむね日常雑器に属する器種が多く、中近世農村における遺物組成の一端を窺うことができよう。

(川口・関口)

3-4 台渡里官衙遺跡 (台渡里第70次)

所在地 水戸市渡里町字前原 2865 番地

調査面積 68.0 m²

調査期間 平成22年10月2日～平成22年10月15日

検出遺構 溝跡1 (古墳終末期～奈良時代)

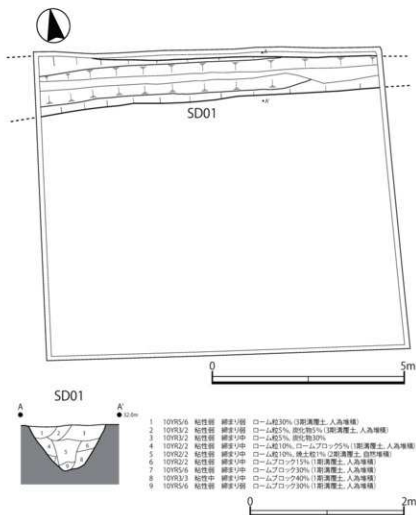
出土遺物 土師器・須恵器 (古墳時代終末期～奈良時代)

調査担当 色川順子

調査概要 埋蔵文化財に影響がある申請建物建築部分を調査対象範囲とし、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削したところ、東西方向に走る溝跡1条が検出された(第161図)。

(1) 溝跡 (SD01) 調査区の北端で検出された(第161図)。進行方向は東西を向いており、トレンチャーによる攪乱が著しく及んでおり、遺存状況は良くなかったが、上面幅1.0m～1.8m、底面幅0.15m～0.45m、深さ0.53m～0.69mを計り、断面は逆台形状を呈する。覆土は9層に分層され、その埋没状況から少なくとも3回の掘り直しが行われていることが想定され、最終埋没土(1層～3層)には炭化物が認められることから、周辺に存在した建物等が火災により焼失している可能性が考えられる。遺物は7世紀第4四半期から8世紀初頭頃の遺物が覆土中より出土していることから、7世紀第4四半期に構築され、8世紀初頭には埋没していると考えられる。現在のところ、このSD01の延長部は周辺における調査では確認されていない(第164図)。(川口)

(2) 出土遺物 第162図1～5はSD01の東区上層から出土した須恵器である。1は須恵器坏蓋のつまみ部で、環状鋸に分類されるものである。2～4は須恵器坏蓋であり、2～3は内面に短かいかりを持つものでかえりの稜はシャープである。4は端部を折り返し、外面に面を形成する形状のものである。5は長頸壺の口縁部と考えられ



第161図 台渡里官衙遺跡 (台渡里第70次) 本発掘調査区遺構配置

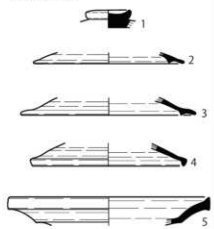


写真 195 SD01 遺構検出状況（南から）

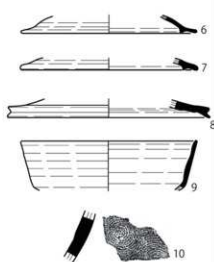


写真 196 SD01 土層断面（西から）

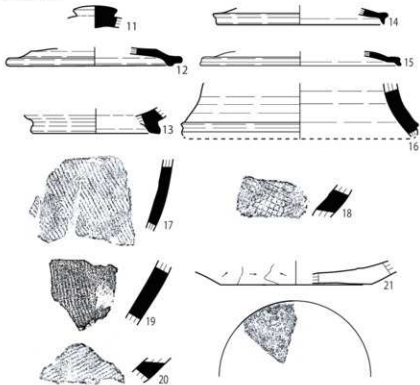
SD01 東区上層出土



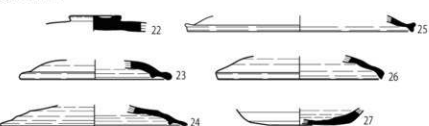
SD01 東区下層出土



SD01 西区上層出土

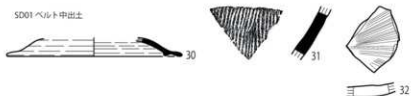


SD01 西区下層出土



第 162 図 台渡里官衙遺跡（第 70 次）SD01 出土遺物

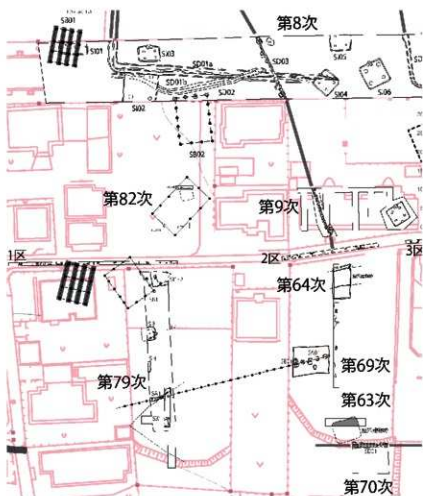
SD01-ベルト申出土



遺構確認面出土



第163図 台波里官衙遺跡(第70次)SD01及び遺構確認面出土遺物



第164図 台波里官衙遺跡(第70次)周辺における遺構の確認状況

る破片で湖西窯跡群産の可能性がある。1と3は胎土に雲母を含むことから新治窯跡群の製品とみられ、それ以外は雲母を含まないことから、2は山田窯跡群、4は山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。

6～10はSD01の東区下層から出土した須恵器で、6～8は須恵器坯蓋で、9は無台環としたが、低脚もしくは高台が付く有台環の可能性もある。10は外面に同心円文明きが施された須恵器裏である6～9は胎土に雲母を含まず、6・7は山田窯跡群、8・9は木葉下窯跡群の製品とみられる。10は胎土に雲母を含むことから新治窯跡群の製品と考えられる。

11～20はSD01西区上層から出土した須恵器と土師器である。11は須恵器坯蓋の摘まみ部で宝珠状だが、丸みを帯びているうえにかなり扁平に近い形状となっている。12～15は須恵器の坯蓋で、12は内面にかえりを持つが、かえりの稜はシャープさを失い丸みを帯びている。14は端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面上部が稜を持って突出する形状であるのに対し、15は外面に面を形成する形状のものである。13は須恵器有台環の高台部である。16は須恵器内面側の脚部片と考えられる資料で、刻線や方形透しは見られない。17～20は須恵器裏の脚部片で、17・19・20は外面に縦格子状明きが、18は正格子明きが施されている。21は土師器裏の底部片で胴部と底部の境界はヘラ削り調整が施されている。胎土に雲母を含むことから、12と20は新治窯跡群と筑波山南麓地域の製品とみられ、それ以外は雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。22～29はSD01西区下層から出土した須恵器である。22～26は須恵器坯蓋で、22は環状鈕を呈する摘まみ部である。23・24は内面にかえりを持つが、23は24に比べるとかえりの稜がシャープさを失っており、丸みを帯びている。25は端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面上部が稜を持って突出する形状のものであるのに対し、26は外面に面を形成する形状のものである。27は底部がやや突出する須恵器無台環である。28は脚付長頸壺の胴部から頸部にかけての破片である。29は須恵器裏の脚部片で、内面に同心円文の当て具痕が、外面に縦格子状明きの痕跡がみられる。胎土に雲母を含むことから、22～27は新治窯跡群の製品とみられ、それ以外は雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。

第163図30～32はSD01のセクションベルト中より出土した須恵器と土師器である。30は須恵器坯蓋で、内面にかえりを有するが、かえりの稜はやや丸みを帯びている。胎土に雲母を含むことから新治窯跡群の製品とみられる。31は須恵器裏の脚部片で外面には縦格子状明きの痕跡がみられるが、胎土に雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。32は赤褐色を呈する土師器環の底部片で、内面にはミガキ調整により放射状の暗文が描かれている。

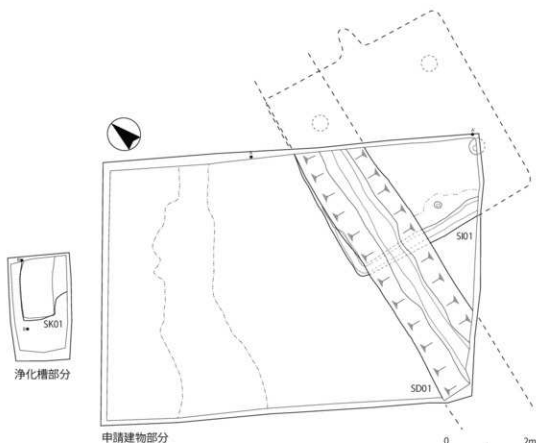
33～36は遺構確認面より出土した須恵器と土師器である。33は須恵器坯蓋で端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面上部が稜を持って突出する形状のものである。34は須恵器無台環もしくは有台環の口縁部～脚部片である。35は須恵器裏の脚部片で、内面には同心円文の当て具痕が、外面には平行明きの痕跡がみられる。33～35はいずれも胎土に雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。36は土師器の壺の口縁部～胴部上半部の破片である。(川口)

3-5 堀遺跡(第22地点第2次)

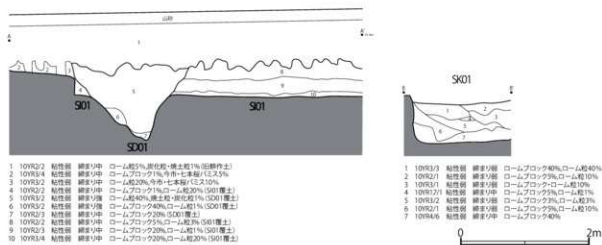
所在地	水戸市渡里町字高野台3307番20
開発面積	65.3㎡
調査期間	平成22年9月9日～10月2日
検出遺構	竪穴建物跡1(古墳終末期)、溝跡1(平安時代)、土坑1(時期不明)
出土遺物	土師器・須恵器(古墳時代終末期～平安時代)、瓦(奈良・平安時代)
調査担当	川口武彦

調査概要 埋蔵文化財に影響がある申請建物建築部分を調査対象範囲とし、関東ローマ層上面を目標に重機を用いて掘削したところ、南北方向に走る溝跡1条とそれに切られる竪穴建物跡1軒、時期不明の土坑1基が検出された(第165図)。

(1) 竪穴建物跡(SI01) 申請建物部分の北東で部分的に検出された。溝跡SD01と重複しており、SD01に切られている。東西5.7m以上、南北4.7m以上と推定され、調査区の北東隅で検出された支柱穴とみられる1基のピットと西壁の位置関係を検討すると、東西6.6m、南北7.0m程度の規模と推定される。東西の柱間は4.2m(14尺)、南北の柱間は3.3m(11尺)と推定され、南壁に近い位置に出入り口ピットとみられる直径0.2mほどのピットが検出されている。出入り口ピット周辺は硬化しており、一定程度の期間、使用されたとみられる。壁の深さは0.5～0.6mで(第166図)、壁溝が南側から南西部にかけて掘られていた。幅は0.19m～0.28mで深さは0.1mほど



第165図 掘遺跡(第22地点)本発掘調査区遺構配置

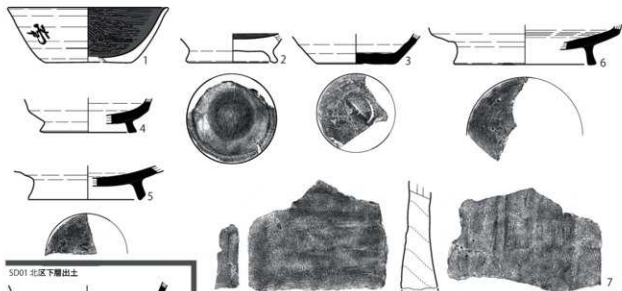


第166図 掘遺跡(第22地点)本発掘調査区土層断面

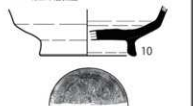
である。覆土は6層に区分され、人為堆積である。時期については、出土している土器から7世紀後半の堅穴建物跡と推定される。

(2) 溝跡(SD01) 申請建物部分の東側で検出された。SI01と重複しており、SI01の一部を壊して構築されている(第165図)。上面幅1.68m～1.88m、中面幅0.44m～0.7m、底面幅0.2m～0.4m、深さ1m～1.15mを測り、断面は築形状を呈する(第166図)。主軸方位はN-14°-Eである。覆土は3層に区分され、遺物は下層よりも上層に集中して出土した。出土遺物の技術的・形態的特徴から、9世紀第2四半期以前に構築され、9世紀第2四半期～第4四半期にかけて徐々に埋没していったと考えられる。なお、本遺構については、隣接する堀遺跡(第9地点)における既往の調査成果とも照合し、9世紀以降に造営された官衙関連施設に伴う区画溝と評価している(川口・米川・

SD01 南区上層出土



SD01 北区下層出土



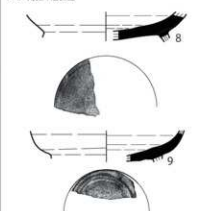
SD01 北区上層出土



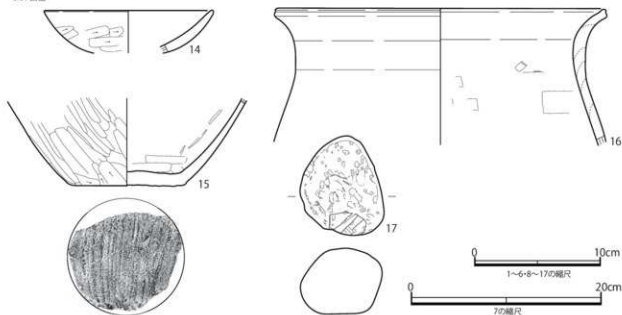
遺構確認面出土



SD01 南区下層出土



SI01 出土



第167図 掘遺跡(第22地点)出土遺物

園美・関口 2020)。

(3) 土坑 (SK01) 浄化槽埋設部分で検出された。東西 1.2m 以上、南北 1.5m 以上、深さ 0.6 ~ 0.65m である。遺物については図化に耐えうる資料はなく、構築時期は未詳である。

(4) 出土遺物 第 167 図 1 ~ 7 は S101 との重複部分よりも南側の南区上層からの出土遺物、8・9 は南区下層からの出土遺物、10 は S101 との重複部である北区下層からの出土遺物、11・12 は北区上層からの出土遺物である。

1 は内面黒色処理が施された土師器環である。内面は横位・斜位方向の細かなヘラミガキが丁寧に施されており、外面はロクロ水挽整形痕が残されている。体部外面には「南」の文字が横位方向に墨書されている。9 世紀第 3 ~ 第 4 四半期頃の製品であろう。2 は内面黒色処理が施された土師器の高台付環の底部片である。外面はロクロ水挽整形痕が遺されている。1 と同様、9 世紀第 2 ~ 第 3 四半期頃の製品であろう。3 は須恵器無台環である。内外面ともにロクロ水挽整形痕がみられ、底面と体部の部分は未調整、底面は回転ヘラ切りの後、ヘラ記号がヘラ書きされている。胎土にチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品とみられ、技術的・形態的特徴から 9 世紀第 3 四半期頃のものと考えられる。4 ~ 5 は須恵器有台環で、いずれも内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。4 は内面に降灰軸がみられ、焼成時に正位に置かれたと考えられる。5 は内面に墨の付着がみられることから、破損後に硯として再利用されたとみられる。6 は須恵器高台付盤で内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。4 ~ 6 はいずれも胎土に海綿状骨針やチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。7 は軒平瓦である。瓦当文様は剥落により欠失しているが、断面形状から直線頸で、泥条盤築技法による製品とみられる。凸面側は縦方向のヘラ削り調整が、凹面側は粘土紐のつなぎ目をナデ消す横方向のナデ調整が施されている。台渡里廃寺跡出土瓦の類例等から、3290 型式もしくは 3291 型式に分類される交差線文式軒平瓦であった可能性が高い。

8・9 は須恵器有台環である。いずれも内外面にはロクロ水挽整形痕がみられ、8 は底部に墨の付着がみられることから、破損後に硯として再利用されたとみられる。9 は底面にヘラ記号の一部が認められる。いずれも胎土にチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。

10 は須恵器有台環で、内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。内面に降灰軸がみられ、焼成時に正位に置かれたと考えられる。内面に顕著な研磨痕がみられ、破損後に硯として再利用されたとみられる。胎土に海綿状骨針やチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられ、技術的・形態的特徴から 9 世紀第 2 四半期頃の製品と考えられる。

11 は須恵器無台環である。内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。12 は須恵器甕の胴部片である。外面には幅広い平行叩き痕が、内面には当て具痕はみられない。いずれも胎土に海綿状骨針やチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。

13 は遺構確認より出土した須恵器有台環である。内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。内面に降灰軸がみられ、焼成時に正位に置かれたと考えられる。

14 ~ 17 は S101 からの出土遺物である。14 は土師器の丸底環である。外面は時計回りの方向にヘラ削り調整、内面は横位のナデ調整が施されている。15・16 は土師器甕である。15 は胴部から底部にかけての破片で、底部は細かなヘラナデ、胴部は縦位・斜位のヘラ削りが施されている。16 は口縁から胴部上半部の破片である。17 は軽石製品である。面取りのような切り欠きが下端にみられる。魚網用の浮子などであろうか。技術的・形態的特徴から 14・16 の土師器環と土師器甕は 7 世紀後半の製品と考えられる。

(川口)

第4章 開発に伴う立会調査

今年度、実施した立会調査のうち遺構・遺物が書くにされたのは2件であった。以下、遺跡毎・地点毎に報告する。

4-1 谷田遺跡（第1地点第2次）

所在地 谷田町 630-1

調査期間 平成22年11月15日

検出遺構 竪穴建物跡5（古墳時代3、平安2）

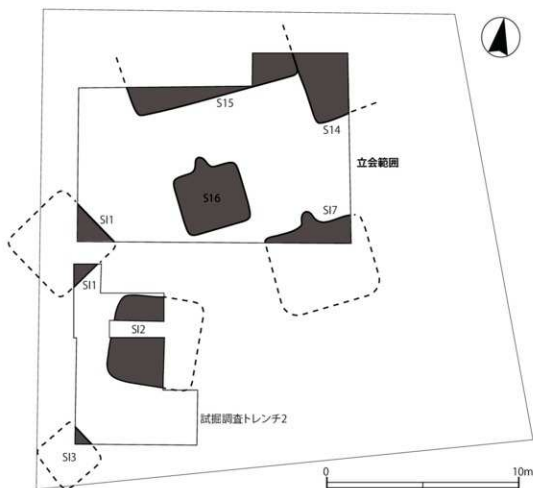
出土遺物 縄文土器（前期・中期・後期）、土師器（古墳前期・後期・終末期・平安）、須恵器（平安）、支脚（平安）

調査担当 米川暢敬

調査概要 試掘調査の結果、工事立会扱ひとした申請建物の基礎根切りの際、試掘調査で確認していたS11の延長部分が検出されたが、設計図よりも掘削深度が深く、S11以外の未確認の竪穴建物跡が他に4軒検出された。施工業者とその場で協議したが、設計変更は困難であるとの回答で、本来であれば記録保存を目的とした本発掘調査の実施が必要となる旨も伝えたが、1ヶ月以上の工事中止は現実的に困難であることから、根切りを進めながら、可能な限り遺物の回収に努めることとした。遺物を回収し、洗浄・注記・接合を行った結果、S11を含む古墳時代の竪穴建物跡3軒と平安時代の竪穴建



第168図 谷田遺跡（第1地点）の位置



第169図 谷田遺跡（第1地点第2次）で確認された遺構の配置



写真 197 S11 掘削状況 (北東から)



写真 198 S14 検出状況・S15 掘削状況 (南東から)



写真 199 S15 検出状況 (南西から)



写真 200 S16 掘削状況 (南西から)



写真 201 S17 検出状況 (北東から)



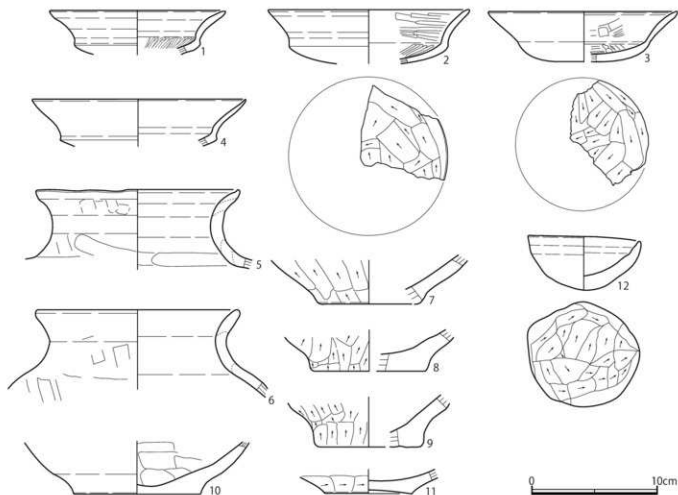
写真 202 S17 掘削状況 (北西から)

物跡が2軒重複していた可能性が高いことが判明した。

(米川)

(1) S11 出土遺物 第170図1～4は土師器の坏である。いずれも丸底と考えられ、体部に稜を有し、口縁が大きく外反する形態となる。内面は丁寧なヘラミガキ、底部外面はヘラ削りが施されている。1・3・4が橙系の色調であるのに対し、2は暗灰黄系の色調である。5～11は土師器の甕である。5～7が口縁～頸部で、8～11は底部である。外面はヘラナデやヘラ削りが施され、特に底部にはヘラ削りの痕跡が特徴的にみられる。10は被熱しており、器面の剥落が著しい。12は丸底の椀である。底部外面はヘラ削りが施されている。以上の遺物の技術的・形態的特徴から、S11は5世紀後葉～6世紀前葉くらいに帰属すると考えられる。

(2) S14 出土遺物 第171図13は弥生土器の壺形土器の口縁～頸部片である。上部は折り返し口縁状となっており、単筋RL縄文が横位に回転施文されている。その直下には板状工具で波状文と縦位区画文を描いている。十王台2b式に分類されるもので、古墳時代前期の土師器と共存するものと考えられることから、S14は古墳時代前期前葉に



第170図 谷田遺跡（第1地点第2次）S11出土遺物

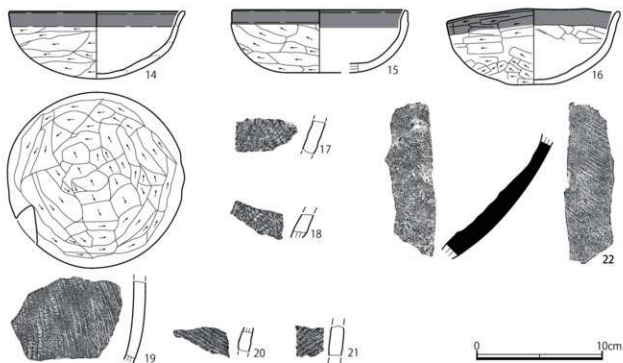
帰属する可能性がある。

(3) S15 出土遺物 第172図14～16は金属器模倣の土師器環である。いずれも底部は丸底で、外面は反時計回りの方向に丁寧なヘラ削り調整を施し、形を整えている。口縁部は外反せずに垂直に立ち上がるか、僅かに外反する。口縁の内外面には漆を塗布した痕跡が顕著に残されている。このような技術的・形態的特徴を有する土師器環は7世紀前葉に特徴的に見られることから、S15は7世紀前葉に帰属する可能性が高い。17～22はS15に伴う遺物ではないが、ここで取り扱うことにしたい。17～21は縄文土器の深鉢形土器の胴部片で、17は胎土に繊維を含むことから前期中葉の黒浜式、18は縦位の沈線文による磨り消し縄文が施されていることから、中期後葉の加曾利E式、19～21は目の細かい縄文が回転施文されており、後期前葉の堀之内式土器の粗製土器ではないかと考えられる。22は須恵器甕の胴部片で、外面には斜位の平行線文叩きの痕跡が残されており、内面には当て具痕が見られない。胎土に丸底か平底かは不明だが、丸底のものであった場合には、8世紀第1四半期～第3四半期に、平底のものであった場合には、8世紀第4四半期～9世紀第2四半期の間に位置づけられる（佐々木 2001）。

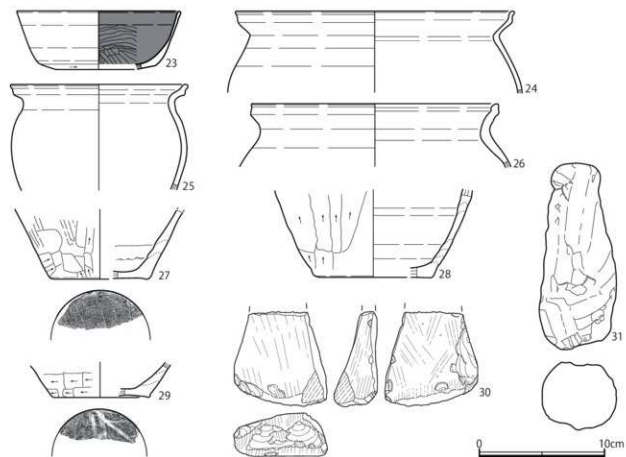
(4) S16 出土遺物 第173図23は土師器の環である。内面は丁寧なヘラミガキ調整が施された後、黒色処理が施されている。底部は時計回りの方向に回転ヘラ削り調整が施され、二次底部面を作りだしている。26～29は土師器の甕で、25～26は口縁部が残存しているのに対し、27～29は底部が残存している。ロクロ水挽成形によるもので、底部に近い胴部下半はヘラミガキやヘラ削り調整が施されている。30は砥石である。掬形を呈するもので、上半部は欠失している。左右両側面・底面には顕著な研磨の痕跡が認められる。



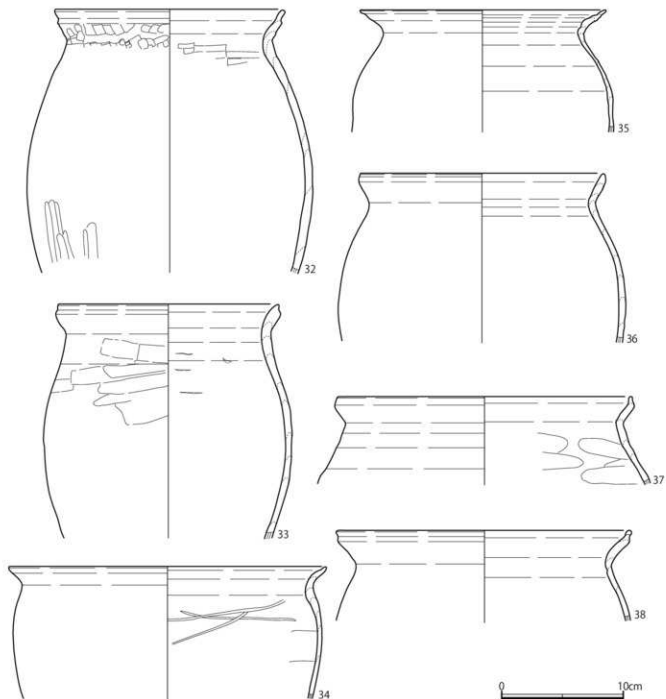
第171図 谷田遺跡（第1地点第2次）S14出土遺物



第 172 图 谷田遺跡 (第 1 地点第 2 次) S15 出土遺物



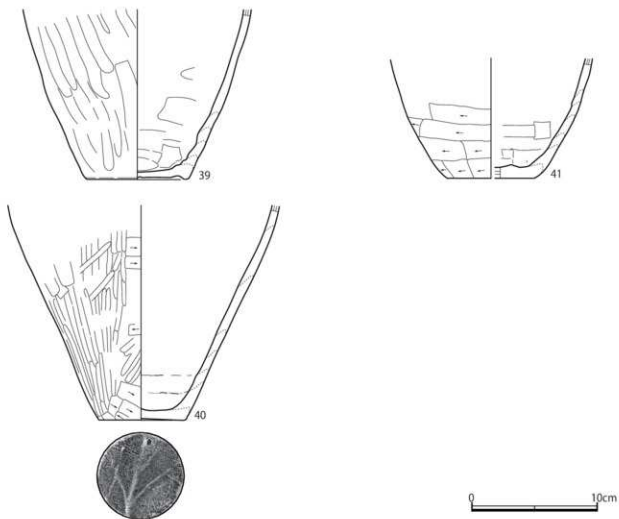
第 173 图 谷田遺跡 (第 1 地点第 2 次) S16 出土遺物



第174図 谷田遺跡(第1地点第2次)SI7出土遺物①

石材は不明だが、板状に割れる片岩系の石材である。31は土製の支脚で全面被熱している。23の環の技術的・形態的特徴からSI6は9世紀第4四半期頃に位置づけられる。

(5) SI7出土遺物 第174図32～第175図42は土師器の甕である。32～38は口縁～頸部までが残存しており、39～42は底部が残存している。ロクロ水挽成形によるもので、底部に近い胴部下半はヘラミガキやヘラ削り調整が施されている。32～36・37は9世紀の第1四半期～第4四半期のいずれかに位置づけられる可能性が高く、36・37は他のものと口唇部の断面形状が異なっており、時期がやや降る可能性がある。(米川・川口)



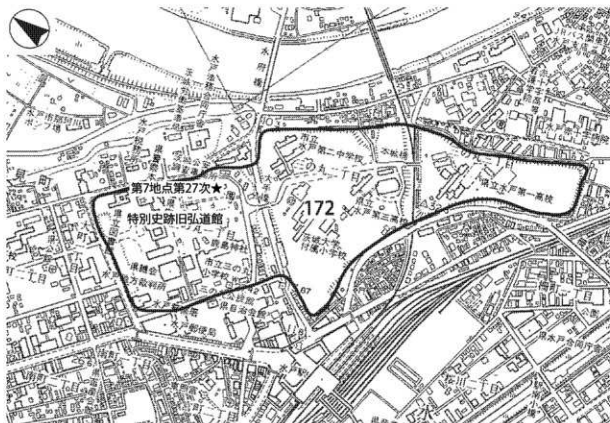
第 175 図 谷田遺跡（第 1 地点第 2 次）S17 出土遺物②

4-2 水戸城跡（第7地点第27次）

所在地	三の丸1丁目6-29（旧弘道館）
調査期間	平成23年1月12日
検出遺構	なし
出土遺物	磁器・瓦（近世）
調査担当	渥美賢吾

調査経緯 特別史跡内にある藤棚（第177図）の柱脚の根元が腐食しており、倒壊の恐れがあったため、これを除却し、新しい柱脚に取り替える工事と正門前門扉の取替え工事が計画された。当該工事は、文化財保護法施行令第5条第4項に記載されている「ハ 工作物（建築物を除く。以下このハにおいて同じ。）の設置若しくは改修（改修にあつては、設置の日から五十年を経過していない工作物に係るものに限る。）又は道路の舗装若しくは修繕（それぞれ土地の掘削、盛土、切土その他土地の形状の変更を伴わないものに限る。）」の前者に該当することから、水戸市教育委員会教育長の権限で許可を行うことが出来る現状変更であった。平成22年9月15日付公第254-1号にて特別史跡の現状変更許可申請書が水戸市教育委員会教育長へと提出され、平成22年9月29日付教文指令第47号にて現状変更の許可を受けた。現状変更工事は、平成22年10月25日から平成23年2月17日の期間に行い、工事終了後、平成23年3月7日付公第497号にて現状変更終了届が水戸市教育委員会教育長へと提出された。

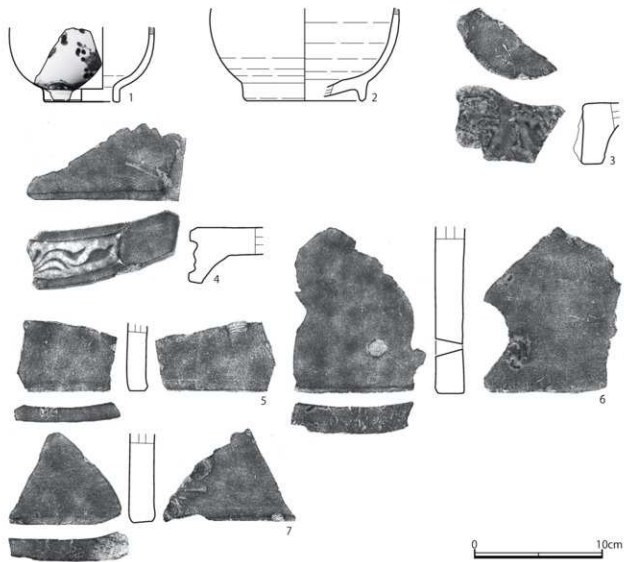
- (1) 調査の概要 藤棚の既存の柱脚のうち、掘削を伴うものが5本あり、掘削作業の際に立会調査を行った。掘削はいずれも埋設に伴う掘削内に止まっていたが、掘削土中から磁器と瓦が出土した。（渥美）
- (2) 出土遺物 第178図1は磁器の碗である。丸碗Aに分類されるもので、透明釉が掛けられ、畳付は無釉。染付で外面には折枝文、高台脇には如意頭文、高台には二重圏線が描かれている。肥前産と推定され、1680年代～1700年代の年代が与えられる。2は磁器の徳利で、逆魚形を呈するものと考えられる。透明釉が掛けられ、畳付は無釉、内面も無釉である。外面は高台内に白泥が全面に塗布され、文様は描かれていない。高台内にはハリ痕が1箇所認められ、内面には砂の付着が認められる。七面製陶所産と推定され、1838（天保9）年以降の年代が与えられる。胎土は極めて良質で、いわゆる「精製七面焼」（岡口・渥美・米川編 2017）に分類されるものである。3・4は小丸軒杭瓦である。いずれも板作り・型当て・型押し成形によるもので、煙しがある。3は小丸瓦当部を欠



第176図 水戸城跡（第7地点第27次）の位置



第177図 水戸城跡（第7地点第27次）立会箇所の位置



第178図 水戸城跡（第7地点第27次）出土遺物

損している。いずれも生産地は不明だが、1841年前後以降の年代が推定される。5・7は板状の瓦で、いずれも板作り・型当て成形によるもので、燻しがある。端面に刻印「丸に安」が押印されている。こうした端面に刻印「丸に安」が押印されている瓦は、特別史跡旧弘道館内において実施した水戸城跡（第7地点第13・15次）や水戸市立第二中学校の校舎建替工事に伴う発掘調査（第4地点第6次・18次）においても出土が確認されている（川口・色川編 2010）。6は平瓦で、板作り・型当て・型押成形によるもので、燻しがある。5・7と同様に生産地は不明だが、1841年前後以降の年代が推定される。

（渥美・関口）

第5章 開発に伴う現地踏査

国指定史跡「愛宕山古墳」、国指定史跡「台渡里廃寺跡」、四又入窯跡、藤井町遺跡において現地踏査を行った際、遺物が採集された。以下、遺跡毎に報告する。

5-1 愛宕山古墳

所在地 水戸市愛宕町 2133 外

踏査日 平成 22 年度

採集経緯 墳丘上に樹立している危険木の現況確認に伴う踏査。

採集者 渥美賢吾

採集遺物 第 179 図 1 は愛宕山古墳で採集された円筒埴輪片である。外面には M 字形の低凸帯を貼り付けており、凸帯より上部には縦方向の刷毛目が観察される。内面は横方向のナデ調整が施されている。凸帯の下部には方形の透孔の痕跡が認められる。(川口)



第 179 図 愛宕山古墳採集遺物

5-2 台渡里廃寺跡(観音堂山地区)

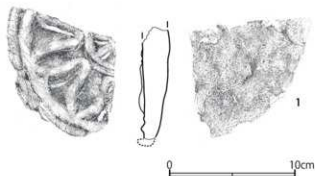
所在地 水戸市渡里町字アラヤ前 2973-3

踏査日 平成 22 年 5 月 21 日

採集経緯 史跡指定地の現況確認に伴う踏査。

採集者 川口武彦

採集遺物 第 180 図 1 は観音堂山地区の指定地内にある中門付近で採集された軒丸瓦である。瓦当面径 1/4 程度の破片であり、瓦当文様では外区外縁と中心蓮子の部分を欠失している。また、丸瓦部も欠失している。周縁蓮子は扇状を呈し、剣状の花弁とサメの歯状の間弁は丸みを帯びている。それぞれの部位の形状及び瓦当文様構成の特徴から 3127A 型式(川口・渥美・木本編 2009)と考えられる。(川口)



第 180 図 台渡里廃寺跡採集遺物

5-3 四又入窯跡群

所在地 水戸市木葉下町 271 付近墓地

踏査日 平成 22 年度

採集経緯 埋蔵文化財包蔵地の現況確認に伴う踏査。

採集者 渥美賢吾

採集遺物 第 181 図 1・2 は採集された須恵器である。1 は、坏蓋である。摘まみ部や端部を欠失しているが、2 の有台環の口径と近い大きさとみられることから、有台環の蓋である可能性が高い。

2 の有台環は口縁部を欠失しているが、高台の形状から佐々木義則氏による木葉下窯跡群産須恵器有台環の分類(佐々木 2013)の C1 類に分類されるもので、8 世紀第 2 四半期～第 3 四半期頃に位置づけられるものである。(川口)



第 181 図 四又入窯跡群採集遺物

5-4 藤井町遺跡

所在地 水戸市藤井町地内

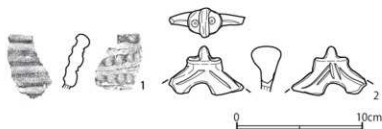
踏査日 平成22年度

採集経緯 開発行為に伴う現地踏査。

採集者 渥美賢吾

採集遺物 第182図1・2は採集された縄文土器である。1は加曾利B式の粗製深鉢形土器である。外面には横走る細い沈線を巡らし、その間に隆帯を貼り付け、指頭を押しつけて連続する押圧隆帯が施されている。内面には5mm幅の

横走る沈線が3条巡らされている。2は加曾利B1式新段階の3単位の把手を持つ精製深鉢形土器である。外面中央には2対の弧線文が配置され、それに向かう長い弧線文が描かれている。内面にも同様の長い弧線文が描かれており、丁寧に磨きが施されている。把手部分は楕円形を呈し、中央に半円状の突起を配置し、左右に直径4.5mm程度の竹管状工具で円形の刺突文が配置されている。



第182図 藤井町遺跡採集遺物

(川口)

第7表 土器・陶磁器・瓦・土製品・ガラス製品観察表

図版番号	遺跡名(地点名・次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・年代等
				口径	底径	器高						
4	金剛寺遺跡(第8地点)	トレンチ1・溝跡	土器・不明	—	—	(2.0)	轆轤成形/外面に櫛目(5本以上)/土師質	—	砂粒(白多・透少)	良好	2.5Y5/2(暗灰黄)	産地不明 近世以降
13	大井古墳群(第1地点第2次)	トレンチ1	縄文土器・深鉢	—	—	(3.6)	外面には水平方向と垂直方向の隆帯を貼り付け、水平方向の隆帯上による櫛目、内面には貝殻層緑による条痕文	—	砂粒(白多・透多)	良好	5YR6/6(橙)・5YR7/8(橙)	早期後半
			弥生土器・壺	—	—	(2.9)	上部には4条単位の歯状工具による波状文、下部には回転施文による附加条状文	—	砂粒(白・透)	良好	7.5YR7/6(橙)・10YR7/4(にぶい黄橙)	後期(十王台式)
3	トレンチ1・地下式坑覆土上層	土師器・高台付椀	—	—	(2.3)	轆轤成形/高台部屈付/底部回転糸切り	—	砂粒(白多・透多)	良好	10YR4/2(灰黄橙)	9世紀第4四半期	
4		土師器・椀	(14.1)	6.4	4.3	轆轤成形/底部回転ヘラ切り	55	砂粒(白多・黒・透)	良好	10YR7/4(にぶい黄橙)	10世紀第1四半期	
5	トレンチ1	丸瓦	全長(4.7)	厚さ2.1	重量180g	凸面平行叩き後、ヘラ削り、凹面布目無段式の狭強帯部	—	砂粒(白多・透多)	堅緻	2.5Y5/2(暗灰黄)	奈良	
6	トレンチ1・地下式坑床面	陶器・天目茶碗	11.8	4.4	6.1	轆轤成形/削り出し高台/光沢のある茶色の鉄軸、体部下半は鉄胎	99	砂粒(白多)	硬質	2.5Y4/3(オリーフ緑)	15世紀末~16世紀初頭(大室4期末頃)	
7	トレンチ1・地下式坑覆土上層	陶器・甕	—	(16.4)	(3.0)	轆轤成形/底部のみ残存/内面見込み櫛目	—	砂粒(白多)	硬質	2.5Y4/3(オリーフ緑)	常滑中世末	
16	渡里町遺跡(第11地点)	トレンチ2	平瓦表土	全長(7.4)	厚さ2.4	重量224g	凸面正格子叩き、凹面布目、輪巻き作りカ	—	砂粒(白・赤・透)	普通	10YR7/3(にぶい黄橙)	奈良・平安
		トレンチ1	土師質土器・土鍋	(25.0)	—	(3.5)	轆轤成形/外面ローラー文	—	砂粒(白多・透)	良好	5YR4/6(橙)・5YR6/6(橙)	在地産カ 近世
		瓦質土器・火鉢	(21.4)	—	(4.3)	轆轤成形	口径16	砂粒(白多・透)・骨針	良好	7.5Y4/1(灰)・7.5Y3/2(オリーフ黒)	在地産カ 近世	
		瓦質土器・火鉢	—	(16.5)	(4.1)	轆轤成形/底部糸切りヘラナデ	底径23	砂粒(白多・透)	良好	7.5Y4/1(灰)・7.5Y3/2(オリーフ黒)	在地産カ 近世	
		トレンチ2	磁器・小杯・薄手酒杯	(7.0)	—	(2.4)	轆轤成形/透明釉	—	—	—	—	瀬戸・美濃 1820年代以降
		磁器・碗・型紙給付椀	(12.0)	—	(3.7)	轆轤成形/型紙給付/外面菊文・花卉文、内面口縁部環塔文	—	—	—	—	—	産地不明 1870年代~
		磁器・湯飲み碗カ	(7.8)	—	(5.5)	轆轤成形/給付(赤・黒)、口縁/外面枝に花吉文、内面流詩文、内外面貫入あり	—	—	—	—	—	産地不明 近代
19	渡里町遺跡(第12地点)	トレンチ一括	須臾器・有台杯	—	7.8	(2.3)	内外面口クロ水挽整形	底径56	砂粒(白多・黒多)・骨針	堅緻	5Y5/1(灰)・5Y4/1(灰)	木下2層跡 8世紀末
		トレンチ一括	須臾器・杯蓋	(18.0)	—	(2.9)	内外面口クロ水挽整形	口径15	砂粒(白多・黒多・透)	堅緻	10YR6/1(褐灰)	木下2層跡 8世紀末
		最南端東側住居覆土	土師器・甕	(16.8)	—	18.0	口縁内外面横ナデ、胴部内面横ナデ、外面縦ヘラ削り	口径23	砂粒(白・透多)	普通	10YR5/3(にぶい黄橙)・7.5YR7/6(橙)	7世紀後半

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
34	1	台渡里官 衙遺跡(台 渡里第66 次)	トレンチ2	須恵器・环 蓋	最大径 3.4	—	(1.0)	擬扁平宝珠状 紐	—	砂粒(白 多・黒)	堅緻	2.5Y5/1(灰)	木下遺跡前 8世紀前半
37	1	台渡里官 衙遺跡(台 渡里第67 次)	トレンチ1	縄文土器・ 深鉢	—	—	(4.9)	上部は無文帯、 中央部に横走す る隆帯を1条貼 付け、隆帯の下 半には単節LR 縄文を回転施文	—	砂粒(白・ 骨針)	普通	7.5YR7/6(橙)	中期後葉 加曾川B4式
2	須恵器・环 蓋			(15.0)	—	(2.1)	内外面ともにロク ロ水挽整形。端部 は平や内反、内面 に隆帯を貼り付け かまりを作り出す	5	砂粒(透 多・白・ 黒)	良好	5Y6/1(灰)	新治遺跡前 7世紀第 4四半期	
3	須恵器・円 面硯			—	(18.0)	(3.2)	ロクロ水挽整形に よる中央に横走す る隆帯を貼り出 し、その上に0.7 ~1.0cmの感度 で幅1mmほどの 縦方向の切り込み を連続的に施す	底径 13	砂粒(白 多)	堅緻	5Y8/1(灰白)	産地不明	
40	1	台渡里官 衙遺跡(台 渡里第72 次)	トレンチ1	土師器・高 台付椀	(12.8)	—	(4.8)	内外面ともにロ クロ水挽整形 形	口径 5	砂粒(白 多・透) 骨針	良好	10YR6/6(明 黄緑)	10世紀前半
43	1	台渡里官 衙遺跡(台 渡里第74 次)	トレンチ4 遺構確認面	須恵器・横 瓶カ	—	(5.6)	(2.8)	底部・体部外面 は回転へら削 り、内面はロク ロ水挽整形形	—	砂粒(白 多・透・ 黒多)	堅緻	5Y7/1(灰)	産地不明 7世紀後葉
2	須恵器・甕			—	—	(4.9)	外面平行明 き、内面は当 て具痕なし	—	砂粒(白 多・骨針)	堅緻	7.5Y6/1(木)	木葉下窯 跡群	
49	1	台渡里官 衙遺跡(台 渡里第76 次)	トレンチ1	土師器・無 台杯	—	(8.2)	(1.2)	内外面ともに ロクロ水挽整 形後、内面を 丁寧な磨きに よる黒色処理	—	砂粒(白)	良好	7.5YR6/6(橙) 7.5YR2/1(黒)	9世紀第2~ 第3四半期
2	土師器・高 台付椀			—	—	(1.4)	内外面ともに ロクロ水挽整 形	—	砂粒(透・ 金)	良好	7.5YR7/6(明 褐)	10世紀後葉 ~11世紀 前半葉	
3	土師器・小 皿			—	(5.2)	(0.8)	内外面ともに ロクロ水挽整 形。底部は回 転糸切り	22	砂粒(透 多・赤)	普通	7.5YR7/6(橙)	11世紀前半	
4	須恵器・甕			—	—	(5.0)	外面平行明 き、内面は当 て具痕なし	—	砂粒(白 多・黒多・ 黒)	良好	2.5Y5/1(黄灰)	9世紀中葉 ~後葉	
52	1	台渡里官 衙遺跡(台 渡里第78 次)	トレンチ1 溝掘り土面	土師器・高 台付椀	(10.1)	—	(3.1)	外面ロクロ水 挽整形痕、内 面は横方向の ミガキ調整後、 内面黒色処理	—	銀 砂粒 (透・黒)	良好	7.5YR7/6(橙) 5Y2/1(黒)	10世紀後葉 2と同一箇 体カ
2	土師器・高 台付椀			—	—	(1.4)	外面ロクロ水 挽整形痕、内 面は縦・斜め 方向のミガキ 調整後、内面 黒色処理	—	銀 砂粒 (透・黒)	良好	7.5YR7/6(橙) 5Y2/1(黒)	10世紀後葉 1と同一箇 体カ	
3	トレンチ3 確認面		土師器・甕	—	(5.2)	(4.2)	底部・内面は 丁寧なミガキ 調整。胴部外面 は斜め方向の へら削り	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7.5YR6/6(橙)	奈良・平安	
4	平瓦		全長 (10.3)	厚さ (1.8)	重量 160g	—	—	粘土板編巻き作 り。凹面は布目 圧痕、側面はへ ら削り。凸面は 正格子明き	—	砂粒(白・ 5mm大砂 粒)	良好	5Y7/2(灰白)	奈良
5	平瓦		全長 (7.0)	厚さ (2.2)	重量 129g	—	—	粘土板編巻き作 り。凹面は布目 圧痕、側面はへ ら削り。凸面は 正格子明き	—	砂粒(黒・ 透)	良好	5Y7/1(灰白)	奈良

図版	番号	遺跡名 (地名・次)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高	口径	底径						
55	1	台渡里官 衙遺跡(台 渡里第 80 次)	トレンチ 3	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(9.5)	地文に単節縄文を 回転施した。底 縁・縁・斜方向の区 画で区画。口内面 には粘土層を横位に 貼り付け、顔面に押 圧しジグザグの口 縁部を作り出す。内 面は横方向の丁寧 なナデ調整。	—	金・砂粒(白 多)・チヤ ー ト磁	良好		5YR6/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	後期 加曾利 B 式	
				縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(5.6)	胴部下半は地文に 単節縄文を回転施 した。斜方向の区 画で区画。上部には 横位の帯を貼り付 け、顔面を僅す。 内面は横方向の丁寧 なヘラミカ。	—	金・砂粒 (白多・透 多)・チヤ ー ト磁	良好		5YR6/6 (橙) 10YR6/4 (に ぶい黄橙)	後期 加曾利 B 式	
				縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(8.6)	胴部上半は地文に 単節縄文を回転施 した。斜方向の区 画で区画。下半 斜方向のヘラ削り。内 面は横方向の丁寧 なナデ調整。	—	金・砂粒(白 多・透) ・ 赤	良好		7.5YR7/4 (に ぶい橙) 10YR6/4 (に ぶい黄橙)	後期 加曾利 B 式	
				縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(4.6)	胴部は地文に単節 縄文を回転施した 後、斜方向の区 画で区画。内面は 横方向の丁寧なナ デ調整。	—	金・砂粒(白 多・透)	良好		10YR4/1 (褐 灰) 7.5YR5/3 (に ぶい黄)	後期 加曾利 B 式	
	2	トレンチ 1		縄文土器・ 粗製深鉢	—	5.1	(3.3)	胴部外面は丁寧な ナデ調整。内面は 同心円状にヘラナ デ調整。底面はヘ ラ削り。ナデ調整。	底径 100	金・砂粒(白 多・透)	良好		7.5YR5/4 (に ぶい黄) 10YR5/4 (に ぶい黄)	後期 加曾利 B 式	
				平瓦	全長 (7.2)	厚さ 1.5	重量 68g	粘土板編巻き作 り。凸面は布目 肌。凸面は目の 太さほぼ均等。	—	砂粒(白・ 透)	良好		2.5Y8/3 (淡黄)	縄文時代 7 世紀後半 ～ 8 世紀初頭	
				平瓦	全長 (7.8)	厚さ 1.6	重量 113g	足象徴装法。凸 面は輪郭凸縁と 斜方向のナデ調整。 側面はナデ調整。 凸面は縄目。	—	砂粒(白・ 透)・青針	良好		2.5Y6/2 (灰黄)	縄文時代 9 世紀第 3 四半期以降	
				平瓦	全長 (16.1)	厚さ 2.0	重量 588g	粘土板編巻き作 り。凸面は布目 肌。凸面は正巻 子肌。横位に ヘラ削り・ヘラナ デ調整。凸面は ヘラ削り。	—	砂粒(白・ 透・黒) ・ 5mm 大砂 粒	堅緻		5Y7/1 (灰白)	奈良時代	
				平瓦(熨斗 瓦カ)	全長 (8.5)	厚さ 1.7	重量 127g	粘土板一枚作り。 凸面は布目肌。側 面は布目肌。凸 面はヘラ削り。	—	砂粒(白多 透)・4mm 大砂粒	堅緻		5Y6/1 (灰)	奈良・平安 時代	
				平瓦	全長 (12.5)	厚さ 2.4	重量 494g	粘土板一枚作り。 凸面は布目肌。側 面は布目肌。凸 面は縄目。	—	砂粒(白・ 透)・赤・黒 ・ 2～3mm 大砂粒	良好		10YR8/3 (浅 黄橙)	平安時代	
				平瓦	全長 (9.0)	厚さ 2.0	重量 195g	粘土板一枚作り。 凸面は布目肌。側 面は布目肌。凸 面は縄目。	—	砂粒(白多 透)	良好		2.5Y7/4 (浅黄)	奈良時代	
				平瓦(熨斗 瓦カ)	全長 (7.7)	厚さ 1.4	重量 103g	粘土板一枚作り。 凸面は布目肌。側 面は布目肌。凸 面は縄目。	—	砂粒(白多 透)	良好		5Y6/1 (灰)	奈良時代	
				平瓦	全長 (10.2)	厚さ 2.4	重量 207g	凸面は布目肌。側 面は布目肌。凸 面は縄目。	—	砂粒(白多 透)	良好		2.5Y6/3 (に ぶい黄) 2.5Y6/4 (に ぶい黄)	奈良時代	
				平瓦	全長 (5.4)	厚さ 1.6	重量 80g	粘土板一枚作り。 凸面は布目肌と 糸切り肌。凸面は 縄目。	—	砂粒(白多 透)	良好		5Y5/1 (灰)	奈良時代	

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次数)	出土位置	種別・器形		法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高							
56	15	台渡里官 衙遺跡(台 渡里第 80 次)	トレンチ 1	平瓦	全長 (4.7)	厚さ 2.0	重量 65g	残端部の隅か粘土 板一枚作り、凹面は 布目瓦風、凸面は側 面方向の縞押き	—	砂粒(白 多・透多) 3mm 大砂 礫	良好	2.5Y6/2 (灰黄)	平安時代カ	
	16		トレンチ 2	平瓦	全長 (9.3)	厚さ 2.1	重量 151g	粘土板一枚作り、凹 面は布目瓦風と、側 面方向の未切り瓦、 凸面はナデ調整	—	砂粒(白 多・透多)	良好	5Y6/1 (灰)	平安時代カ	
	17		トレンチ 1	平瓦	全長 (6.5)	厚さ 2.0	重量 65g	粘土板一枚作り、凹 面・凸面・側面・ 端部・凸面ともに ヘラ削り調整	—	砂粒(白 多・透) 2mm 大砂 礫	堅緻	5Y5/1 (灰)	平安時代カ	
	18		丸瓦	全長 (12.4)	厚さ 2.5	重量 674g	一本の稜角を用いた 粘土板巻き作り、 凹面は布目瓦風と輪 格み瓦、下端面はヘ ラ削り、側面・凸端 面はヘラ削り、凸面 は下端面は稜角のヘ ラ削りで中部から上 部は稜角のナデ調整	—	金・砂粒(白 多・透) 4mm 大砂 礫	良好	2.5Y7/2 (灰黄)	奈良時代		
	19		丸瓦	全長 (13.1)	厚さ 1.6	重量 238g	一本の稜角を用いた 粘土板巻き作り、 凹面は布目瓦 風と輪格み瓦、下端 面はヘラ削り、凸面 は稜角のナデ調整	—	砂粒(黒・ 白多・透)	堅緻	5Y6/1 (灰)	奈良時代		
61	1	釜神町遺跡 (第 5 地点)	トレンチ 1 一括	縄文土器・ 深鉢	—	—	—	胴部、單周 LR 縄文が縦位方 向に回転施文。	—	砂粒(白多・ 透)・骨針	普通	10Y8/4/2 (灰黄) 10Y8/6 (明黄)	中期後半	
	2		磁器・小碗・ 腰部丸形	7.1	3.8	4.7	轆轤成形/染付・ 管付無輪/削り出し 高台/外面施文	80	—	—	—	肥前産 18 世紀～		
	3		磁器・碗・ 半球碗 C	—	(4.0)	(3.15)	轆轤成形/染付・ 管付無輪/外面施 文、高台部一重 履版	—	—	—	—	肥前産 1750 年代～ 1860 年代		
	4		磁器・皿カ	—	5.8	3.2	轆轤成形/色絵(青・ 緑・黒)・管付無輪 /内面竹に書文	—	—	—	—	産地不明 近代		
	5		磁器・碗・ 不明	—	4.2	2.8	轆轤成形/透明 輪・管付無輪/ 高台内に輪下墨 書で「三」	—	—	—	—	産地不明 近代		
	6		陶器・土瓶 蓋	最大径 9.0	受部径 6.3	(1.9)	轆轤成形/組み・受 部取付(組み欠損) /上面鉄軸、下面鉄 軸、上面糸目、受部 内中央取誤「茶」	80	—	—	—	—	瀬戸・美濃 近世	
	7		筒軸土器・ 費カ	(14.8)	—	(2.9)	轆轤成形/内 外面鉄軸/折 縁	—	—	—	—	—	在地産カ 近代カ	
	8		土器・人形 (鏝)	最大長 (5.1)	最大幅 (1.6)	(2.3)	型押成形、左右合 わせ/胎土白色、 表面にキラ多量 付着	—	—	良好	—	—	産地不明 近世以降	
	9		土器・サナ	最大径 (11.0)	最大長 (3.7)	重量 70g	型押成形/燒出面 厚さ 5mm 所収右、 下部・上部ともに 灰付着	45	砂粒(白 多・透)	良好	5Y8/8 (明黄)	—	産地不明 近世～近代	
	10		磁器・皿カ	(7.8)	(3.2)	1.9	轆轤成形/色絵 (青・緑・黒)・ 管付無輪/内面 竹に書文	40	—	—	—	—	産地不明 近代	
	11		磁器・碗・ 絞刺陶器	—	3.8	(4.9)	轆轤成形/白瓷 塗布の上に透明輪 或説に絞刺番号「 52」(ゴム判)	—	—	—	—	—	美濃 1941 年～ 1945 年 戦時統制期	
64	1	釜神町遺跡 (第 24 地点)	トレンチ 1 攪丸	陶器・焼締 陶器皿	(7.5)	3.3	1.6	轆轤成形/鉄軸・ 外面輪拭取/内 面見込み輪ハキ 痕あり	40	—	—	—	七重製陶所 (精製七曲焼) 1838 (天保 9) 年以降	
	2		磁器・皿・ コバルト染 付皿	(13.8)	(7.8)	2.6	轆轤成形/コバル ト染付・管付無輪/ 内面硝子文・書文、 外面台盤一重履版	—	—	—	—	産地不明 1870 年代～		

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等		
					口径	底径	器高								
64	3	釜神町遺跡 (第24地点)	トレンチ1 横溝	陶器・段重	—	(8.5)	(3.6)	轆轤成形/鉄軸	—	—	—	—	瀬戸・美濃高台 近世以降		
				陶器・皿・ 不明	—	(5.6)	(1.6)	轆轤成形/白泥/ 削出高台, 貫入あり	—	—	—	—	瀬戸・美濃高台 近世以降		
				陶器・徳利	2.5	最大径 15.8	(13.0)	轆轤成形/灰釉/ 削出高台, 口縁 部玉縁状	—	—	—	—	—	七瀬窯所(福 賀七瀬焼) 1838(天保9) 年以降	
				陶器・片口 鉢	14.6	9.5	7.6	轆轤成形/灰釉/口 縁玉縁状, 削出高台, 内面見込み目皿(8 箇所あり), 底/目高 台(無軸), 高台に墨 書あり	100	—	—	—	—	産地不明 19世紀以降	
				土器・鉢カ・ 土師質	(27.0)	—	(4.8)	轆轤成形/折 縁	—	—	—	—	—	—	産地不明 近世以降
				磁器・碗・ コバルト染付碗	11.8	4.5	5.7	轆轤成形/コバルト 染付, 背付無軸/黄文に 島, 高台輪一重無軸, 高台唇面又, 高台内一 重無軸, 底蓋部/角皿	70	—	—	—	—	—	産地不明 1870年代~
				磁器・碗・ コバルト染付碗	10.0	3.6	4.7	轆轤成形/コバルト 染付/吹部, 背付 無軸/外面花卉文	70	—	—	—	—	—	産地不明 近代後期 (20世紀~)
				磁器・碗・ コバルト染付碗	(11.4)	(2.4)	5.7	轆轤成形/コバルト 染付, 背付無軸/外面 黄文, 高台輪一重無 軸又, 高台内一重無 軸	—	—	—	—	—	—	産地不明 近代後期 (20世紀~)
				磁器・碗・ 統制陶器	10.9	5.0	5.8	轆轤成形/白泥塗 布の上に透明釉/ 口, 外底一重無軸底 面施, 口内面	100	—	—	—	—	—	美濃か 1941年~ 1945年 戦時統制期
				磁器・徳利・ コバルト染付	(2.6)	5.8	15.7	轆轤成形/コバルト 染付/背付無軸・削出高 台/口縁玉縁状, 外面 作に黄文, 底蓋部(葉 山)上起付(黒)	90	—	—	—	—	—	産地不明 近代後期 (20世紀~)
				陶器・踏鉢	—	(13.2)	(4.5)	轆轤成形/コバルト 染付/背付無軸/内 面黄文・島文, 外 面高台輪一重無軸	—	—	—	—	—	—	産地不明 1870年代~
				磁製品・ミ ニチュア碗	2.4	0.9	0.9	轆轤成形/コバルト 染付, 背付無軸/黄文に 島, 高台輪一重無軸, 高台唇面又, 高台内一 重無軸, 底蓋部(口)	100	—	—	—	—	—	産地不明 近代以降
				ガラス製品・ 化粧クリーム壺	3.1	2.5	2.9	型吹き成形/乳白 色/底蓋部削(18)	100	—	—	—	—	—	産地不明 近代
				ガラス製品・ 化粧クリーム壺	3.3	3.3	3.5	型吹き成形/乳白 色/ネジ口	100	—	—	—	—	—	産地不明 近代
磁器・小壺	2.2	2.5	4.1	轆轤成形/無軸/底 部(最 別「MADE IN JAPAN」, 削部から割 破おぼろげに付着)	100	—	—	—	—	—	産地不明 近代				
ガラス製品・ 薬瓶	1.1	36×28	9.3	型吹き成形/無色透明/ 口縁部, 底面に深彫ラ ズラム痕「RADILU」, 底蓋部削(平底)	100	—	—	—	—	—	産地不明 近代				
ガラス製品・ 薬瓶	0.9	2.8	6.7	型吹き成形(筒り型) /無色透明/コルク 栓, 外面に目盛り彫	100	—	—	—	—	—	産地不明 近代				
75	1	環遺跡 (第14地点)	第1次調査 表面採集	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.2)	口縁部に切込み, 直下に角神文が 施紋されている	—	銀・砂粒 (白多)	良好	5YR5/6(明赤褐)	中期中葉 阿玉台1b式		
			第1次調査 トレンチ一系	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.4)	胴部に濃糸文が 縦位に回転施紋 されている	—	銀多・砂粒 (白多)	良好	10YR5/6(明黄褐) 10YR4/1(褐灰)	中期後葉 加曾利E1式		
			縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.8)	胴部に単筋RL縄 文が縦位に回転 施紋されている	—	金・砂粒(白 多・透多)	良好	10YR6/4(にぶ い黄褐)	中期後葉 加曾利E式も しくは大木式			
			縄文土器・ 深鉢	—	—	(1.7)	胴部に単筋LR縄 文が縦位に回転 施紋されている	—	砂粒(白多・ 赤)	良好	2.5YR5/6(明 赤褐)	中期後葉 加曾利E式も しくは大木式			

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等		
				細別	口径	底径	器高										
75	5	圩道跡 (第14地点)	第1次調査 トレンチ1番	縄文土器・ 深鉢	—	—	(4.2)	外面に単層LR縄 文が縦位に回転 施されている	—	金・砂粒(白 多)	良好	2.5Y4/2(暗灰黄)	中期後葉 加曾利E式も しくは大式				
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.8)	外面に単層LR縄 文が縦位に回転 施されている	—	黒・砂粒(白 多)	良好	2.5B6/3(灰黄)	中期後葉 加曾利E式も しくは大式				
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.4)	腹部に単層LR縄 文が縦位に回転 施されている	—	砂粒(白多)	良好	7.5YR7/6(橙) 2.5Y7/4(浅黄)	中期後葉 加曾利E式も しくは大式				
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	外面に染線が同 位に施されている	—	金・砂粒(白 多)	良好	7.5YR6/6(橙) 7.5YR4/3(褐)	中期後葉 加曾利E式も しくは加型E式				
				須恵器・無 台杯	—	(9.0)	(4.0)	内外面ともにロ ク口水後整形、 底部は未調整	—	砂粒(白多) 骨針・6mm 大の礫	良好	5Y5/1(灰)	木曜・9世紀 9世紀以降				
				土師質土器・ 内耳土鍋	(28.0)	—	(3.8)	内外面ともにロ ク口水後整形、 外面に塗行着	—	砂粒(白多)	良好	10YR2/1(黒) 10YR6/4(黄橙)	中世				
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.2)	口縁部無文直下に二条 の縦走する染線を描き、 その間に連続する 卵み目を施す。下平に は単層LR縄文が回転 施されている	—	金・砂粒(白 多・透)・ 骨針	良好	2.5Y2/1(黒)	中期後葉 加曾利E2式 透気文系土器				
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.8)	口縁部直下、平円形の 位置文が描かれ、口縁 部には卵み目が施され ている	—	黒・砂粒(白 多・透)	良好	5YR6/6(橙) 7.5YR4/3(褐)	中期後葉 曾利式カ				
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.2)	単層LR縄文を回転施 した後、縦走する 染線により覆り滑して いる	—	砂粒(白多・ 透)	良好	5YR6/6(橙) 10YR4/4(灰黄)	中期後葉 加曾利E2式 ～E3式				
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	単層LR縄文を回転施 されている	—	金・砂粒(白 多・透)	良好	5YR3/3(赤赤期) 5YR4/6(赤灰)	中期後葉 加曾利E式も しくは大式				
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.6)	外面に染線が 縦位に施され ている	—	金・砂粒(白 多・透)	良好	2.5YR6/8(橙) 7.5YR4/2(灰黄)	中期後葉 加曾利E3式 もしくはE4式				
				土師器・甕	—	—	(2.9)	外面に横け目調整、 内面は横位のナ デ調整	—	砂粒(白多・ 透)	良好	5YR6/8(橙) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代 前期				
				土師器・甕	—	(3.7)	(3.4)	外面はヘラ削り 後、ナデ調整	—	砂粒(白多・ 透) やや 軟質	良好	10YR7/4(灰黄) 5YR7/6(橙)	古墳時代 以降				
				78	1	圩道跡 (第16地点)	トレンチ1 SD01	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	単層LR縄文を縦位に 回転施した後、2条 の染線が滑りした区 画を滑り込している	—	砂粒(透) 黒・金	良好	10YR7/4(灰黄) 2.5YR7/4(浅黄)	中期後葉 加曾利E式も しくは大式
								縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.9)	染線を縦り付け滑気 文を滑り込している	—	砂粒(白多・ 黒・透)・金	良好	10YR6/3(灰黄) 10YR7/4(明黄)	中期後葉 加曾利E2式
								縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.0)	単層LR縄文を 縦位に回転施 されている	—	砂粒(透多 白・黒)	良好		中期後葉 加曾利E式も しくは大式
				81	1	東土院東遺跡 (第2地点区 画No.2)	トレンチ2 S101	弥生土器・ 甕	—	—	(3.0)	磨製杖工具により 波状文が縦位に 描かれている	—	骨針(白多) 骨針	良好	10YR7/4(に ぶい黄橙)	後期 十王台式
								弥生土器・ 甕	—	—	(1.5)	5条単位の磨製杖 工具により波線文 と波状文が縦位に 描かれている	—	砂粒(白多・ 透)	普通	10YR6/4(に ぶい黄橙)	後期 十王台式
弥生土器・ 甕	—	—	(3.3)					7条単位の磨製杖 工具により波線文が 縦位に描かれ、下平に は付加条状文が回転 施されている	—	砂粒(白多) 骨針	良好	10YR3/2(黒) 7.5YR6/6(橙)	後期 十王台式				
弥生土器・ 甕	—	—	(3.0)					付加条状文が回転 施されている	—	砂粒(白多・ 透)	良好	10YR4/2(灰黄) 透	後期 十王台式				
土師器・甕	—	—	(4.8)					外面は縦及び斜方 向にヘラ削り調整 が施されている	—	砂粒(白多) 骨針	良好	2.5Y4/1(黄灰) 10YR6/3(灰黄)	古墳時代 後期以降				
84	1	東土院東遺跡 (第2地点区 画No.6)	トレンチ1 確認面	土師器・環	13.0	6.0	2.8	内外面ともにロク 口水後整形、底面 は回転染刷り	40	砂粒(透) 金	良好	10YR6/3(灰黄)	10世紀第2 期～第3 期前期				

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次敷)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
84	1	美土原東遺跡 (第2地点区 画No.6)	トレンチ1 確認面	土師器・高 台坏	—	7.0	(2.0)	内外面ともにロケロ水挽整形。内面は滑らかなヘラ削り。底部は未調整。底面は滑らかなヘラ削り。	—	金・微砂粒(透・白)・赤	良好	10YR7/4 (にぶい・黄緑) 2.5Y2/1 (黒)	9世紀前半 4世紀後半 10世紀前半
				土師器・甕	(26.0)	—	(9.5)	口縁部は横方向のナデ調整。甕部は縦方向のナデ調整。製器方向は縦方向のヘラ削り。内面は斜め方向のナデ調整。	—	金・砂粒(白・透)	良好	10YR5/3 (にぶい・黄緑) 10YR4/3 (にぶい・黄緑)	平安時代か 4同一個体
				土師器・甕	—	(12.8)	(2.2)	外面は横方向のヘラ削り。内面は斜め方向のナデ調整。底面はナデ調整。	—	金・砂粒(白・透)	良好	10YR5/3 (にぶい・黄緑)	平安時代か 3同一個体
87	1	堀遺跡 (第3地点 区画No.1)	トレンチ1 一括	須恵器・無 台坏	(16.0)	—	(4.2)	内外面ともにロケロ水挽整形。	—	砂粒(白多・透)・骨針 4mm大の礫	堅緻	5Y6/1 (灰)	木下遺跡前 8世紀末 9世紀初 9世紀末
				須恵器・無 台坏	—	(7.6)	(2.6)	内外面ともにロケロ水挽整形。底部未調整。底面は滑らかなヘラ削り。	—	砂粒(白多・透)・骨針	堅緻	10YR6/3 (にぶい・黄緑) 10YR6/4 (にぶい・黄緑)	木下遺跡前 8世紀末 9世紀初 9世紀末
				須恵器・有 台坏	—	(8.6)	(2.9)	内外面ともにロケロ水挽整形。底面は回転ヘラ削り。	—	砂粒(白多・透)・骨針	堅緻	7.5YR4/3 (にぶい・黄緑)	木下遺跡前 8世紀末 9世紀初
				須恵器・有 台坏	—	(9.0)	(2.4)	内外面ともにロケロ水挽整形。底面は回転ヘラ削り。	—	砂粒(白多・透)	堅緻	5Y6/1 (灰)	木下遺跡前 8世紀末 9世紀初
				須恵器・环 蓋	(17.0)	—	(1.1)	内外面ともにロケロ水挽整形。	—	砂粒(白多・透)	堅緻	5Y5/1 (灰)	山田遺跡前 7世紀末 8世紀初
				須恵器・环 蓋	(19.0)	—	(0.9)	内外面ともにロケロ水挽整形。	—	砂粒(白多・透) 4mm大の礫	堅緻	5YR5/3 (にぶい・赤黒)	木下遺跡前 8世紀末 9世紀初
90	1	堀遺跡 (第22地点)	トレンチ1	土師器・环 蓋	(14.5)	—	(4.2)	体部中央に龍。龍から口縁部は縦方向のナデ調整。龍から底面は縦方向のナデ調整。内面は滑らかなヘラ削り。内面は口縁部に骨針に透す。底面はナデ調整。	—	砂粒(白多・赤多)	良好	10YR5/2 (灰黄緑) 10YR6/4 (にぶい・黄緑)	筑山遺跡前 7世紀後半 8世紀初
				須恵器・有 台坏	—	(9.2)	(2.7)	内外面ともにロケロ水挽整形。底面は回転ヘラ削り。	—	骨針・砂粒(白多)	堅緻	7.5Y5/1 (灰)	木下遺跡前 奈良・平安
				トレンチ2	須恵器・甕	—	(14.6)	(2.6)	内面は縦方向のナデ調整。外面は時計回りの方向にヘラ削り調整。	—	砂粒(白多・透)・チャー 下礫	堅緻	2.5Y5/1 (黄灰)
93	1	堀遺跡 (第24地点)	トレンチ1	須恵器・無 台坏	—	7.4	(2.3)	内外面ともにロケロ水挽整形。底面はナデ調整。	—	砂粒(白多・黒・透)・骨針	堅緻	7.5Y5/1 (灰)	木下遺跡前 奈良・平安
98	1	堀遺跡 (第28地点)	トレンチ1 一括	須恵器・甕	(14.0)	—	(1.7)	内外面ともにロケロ水挽整形。	—	骨針・砂粒(白)	堅緻	5Y5/1 (灰)	木下遺跡前 9世紀末 30世紀
				土師器・环	—	(8.2)	(1.2)	内外面ともにロケロ水挽整形。底面は回転ヘラ削り。	—	金・砂粒(透・白)	良好	10YR6/3 (にぶい・黄緑)	平安
				土師器・甕	—	(10.0)	(2.2)	外面は縦方向のナデ調整。底面は未調整。	—	金多・砂粒(透・白)	良好	10YR3/2 (黒) 10YR4/1 (黒灰)	奈良・平安
				須恵器・甕	—	—	(8.5)	外面は平行板文。内面に当て具痕はなし。	—	砂粒(黒多・白・透)	堅緻	5Y5/2 (灰オリーブ) 5Y5/1 (灰)	木下遺跡前 奈良・平安
103	1	アラヤ遺跡 (第3地点(竹 敷並帯5830))	トレンチ 一括	縄文土器・ 精製深鉢	—	—	(4.2)	縦長文を何回も施した。直線とミガキにより磨り消し。	—	砂粒(白多・透多)	良好	10Y5/4 (にぶい・黄緑) 10YR3/1 (黒)	後期 縄文2式末 土器 は加賀川式
				縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(3.9)	外面は単色LR縄文を回転施錠。内面は削り調整。	—	黒・砂粒(白多・黒多)	良好	7.5YR6/6 (橙) 7.5Y5/6 (明赤黒)	後期 縄文之内式
				縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(3.2)	外面に微隆起帯が横走。	—	砂粒(白多・透)	良好	10YR5/3 (にぶい・黄緑)	型式不明
				須恵器・無 台坏	—	(6.0)	(1.2)	内外面ともにロケロ水挽整形。底面は回転ヘラ削り調整。	—	骨針・砂粒(白)	良好	5Y5/1 (灰)	木下遺跡前 9世紀代
106	1	大藪町遺跡 (第12地点)	トレンチ 一括	縄文土器・ 深鉢	—	—	(6.0)	表裏1面で、突起部には直径6mmの規を穿た。規文には単色LR縄文を回転施錠。曲線状の規文により磨り消し。	—	砂粒(白多・透多)	良好	10YR7/4 (にぶい・黄緑) 10YR7/1 (黒)	後期前集 縄取2式

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次敷)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
				細別	口径	底径	器高									
106	2	大館町道跡 (第12地点)	トレンチ 一括	弥生土器・ 甕	—	—	(2.7)	上半部に負帯を施す 付巾、帯状凹文を施 す。下半部を朱色の 磨研状波状文が横 位に置く	—	砂粒 (透 多)	良好		2.5Y3/2 (黒褐) 2.5Y5/3 (黄褐)	後期 十王台式		
				弥生土器・ 甕	—	—	(2.9)	縄文を押圧するこ とにより縦線刻文 を置く	—	砂粒 (白 多・透多)	良好		10YR3/1 (黒褐) 10R5/4 (赤い灰)	後期 十王台式		
				弥生土器・ 甕	—	—	(2.6)	磨研状波状文を横位 に置く。底、縦位の スリット (縦位文) で区画	—	砂粒 (透 多)・銀	良好			7.5YR7/6 (橙)	後期 十王台式	
				弥生土器・ 甕	—	—	(3.9)	外面に附加条状文が 回転施紋	—	砂粒 (白 多)・金	良好			10YR7/4 (赤い黄) 5YR7/6 (橙)	後期 十王台式	
				弥生土器・ 甕	—	—	(4.6)	外面に附加条状文が 回転施紋	—	砂粒 (白 多・透多)	良好				2.5Y3/1 (黒褐) 7.5YR7/5 (橙)	後期 十王台式
				弥生土器・ 甕	—	—	(4.6)	外面に附加条状文が 回転施紋	—	砂粒 (白 多・透多)	良好				2.5Y3/1 (黒褐) 7.5YR7/5 (橙)	後期 十王台式
109	1	西原道跡 (第2地点)	トレンチ1 一括	土師器・無 台杯	—	(8.0)	(1.2)	外面の底部からの立 ち上がりは反時計回 りの方向の回転へラ ケズリ調整。内面は ミガキ調整及び黒色 磨研	—	砂粒 (白 多・銀)	良好		10YR7/4 (に ぶい、黄橙) 2.5Y2/1 (黒)	9世紀第2 四半期～第 3四半期		
				須恵器・無 台杯	—	(8.0)	(2.7)	内外面ともにロケ ク口・水洗調整、 底面は未調整	—	骨針・砂 粒 (白多・ 透)	堅緻		7.5YR7/6 (橙) 2.5Y7/3 (黄)	大木7期前後 9世紀第3四 半期以降		
				陶器・埴輪陶 器・木筒 (皿 または鉢)	—	(8.6)	(2.3)	磨研成形、削り出し 高台/内面磨研/ 外面輪巻れあり	—						産地不明 近代カ	
112	1	文章1日誌跡 (第1地点区画 No.1)	Dトレンチ	縄文土器・ 深鉢	(26.5)	(10.0)	(36.0)	波状口縁。口縁部文 様帯一部文様帯は 地文に準ず。L縄文 を縦位に回転施紋し た後、波線により溝 きき文や進行線文を 書き割り済。胴部 は地文に準ず。L縄 文を縦位に回転施紋 した後、縦位の波線 文や磨研文を全面書 り直し	25	砂粒 (金 多・銀多・ 白多・透)	良好		7.5YR6/6 (橙) 2.5Y3/1 (黒褐)	大木8b式		
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.1)	口縁部直下に交互刺 突文を施紋	—	骨針・砂 粒 (金多・ 白・透)	良好		5YR6/6 (橙)	加曾利E2式		
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	地文に準ず。L縄文 とL縄文を縦位に 回転施紋した後に胴 部を磨り付け	—	砂粒 (銀 多・白多・ 透)	普通			10YR5/3 (に ぶい、黄橙) 10YR6/4 (に ぶい、黄橙)	加曾利E1式も しくは大木式	
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.2)	地文に準ず。L縄 文を縦位に回転 施紋	—	砂粒 (白 多・銀多・ 赤・透)	良好			10YR6/3 (に ぶい、赤褐)	加曾利E1式	
				縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.8)	地文に準ず。L縄文 とL縄文を縦位に 回転施紋した後に口 外縁直下に波線直下 に連続する楕円形 の負帯を磨り付け、 そこに波状で波 線文を置き、磨り 直し	—	砂粒 (白)	良好			10YR7/4 (に ぶい、黄橙)	加曾利E2式	
114	1	文章1日誌跡 (第1地点区画 No.2)	古墳周溝 覆土中層	土師器・碗	(8.0)	—	(7.2)	胴部下下に幅の 細いミガキ調整	—	砂粒 (白 多・透)	良好		10YR5/4 (に ぶい、黄橙) 10YR5/4 (に ぶい、黄褐) ～ 5Y2/1 (黒)	古墳時代 中期		
				土師器・碗	(9.2)	—	(4.5)	胴部下下に幅の 細いミガキ調整	—	砂粒 (白 多・透)	良好			7.5YR6/4 (に ぶい、黄橙) 7.5YR6/6 (橙)	古墳時代 中期	
				普通円筒埴 輪	—	—	(8.2)	外面は縦位の網毛目、 口外縁直下に縦位の 十字調整。内面、内 面は縦位・斜位の網毛 目	—	砂粒 (白 多・赤)	良好			7.5YR7/6 (橙) ～ 7.5YR2/1 (黒) 7.5YR6/6 (橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	
				普通円筒埴 輪	—	—	(2.4)	外面は縦位の網毛 目、口外縁直下に縦 位の十字調整。内面 は縦位の網毛目	—	砂粒 (白・ 透・赤)	良好			5YR5/6 (明赤 褐)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次第)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
114	5	文京1丁目遺跡 第1地点区画 No.2	古墳周溝 覆土中層	朝顔形円筒 埴輪カ	—	—	(5.5)	外面はナデ調 整。内面は横 位の刷毛目	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7.5YR6/4(に ぶい黄) 7.5YR7/6(橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	6		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.7)	外面は縦位の刷毛 目。内面は横位の 刷毛目・ナデ調整。有 黒斑。内面は輪組み 痕が顕著に現存	—	砂粒(白・ 透・赤)	普通	2.5Y7/4(黄黒)～ 2.5Y2/1(黒) 10YR7/4(にぶい 黄橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	7		古墳周溝 覆土中層	朝顔形円筒 埴輪カ	—	—	(13.6)	外面は縦位・斜位の 刷毛目。内面は横位 の刷毛目。内面には 輪組み痕が顕著に 現存	—	砂粒(白 多・黒多・ 透多・赤)	やや軟 質	10YR5/2(灰黄 黒)～10YR5/4 (黒) 7.5YR4/1(赤灰) ～7.5YR6/6(橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	8		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	(26.6)	—	(16.7)	外面は縦位の刷毛目 。口内下部には横位 のナデ調整。有黒斑。 内面は斜位の刷毛目。 第114図11・第115 図15・30と同一個体	—	砂粒(白 多・黒多・ 透多・赤)	普通	5YR6/6(黄黒) ～7.5Y2/1(黒) 7.5YR6/6(黄黒)・ 10YR6/4(にぶい黄 橙)・10YR7/4(黒)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	9		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(21.3)	外面は縦位・斜位 の刷毛目。内面 は横位の刷毛目・ナ デ調整	—	砂粒(白 多・透多・ 赤)	普通	7.5YR6/6(橙)・ 10YR7/4(にぶい 黄橙) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	10		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	最大径 (34.0)	(30.0)	(40.0)	外面は縦位・斜位 の刷毛目。上半部は 横位の連続する工 具痕。内面は縦位 の刷毛目及びナデ 調整。内面には輪 組み痕が顕著に 現存	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多・赤)	普通	10YR6/3(に ぶい黄橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	11		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(24.4)	外面は縦位の刷毛 目及びナデ調整。有 黒斑。内面は斜位 の刷毛目。内面には 輪組み痕が顕著に 現存。第114図8・ 第115図30と同一 個体	—	砂粒(白 多・透多・ 赤)	普通	7.5YR6/6(橙)・ ～10YR1.7/1 (黒) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	12		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	最大径 (30.0)	—	(20.3)	外面は縦位・斜位 の刷毛目及びナデ 調整。凸部は焼成後 の打撃により意図 的に磨滅。有黒斑。 内面には輪組み 痕が顕著に現存。 第114図13・ 第115図14・19・ 第116図34・35・47 と同一個体	—	砂粒(白 多・透 赤)	硬質	2.5YR5/6(明 赤黒)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	13		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	最大径 (28.0)	—	(11.0)	外面は縦位の刷毛 目。内面は横位・ 斜位のナデ調整。有 黒斑。内面には 輪組み痕が顕著に 現存。第114図12・ 第115図14・19・ 第116図34・35・47 と同一個体	—	砂粒(白 多・透 赤)	硬質	2.5YR5/6(明 赤黒)・2.5YR2/1 (黒) 2.5YR4/8(赤黒)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	14		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.8)	外面は縦位の刷毛 目。内面は横位・ 斜位のナデ調整。凸 部は焼成後の打撃 により意図的に磨 滅。有黒斑。内面 には輪組み痕が顕 著に現存。第114 図12・13・第115 図19・第116図 34・35・47と同一 個体	—	砂粒(白 多・透多・ 赤)	硬質	2.5YR5/6(明 赤黒)・2.5YR2/1 (黒) 2.5YR4/8(赤黒)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	15		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(5.3)	外面は縦位の刷毛 目。内面は横位・ 斜位のナデ調整。方 形透し	—	砂粒(白 多・透多・ 赤)	普通	7.5YR5/6(に ぶい黄橙) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
16	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.6)	外面は縦位の刷毛 目。内面は横位 のナデ調整。有黒斑。 第115図17・第116 図38と同一個体	—	砂粒(白 多・透多・ 赤)	やや軟 質	7.5YR2/1(黒) 7.5YR5/6(明赤 黒)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
115	17	文京1丁目遺跡 第1地点区画 No.2	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(19.0)	外面は縦位の刷毛目、内面は横位のナデ調整。方形透し。有黒斑。第115図16・第116図38と同一体。	—	砂粒(白多・黒多・透)	冷・軟質	10YR3/1(黒褐)・10YR5/4(にぶい・黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	18		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(9.3)	外面は縦位の刷毛目、方形透し。有黒斑。内面は斜位の刷毛目及びナデ調整。第114図8・11・115図15・30と同一体。	—	砂粒(白多・黒多・透・赤)	普通	10YR7/4(にぶい・黄橙)・7.5YR6/6(橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	19		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(7.8)	外面は縦位の刷毛目、内面は横位・斜位のナデ調整。凸部は焼成後の打撃により意図的に削落。有黒斑。内面には輪組みが顕著に残存。第114図12・13・第115図14・19・第116図34・35と同一体。	—	砂粒(白多・黒多・透・赤)	硬質	2.5YR5/6(明赤褐)～2.5YR2/1(黒)・2.5YR4/8(赤褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	20		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(12.8)	外面は縦位の刷毛目及びナデ調整。円形透し。有黒斑。内面は斜位のナデ調整。	—	砂粒(白多・黒多・透・赤)	冷・軟質	5YR3/3(明赤褐)～5YR6/6(橙)・5YR4/4(にぶい・赤褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	21		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(5.1)	外面は縦位の刷毛目、内面は横位のナデ調整。凸部は焼成後の打撃により意図的に削落。円形透し。第114図12・13・第115図14・19・第116図34・35と同一体。	—	砂粒(白多・黒多・透・赤)	硬質	7.5YR5/6(明赤褐)・2.5YR4/3(黄)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	22		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.1)	外面は縦位のナデ調整。円形透し。内面は斜位のナデ調整。	—	砂粒(白多・黒多・透・赤)	冷・軟質	10YR4/2(灰黄緑)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	23		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(8.4)	外面は縦位のナデ調整。円形透し。有黒斑。内面は横位のナデ調整。	—	砂粒(白多・黒多・透・赤)	冷・軟質	7.5YR7/6(橙)～10YR3/1(黒褐)・7.5YR6/6(橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	24		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(4.4)	外面は縦位の刷毛目、円形透し。内面はナデ調整。	—	砂粒(白多・黒多・透・赤)	冷・軟質	7.5YR7/4(にぶい・黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	25		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	(35.6)	—	(7.7)	外面は斜位の刷毛目及びナデ調整。口唇部は横位置のナデ調整で面取り。有黒斑。内面は横位・斜位のナデ調整。第115図26・27と同一体。	—	砂粒(白多・黒多・透)	普通	2.5Y7/4(浅黄)～2.5Y5/1(黄灰)・10YR7/4(にぶい・黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	26		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	(30.5)	—	(7.7)	外面は斜位の刷毛目及びナデ調整。口唇部は横位置のナデ調整で面取り。有黒斑。内面は横位・斜位のナデ調整。第115図25・27と同一体。	—	砂粒(白多・黒多・透)	普通	2.5Y7/4(浅黄)～2.5Y5/1(黄灰)・10YR7/4(にぶい・黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	27		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(3.4)	外面は斜位の刷毛目及びナデ調整。口唇部は横位置のナデ調整で面取り。有黒斑。内面は横位・斜位のナデ調整。第115図25・26と同一体。	—	砂粒(白多・黒多・透)	普通	10YR7/4(にぶい・黄橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	28		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(3.1)	外面は縦位及び斜位の刷毛目、円形透し。内面はナデ調整。	—	砂粒(白多・黒多・透)	普通	10YR6/4(にぶい・黄橙)・5YR4/8(赤褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
115	29	文京1丁目遺跡 第1地点区画 No.2)	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(5.2)	外面は縦位の刷毛目、内面は横位・斜位の刷毛目及びナデ調整	—	砂粒(白多・黒多・透多)	冷軟質	10YR5/4(にぶい黄緑)～5Y3/1(オリーブ黄) 7.5YR5/6(明黄緑)	古墳時代前期末葉～中期前葉
	30		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(11.0)	外面は縦位の刷毛目及びナデ調整、内面は横位の刷毛目・ナデ調整	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	普通	7.5YR6/6(明黄緑)・10YR7/1(黒黄緑)～7.5YR7/1(黒黄緑)・7.5YR6/6(明黄緑)・10YR6/4(にぶい黄緑)～10YR5/1(黄緑)	古墳時代前期末葉～中期前葉
116	31	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(2.6)	外面は凸帯を貼り付け、凸帯上及び直下は横位のナデ調整、内面は断面前後が著しいがナデ調整	—	砂粒(白多・金多・透多)	普通	10YR6/3(にぶい黄緑) 10YR5/3(にぶい黄緑)	古墳時代前期末葉～中期前葉	
	32		普通円筒埴 輪	—	—	(3.7)	外面は凸帯を貼り付け、凸帯上は横位のナデ調整、内面は斜位のナデ調整	—	砂粒(白多・黒多・透多)・チャート礫	硬質	7.5YR6/6(橙) 7.5YR5/4(にぶい橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉	
	33		普通円筒埴 輪	—	—	(5.3)	外面は縦位の刷毛目、有黒斑、内面は横位・斜位の刷毛目及びナデ調整	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	冷軟質	7.5YR7/4(にぶい橙) 7.5YR6/4(にぶい橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉	
	34		普通円筒埴 輪	—	—	(4.8)	外面は縦位の刷毛目、内面は横位・斜位のナデ調整、内面には輪軸みどりが著しに残存。第114図12・13・第115図14・19・第116図35と同一個体	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	硬質	5YR5/4(にぶい赤褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉	
	35		普通円筒埴 輪	—	—	(3.3)	外面は縦位の刷毛目、内面は横位・斜位のナデ調整、有黒斑、内面には輪軸みどりが著しに残存。第114図12・13・第115図14・19・第116図34と同一個体	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	硬質	5YR4/1(褐灰) 5YR4/4(にぶい赤褐)	古墳時代前期末葉～中期前葉	
	36		普通円筒埴 輪	—	—	(7.8)	外面はナデ調整、有黒斑、内面は横位・斜位のナデ調整	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	冷軟質	7.5YR6/6(橙)～7.5YR5/1(褐灰) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉	
	37		普通円筒埴 輪	—	—	(10.1)	外面は縦位の刷毛目、有黒斑、内面は横位のナデ調整	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	冷軟質	10YR7/4(にぶい黄) 10YR2/1(黒) 7.5YR7/6(橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉	
	38		普通円筒埴 輪	—	—	(4.9)	外面は縦位の刷毛目、有黒斑、内面は横位のナデ調整、第115図16・17と同一個体	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	冷軟質	7.5YR2/1(黒褐) 10YR7/4(にぶい黄緑)	古墳時代前期末葉～中期前葉	
	39		普通円筒埴 輪	—	—	(3.7)	外面はナデ調整、有黒斑、内面は横位の刷毛目	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	冷軟質	2.5Y6/3(黄) 10YR6/4(にぶい黄緑)	古墳時代前期末葉～中期前葉	
40	普通円筒埴 輪	—	—	(14.0)	外面は縦位の刷毛目、有黒斑、内面は横位のナデ調整、第116図41・44～46と同一個体	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	冷軟質	7.5YR6/6(橙)～7.5YR5/1(褐灰) 7.5YR5/6(明黄緑)～7.5YR4/1(褐灰)	古墳時代前期末葉～中期前葉			
41	普通円筒埴 輪	—	—	(14.2)	外面は縦位の刷毛目及びナデ調整、有黒斑、内面は横位の刷毛目・ナデ調整、第116図40・44～46と同一個体	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	冷軟質	7.5YR5/1(褐灰) 7.5YR6/4(にぶい橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉			
42	普通円筒埴 輪	—	—	(7.3)	外面は縦位の刷毛目及びナデ調整、内面は斜位のナデ調整	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	普通	7.5YR8/4(黄緑) 7.5YR7/4(にぶい橙)	古墳時代前期末葉～中期前葉			
43	普通円筒埴 輪	—	—	(2.1)	外面は縦位の刷毛目及びナデ調整、内面は斜位のナデ調整	—	砂粒(白多・黒多・透多・赤)	冷軟質	10YR3/1(黒灰) 10YR4/1(褐灰)	古墳時代前期末葉～中期前葉			

図版 番号	遺跡名 (地点・区画 ・次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
				口径	底径	器高							
116	44 文京1丁目遺跡 (第1地点区画 No2)	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(12.4)	外面はナデ調整。右 底見。内面は稜位 の刷毛目。第116 径 40・41・ 45・46と同一個体也	—	砂粒(白 多・銀多・ 透・赤)	中々 軟質	7.5YR2/1(黒) 7.5YR5/2(赭)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	
			普通円筒埴 輪	—	(14.3)	(5.0)	外面はナデ調整。右 底見。内面は稜位 の刷毛目。接地面 はヘラケズリ調整。 第116径 40・41・ 44・46と同一個体也	—	砂粒(白 多・銀多・ 透・赤)	中々 軟質	7.5YR6/4(にぶ い)～7.5YR2/1(黒 赭) 7.5YR6/6(橙)～ 7.5YR5/2(赭)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	
			普通円筒埴 輪	—	(12.8)	(5.4)	外面は稜位置の刷毛 目及びナデ調整。右 底見。内面は稜位 の刷毛目。接地面 はヘラケズリ調整。 第116径 40・41・ 44・45と同一個体也	—	砂粒(白 多・銀多・ 透・赤)	中々 軟質	7.5YR4/1(黒灰) ～7.5YR2/2(黒 灰) 7.5YR6/6(橙)～ 7.5YR5/2(赭)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	
			普通円筒埴 輪	—	—	(3.3)	外面は稜位の刷毛目 。内面は稜位の刷 毛目。右底見。内 面には輪轆少葉が 顕著に存在。第114 径12・13・第115 径14・19・第116 径34・35と同一 個体也	—	砂粒(白 多・透・ 赤)	硬質	5YR4/1(黒灰) 5YR4/4(にぶ い赤)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉	
120	1 谷田遺跡 (第1地点)	トレンチ2	土師器・碗	(10.6)	(6.0)	5.7	内外面ともにナ デ調整。外面の 一部に深いヘラ ケズリ調整	20	砂粒(白 多・透多)	良好	5YR6/6(橙)	古墳時代 中期中葉	
			土師器・甕	—	(8.8)	(3.7)	外面は稜位のヘ ラケズリ調整	20	砂粒(白 多・透多・ 赤色粒)	良好	10YR7/4(に ぶい黄橙)～ 10YR2/1(黒)	古墳時代中 期中葉～	
123	2 茨城高等 学校遺跡 (第1地点北)	トレンチ2	須恵器・盤	—	—	(2.0)	高台部は割張。 底裏に「厨六 三」の墨書	—	骨針・砂 粒(白・ 黒多・透)	緻緻	2.5Y5/2(暗灰 黄)	榊下彌前 9世紀代	
			磁器・大碗	(15.5)	—	(6.4)	輪轆成形/白塗料の上 に染付。器付残部/ 内面は文様あり/ 外面高台部一重 輪轆。高台二重 輪轆。高台内一重 輪轆	—	—	—	—	在産か 19世紀～	
			磁器・皿・ 三角高台皿	—	(8.8)	(1.7)	輪轆成形/上段付(赤・ 黒) / 外面口縁部一重 輪轆。底面、高台部二重 輪轆。内面輪轆部 文	—	—	—	—	—	産地不明 近現代
			土製品・人形 (海老)	(6.6)	(3.5)	厚さ (1.3) 重 量 (29g)	型押成形/無底流 注片。内面中央部に全 周1箇所。全面に白 塗料も(赤っぽい) / 土質	80	砂粒(白・ 銀多)	良好	2.5Y5/1(黄 灰) 2.5Y5/2(暗 灰黄)	—	産地不明 近現代
			土製品・人形 (海老)	(7.5)	(2.5)	厚さ (1.0) 重 量 (16g)	型押成形/無底流 注片。内面中央部に全 周1箇所。全面に白 塗料も(赤っぽい) / 土質	98	砂粒(白・ 銀多)	良好	10YR5/3(に ぶい黄)	—	産地不明 近現代
			土製品・人形 (海老)	(7.5)	(2.7)	厚さ (1.0) 重 量 (18g)	型押成形/無底流 注片。内面中央部に全 周1箇所。全面に白 塗料も(赤っぽい) / 土質	98	砂粒(白・ 銀多)	良好	10YR6/3(に ぶい黄) ～2.5Y4/1 (黄灰)	—	産地不明 近現代
			ガラス製品・ 牛乳瓶	3.7	5.2	14.2	型吹き成形(瓶形) / 黄色透明/瓶口に 集中して1mm以下の 気泡を多く含む。 外面底面に輪轆 調整。底径1.8cm。上 底面に輪轆4.5cm。口 径	100	—	—	—	—	産地不明 近現代
128	1 釜久保遺跡 (第5地点)	トレンチ1	弥生土器・ 壺	—	(7.8)	(1.2)	底部に目の細かい 目立。外面には厚 い朱塗りが施され た	—	砂粒(白・ 銀・透)	良好	10YR7/3(に ぶい黄) ～10YR6/1 (褐色灰) 10YR7/4(に ぶい黄)	後期(十五 古式)	
			トレンチ1	土師器・壺	—	—	(2.4)	胴部外面には稜位 の刷毛目。胴部内 面には稜位の刷毛 目	—	砂粒(白・ 透)	良好	10YR7/4(に ぶい黄) 7.5YR7/6(橙)	古墳時代 前期

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次敷)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					口径	底径	器高						
128	3	釜久保遺跡 (第5地点)	トレンチ1	土師器・甕	—	—	(2.3)	外面には横位に段帯を貼り付け、土師器で造形的に推圧し、顔み目文	—	砂粒(白・透)	良好	10YR8/4 (浅黄)	古墳時代前期
131	1	下畑遺跡 (第3地点)	トレンチ4	縄文土器・ 深鉢	—	—	(6.5)	内外面ともに貝殻象眼文、外面は部分的にケズリ及びミガキ調整	—	砂粒(白多・透多・黒多・赤)	良好	7.5YR5/6 (明黄)	早期終末期
	2		トレンチ1	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.8)	段帯を円形に貼り付け、その裏面にキョウヒラ文を施す	—	砂粒(白多・金多・赤)	良好	2.5Y4/1 (黄灰) 2.5Y6/3 (にぶい黄)	加曾利 E1 式
	3		トレンチ1	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.3)	口縁部に段帯を貼り付け無文とし、直下に横位の横位の象眼を施す、単筋丸、縄文を回転施す	—	砂粒(白多・透多)	良好	2.5Y5/3 (黄灰) 10YR6/3 (にぶい黄)	加曾利 E2 式
	4		トレンチ2	縄文土器・ 深鉢	—	—	(10.2)	地文に単筋丸、縄文を回転施す後、3条単位で横位の沈線文を施す	—	砂粒(白・透)	良好	2.5Y5/2 (暗黄) 10YR6/4 (にぶい黄)	加曾利 E1 式
	5		トレンチ3	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.6)	口縁部直下は無文部、その直下に単筋丸、縄文を回転施す後、2条の横位の沈線で磨り消し、区画を作成	—	砂粒(白・透)	良好	2.5Y4/1 (黄灰) 2.5Y5/2 (暗黄)	加曾利 E2 式もしくは加曾利 E3 式
	6		トレンチ3	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.3)	口縁部直下に地文の単筋丸、縄文を回転施す後、横位の段帯を貼り付け	—	砂粒(白・透・黒)	良好	10YR6/4 (にぶい黄) 10YR6/3 (にぶい黄)	加曾利 E2 式
	7		トレンチ2	縄文土器・ 深鉢	—	—	(7.3)	地文の単筋丸、縄文を回転施す後、段帯を貼り付け、横位・斜位の沈線で磨り消し、赤き文と斜位附柱文を施す	—	砂粒(白・透・黒)	良好	10YR5/2 (灰黄) 2.5Y6/2 (灰)	加曾利 E2 式もしくは加曾利 E3 式
	8		トレンチ3	縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.6)	地文の単筋丸、縄文を回転施した後、横位及び垂線する象眼状の沈線で磨り消し	—	砂粒(白・透)	良好	10YR6/4 (にぶい黄)	加曾利 E2 式
	9		トレンチ3	縄文土器・ 深鉢	(22.8)	—	(13.2)	地文に単筋丸、縄文を回転施す	—	砂粒(白多・透・黒多)	良好	7.5YR5/6 (明黄)	加曾利 E4 式
	10		トレンチ1	縄文土器・ 深鉢	—	(6.6)	(2.1)	縦位に垂下する5条の沈線文	—	砂粒(白・透・黒)	良好	10YR5/4 (にぶい黄) 2.5Y4/2 (暗黄)	加曾利 E3 式
	11		トレンチ2	縄文土器・ 深鉢	—	(11.8)	(3.0)	縦位に垂下する2条の沈線文	—	砂粒(白多・透多・金)	良好	10YR6/3 (にぶい黄)	加曾利 E3 式
	12		トレンチ4	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.2)	口縁部直下に段帯を貼り付け横やかな段帯を作成	—	砂粒(白・透・赤)	良好	2.5Y5/2 (暗黄) 2.5Y5/3 (黄)	加曾利 E4 式
	13		トレンチ2	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.2)	口縁部直下に貼り付けた段帯が剥落	—	砂粒(白・赤)	良好	7.5YR6/6 (橙)	加曾利 E4 式
	14		トレンチ4	縄文土器・ 深鉢	—	—	(4.9)	口縁部直下に地文の単筋丸、縄文を回転施す	—	砂粒(白・透)	良好	10YR6/4 (にぶい黄)	加曾利 E4 式
	15		トレンチ4	縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.0)	口縁部直下に地文の単筋丸、縄文を回転施す	—	砂粒(白・透)	良好	7.5YR5/4 (にぶい黄)	加曾利 E4 式
	16		トレンチ1	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.1)	口縁部直下に地文の単筋丸、縄文を回転施す後、段帯を貼り付け裏面に十字調整を施し、円形の付着文を施す	—	砂粒(透・黒)	良好	10YR4/2 (灰黄) 10YR5/4 (にぶい黄)	加曾利 E3 式もしくは加曾利 E4 式
17	トレンチ1	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(5.4)	横位口縁の突起部、地文の単筋丸、縄文を回転施す後、口縁部直下に横位の沈線を施す、突起部直下で小さい円孔を穿ち沈線を終結	—	砂粒(透)	良好	10YR5/3 (にぶい黄)	堀之内 1 式		
18	トレンチ2	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(2.9)	外面に磨面状工具による条線	—	砂粒(白・黒・赤)	良好	10YR5/3 (にぶい黄) 10YR8/3 (浅黄)	堀之内 1 式		

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次数)	出土位置	種別・器形		法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
				細別	口径	底径	器高								
131	19	下畑遺跡 (第3地点)	トレンチ2	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(4.0)	外面に櫛歯状工具 による条線	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7.5YR4/3 (黒) 5YR5/6 (明赤)	堀之内1式		
	20		トレンチ2	縄文土器・ 精製深鉢	—	—	(3.0)	口縁部着下下鼻部 を貼り付け、上から 平貝竹管状工具で 連続刺突文を掻く	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7.5YR5/6 (明赤) 10YR6/3 (にぶい 黄緑)	堀之内2式		
	21		トレンチ3	縄文土器・ 精製深鉢	—	—	(3.0)	口縁部着下下鼻部 を貼り付け、上から 平貝竹管状工具で 連続刺突文を掻く	—	砂粒(白・ 透・黒)	良好	7.5YR5/4 (にぶい 黒)	加曾利B1式		
	22		トレンチ3	縄文土器・ 粗製鉢	—	—	(8.5)	口縁部から頸部は 無文部、胴部には単 筋LR縷文を回転施 す。内面は丁寧なミ ガキ調整	—	砂粒(白・ 透・黒・ 赤)	良好	2.5Y5/2(暗灰黄)	晩期終末期		
134	1	新地遺跡 (第2地点)	トレンチ1	土器・土鍋・ 土師質	(31.2)	—	(4.8)	甕輪成形/内外面の ナ子縷、丸型付着	—	砂粒(白・ 金・透)	良好	10YR3/2 (黒褐) 7.5YR5/6(明赤)	中世～近世		
139	1	下本郷遺跡 (第5地点)	表面採集	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.5)	地文に単筋LR縷文 を回転施す	—	砂粒(白 多)	良好	7.5YR4/3 (黒) 5Y3/1(オリーブ)	加曾利E式		
	2		表面採集	縄文土器・ 深鉢	—	—	(4.0)	地文に単筋LR縷文 を回転施す後、鼻部 を貼り付け、沈瀬に より磨り直し	—	砂粒(白 多・黒・ 透)	良好	10YR6/4 (にぶ い黄緑) 10YR6/2 (灰黄 黒)	加曾利E2式		
	3		トレンチ3	縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.4)	外面に肩位の条線 文	—	砂粒(白 透)	良好	10YR4/2 (灰黄 黒)	中期後葉 連弧文系		
	4		トレンチ3	円筒埴輪	—	—	(2.6)	外面は器面が剥落、 内面は斜位のナ子 調整	—	砂粒(白 多・金多・ 赤)	中々 軟質	7.5YR5/4(浅黄 黒) 7.5YR5/4 (にぶい 赤)	筑波山原道も しくは元太田 山崎輪窯か 6世紀前半		
143	1	水戸城跡 (第7地点) 57	大形円形土坑	陶器・不明 (仏具貝カ)	(6.6)	—	(3.3)	甕輪成形/灰輪/ 内外面部以下無施 底部(器底)欠損、 内外面貫入あり	—	—	—	—	産地不明 18世紀後半～		
	2		大形円形土坑	磁器・碗・ 半球碗	(9.6)	(3.2)	(4.4)	甕輪成形/染付/ 透明釉、器付無釉/ 外面片文文	30	—	—	—	肥前産 1700年代～ 1860年代		
	3		大形円形土坑	磁器・碗・ 小丸碗	(9.3)	—	(5.4)	甕輪成形/染付/ 透明釉/外面口縁 部帯状に一重圈線、 体部露筋文、高台部 二重圈線、内面口縁 部帯状に露筋文、見 込み二重圈線	—	—	—	—	肥前産 1760年代～ 1810年代		
	4		大形円形土坑	磁器・折縁 筒型碗	(9.8)	(4.7)	(7.4)	甕輪成形/染付/ 透明釉、器付無釉/ 外面片文文・露筋 高台部一重圈線、高 台二重圈線、折縁 上面に四方露文(輪 花)、見込み二重圈 線、見込み中央に五 弁花文	40	—	—	—	—	肥前産 17世紀～ 18世紀前半	
	5		大形円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転 用)	—	—	(4.9)	器作り成形/灰輪・ 鉄輪/外面流水文、 水泉深部分を刺突 /第114図6・7・ 8之同一個体	—	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 18世紀後半～	
	6		大形円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転 用)	—	—	(7.3)	器作り成形/灰輪・ 鉄輪・割出高台/ 外面流水文、水泉深 部分を刺突、内面日 蓮2箇所、焼成後露 孔/第143図5・8・ 9之同一個体	—	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 18世紀後半～	
	7		大形円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転 用)	—	—	高台径 (19.0)	(8.9)	器作り成形/灰輪・ 鉄輪/外面流水文、 水泉深部分を刺突 /第114図5・7・ 8之同一個体	—	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 18世紀後半～
	8		大形円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転 用)	—	—	(9.6)	器作り成形/灰輪・ 鉄輪/外面流水文、 水泉深部分を刺突 /第114図5・6・ 7之同一個体	—	—	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 18世紀後半～

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
143	9	水戸城跡 (第7地区第22号)	大形円形土器	土器・火鉢・ 土師質	(22.0)	—	(6.0)	輪轆成形／外 面ミナナシ、内 面厚付着	—	砂粒(白・ 透)	良好	10YR6/2 (成 黄)	10YR3/1 (黒 黒)	在地産か 近世以降	
	10		大形円形土器	土器・火鉢・ 土師質	—	(24.0)	(6.9)	輪轆成形／外 面ミナナシ、内 面厚付着	—	砂粒(白 多・透)	良好	7.5Y4/1 (灰)	—	在地産か 近世以降	
144	11	大形円形土器	瓦・平瓦	最大幅 (15.5)	最大長 (19.5)	厚さ (1.95)	板作り・型当 て成形	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:2.5Y4/1 (黄 黒) 凹面:2.5Y3/3 (オ リ・青) 7期～5YR6/6 (黒) ～10YR2/6 (明黄 黒)	—	在地産 17～18世紀		
	12		大形円形土器	瓦・平瓦	最大幅 (14.0)	最大長 (10.7)	厚さ (1.65)	板作り・型当て成 形/穿孔1箇所	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:N4/0 (黄 黒) 凹面:N5/0 (黄 黒)	—	在地産 17～18世紀	
	13		大形円形土器	瓦・平瓦	最大幅 (16.6)	最大長 (15.0)	厚さ (1.7)	板作り・型当 て成形/被熱	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:2.5Y4/1 (黄 黒) 凹面:2.5Y3/3 (オ リ・青) 7期～5YR6/6 (黒)	—	在地産 17～18世紀	
	14		大形円形土器	瓦・軒丸瓦	互当径 (18.0)	最大長 (8.8)	厚さ (3.5)	板作り・型 巻成形/内面布 目瓦、軒丸部 欠損	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:10YR/1 (灰 白)～10Y5/1 (灰 白) 凹面:10Y7/1 (灰 白)～10Y5/1 (灰 白)	—	在地産 17～18世紀	
146	1	奇掛遺跡 (第4地区第2号)	表土	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.1)	単部 LR 縄文が 縦位と横位に 分かれて回転 施紋	—	砂粒(白・ 透)	普通	2.5Y6/3 (灰・黄 黒)～2.5Y2/2 (オ リ・青) 2.5Y6/3 (灰・黄 黒)	—	加曾利 E 式	
	2		遺構確認面	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.7)	単部 RL 縄文が 回転施紋	—	砂粒(白・ 透)	普通	10YR6/4 (にぶい 黄黒)～2.5Y4/1 (黄黒) 10YR3/1 (黒 黒)	—	後期以降	
	3		表土	土師器・甕	—	—	(4.7)	外面に刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	普通	2.5Y5/3 (黄 黒) 2.5Y7/3 (黄 黒)	—	古墳時代 前期	
	4		表土	土師器・甕	—	—	(5.1)	外面に刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	普通	10YR7/6 (明 黄黒) 2.5Y7/3 (黄 黒)	—	古墳時代 前期	
	5		表土	土師器・甕	—	(4.4)	(1.0)	底面はナデ	—	砂粒(白・ 透)	普通	2.5Y6/3 (に ぶい 黄黒) 2.5Y7/4 (黄 黒)	—	古墳時代 前期	
	6		PO5	土師器・甕/ 壺	(24.8)	—	(4.0)	外面はナデ、 内面は横位の 刷毛目	—	砂粒(白 多・透多)	良好	7.5YR7/6 (黒) 7.5YR7/6 (黒) ～7.5YR6/8 (黄 黒)	—	古墳時代 前期	
	7		SK03	土器・皿・ 土師質	—	(9.0)	(1.1)	底面は回転承 切り	—	砂粒(赤 多・透)	良好	10YR7/4 (に ぶい 黄黒)	—	近世	
151	1	一戦厚遺跡 (第1地区第2号)	SI01	土師器・有 段口縁壺	(19.6)	稜部径 (12.0)	(6.0)	有段口縁部外面に 刷毛目、胴部には 細かな刷毛目、内 外面の一部に赤 彩	—	砂粒(白・ 透)	良好	10YR6/3 (にぶ い黄黒) 5YR4/6 (赤)	—	古墳時代前期 後半～未葉	
	2		SI01	土師器・有 段口縁壺	(18.0)	—	(16.5)	外面は板状工 具によるナデ 調整	30	砂粒(白・ 透・黒)	良好	10YR6/4 (にぶ い黄黒) 10YR6/3 (にぶ い黄黒)～10YR3/1 (黒)	—	古墳時代前期 後半～未葉	
	3		SI01	土師器・甕	(19.0)	—	(19.5)	外面は口縁部に 刷毛目、胴部 には刷毛目及び ナデ調整	20	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7.5YR4/4 (黒) 7.5YR4/4 (黒)～ 7.5YR1/2 (黒)	—	古墳時代前期 後半～未葉	
	4		SI01	土師器・甕	(18.8)	—	(5.3)	口縁部外面は赤 ナデ、内面は刷 毛目、胴部は刷 毛目、胴部外面 は刷毛目	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	10YR4/4 (黒)～ 10YR4/4 (黒)～ 10YR6/4 (にぶ い黄黒)～10YR4/1 (黒 黒)	—	古墳時代前期 後半～未葉	
	5		SI01	土師器・甕	—	(8.4)	(9.6)	胴部外面は刷 毛目及び板状工 具によるナデ 調整、底部は ナデ調整	15	砂粒(白 多・透・ 銀多)	良好	5YR5/6 (明赤 黒) 7.5YR7/6 (黒)	—	古墳時代前期 後半～未葉	
	6		SI01	土師器・甕	(17.0)	—	(4.1)	口脛部に三角 状の刻み目、内 外面はナデ 調整	—	砂粒(白・ 透)	良好	7.5YR3/3 (暗 黒) 7.5YR5/4 (に ぶい黄)	—	古墳時代前期 後半～未葉	
	7		SI01	土師器・甕	(17.0)	—	(4.1)	口脛部に三角 状の刻み目、 胴部は刷毛目	—	砂粒(白 多・透)	良好	10YR6/4 (にぶ い黄黒) 10YR7/4 (にぶ い黄)	—	古墳時代前期 後半～未葉	
	8		SI01	土師器・甕	(17.0)	—	(15.3)	口縁は平縁、胴 部は刷毛目及び ミガキ調整、 内面はナデ 調整	40	砂粒(白・ 透)	良好	2.5Y4/1 (黄 灰) ～2.5Y3/1 (黒 黒) 7.5Y4/3 (黒) ～7.5YR4/4 (黒)	—	古墳時代前期 後半～未葉	

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高	口径	底径						
151	9	一戦塚遺跡 (第1出土部2次)	SI01	土師器・甕	(17.5)	—	(16.4)	口縁は平縁、胴部は刷毛目及びミガキナデ調整、内面はナデ調整	40	砂粒(白・透)	良好		7.5YR3/1(黒黒)~7.5YR4/2(黒)~2.5YR4/4(にぶい赤黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	10		SI01	土師器・甕	(13.0)	5.2	(13.9)	外面は刷毛目、胴部内面・底部はナデ調整	60	砂粒(白・透・赤)	良好		10YR7/4(にぶい黄褐色)~10YR2/2(黒黒) 10YR5/4(にぶい黄褐色)	古墳時代前期後半~末葉	
152	11		SI01	土師器・甕	—	(7.0)	(1.7)	底部に木炭痕	—	砂粒(白・透・銀・赤)	良好		5YR5/3(明赤黒) 5YR6/6(暗)	古墳時代前期後半~末葉	
	12		SI01	土師器・甕	—	(8.0)	(1.8)	外面は板状工具によるナデ調整、内面は刷毛目、底部はナデ調整	—	砂粒(白・透)	良好		10YR5/8(黄黒)~10YR4/3(にぶい黄褐色) 10YR2/1(黒)~10YR5/4(にぶい黄褐色)	古墳時代前期後半~末葉	
	13		SI01	土師器・甕	—	(20.0)	(4.0)	底部に木炭痕	—	砂粒(白・透)	良好		7.5YR6/4(にぶい暗)~7.5YR2/1(黒) 5YR3/2(暗赤黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	14		SI01	土師器・甕	最大径(11.9)	6.6	(7.5)	外面は板状工具によるナデ調整及びミガキ調整、内面はナデ調整	40	砂粒(白・透)	良好		10YR6/2(灰黄黒) 10YR8/2(灰白)	古墳時代前期後半~末葉	
	15		SI01	土師器・器台	7.2	10.4	7.2	外面は板状工具による縦位のナデ調整、受部は内外面ともに刷毛目、器部は外面の一部を平、内面はナデ調整	98	砂粒(白・透・銀・赤)	普通		7.5YR5/6(明黒)~7.5YR7/6(暗) 10YR5/4(にぶい黄褐色)~7.5YR5/6(暗黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	16		SI01	土師器・器台	7.5	11.5	7.8	外面は板状工具によるナデ調整及びミガキ調整、内面はナデ調整	70	砂粒(白・多・透)	良好		5YR5/6(明赤黒) 5YR5/4(にぶい赤黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	17		SI01	土師器・器台	—	(12.0)	(8.3)	脚部の外面は縦位のミガキ調整、内面は横位の刷毛目	30	砂粒(白・透・銀・赤)	良好		10YR7/4(にぶい黄褐色) 10YR6/4(にぶい黄褐色)	古墳時代前期後半~末葉	
	18		SI01	土師器・甕	—	(2.3)	(4.5)	内外面ともにナデ調整、外面はミガキ調整後に赤彩	40	砂粒(白・多・透)	良好		10YR1.7/1(黒) 2.5YR3/4(暗赤黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	19		SI01	土師器・甕	—	(4.0)	(4.5)	内外面ともナデ調整	70	砂粒(白・透・銀・黒)	普通		10YR6/4(にぶい黄褐色) 10YR4/2(灰黄黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	20		SI01	土師器・甕	(8.1)	(4.4)	(5.8)	内外面ともナデ調整	55	砂粒(白・透・銀)	普通		2.5Y6/3(にぶい黄褐色)~2.5Y5/1(暗灰黒) 5Y3.1/オウ7(暗) ~2.5Y3/3(黄黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	21		SI01	土師器・手捏ね土器	(5.6)	(4.3)	(4.7)	内外面ともナデ調整	60	砂粒(白・透・赤)	普通		10YR7/4(にぶい黄褐色)~10YR2/2(黒黒) 10YR7/4(にぶい黄褐色)~10YR3/2(黒黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	22		SI01	土師器・手捏ね土器	5.0	4.8	3.1	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	100	砂粒(白・多)	普通		10YR6/4(にぶい黄褐色)~10YR3/1(黒黒) 7.5YR6/6(昏)~7.5Y4/1(暗黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	23		SI01	土師器・手捏ね土器	4.0	1.4	3.0	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	100	砂粒(白・多)	普通		10YR1.7/1(黒) ~10YR5/6(黒) 10YR3/2(黒黒)	古墳時代前期後半~末葉	
	24		SI01	土師器・手捏ね土器	(3.6)	(2.0)	(3.2)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白・多)	普通		10YR6/3(にぶい黄褐色)~10YR2/1(黒) 10YR5/4(にぶい黄褐色)	古墳時代前期後半~末葉	
	25		SI01	土師器・手捏ね土器	(4.5)	(4.0)	(2.9)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白・透)	普通		10YR5/4(にぶい黄褐色)~10YR2/1(黒) 10YR3/2(黒黒)	古墳時代前期後半~末葉	
26		SI01	土師器・手捏ね土器	3.2	3.0	2.8	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白・透)	普通		5YR1.2/1(黒黒)~5YR5/2(灰黒) 5YR4.1/1(暗灰)	古墳時代前期後半~末葉		
27		SI01	土師器・手捏ね土器	(3.8)	(2.6)	(3.0)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白・多)	普通		7.5YR3/1(黒黒)~5YR5/6(明赤黒) 10YR3/1(黒黒)~7.5YR5/6(暗黒)	古墳時代前期後半~末葉		

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				種別	細別	口径	底径	器高							
152	28	一戦塚遺跡 (第1地区第2次)	S101	土師器・手 捏ね土器	(3.5)	(2.0)	(2.8)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	80	砂粒(白 多)	普通	7.5YR4/6(黒) 7.5YR5/3(赤黄)	古墳時代前期 後半～末葉		
	29		S101	土師器・手 捏ね土器	(3.8)	(2.5)	(1.0)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	10YR4/1(黒灰) 10YR5/4(赤黄)	古墳時代前期 後半～末葉		
	30		S101	土師器・手 捏ね土器	(3.2)	(1.5)	(2.5)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	7.5YR6/6(黒) 10YR4/1(黒灰) 7.5YR6/6(黒)	古墳時代前期 後半～末葉		
	31		S101	土師器・手 捏ね土器	5.0	3.2	3.3	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	10YR5/4(赤黄) 10YR17/1(黒) 10YR5/4(赤黄) 10YR2/3(黒)	古墳時代前期 後半～末葉		
	32		S101	土師器・手 捏ね土器	(3.6)	(2.5)	(3.0)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	7.5YR6/6(黒) 10YR2/1(黒) 7.5YR7/6(黒)	古墳時代前期 後半～末葉		
	33		S101	土師器・手 捏ね土器	(3.6)	(2.8)	(3.1)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	7.5YR6/6(黒)	古墳時代前期 後半～末葉		
	34		S101	土師器・手 捏ね土器	(2.9)	(1.5)	(2.2)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	10YR2/1(黒) 10YR4/1(黒灰)	古墳時代前期 後半～末葉		
35	S101	土師器・手 捏ね土器	2.9	2.0	3.3	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通	7.5YR2/1(黒) 7.5YR1/2(黒灰)	古墳時代前期 後半～末葉				
153	1	SD01	土師器・環	(15.0)	—	(4.5)	口縁部は横位の ナデ及びミガキ 調整。体部外面は 反時計回りの手 捻ヘラズリ	45	砂粒(白・ 透・赤)	良好	10YR5/3(赤黄) 10YR1/2(黒) 10YR1/2(黒) 10YR5/3(赤黄)	6世紀前半 ～中葉			
	2	SD01	須恵器・無 台環	—	(9.0)	(1.6)	内外面ともにロ ケ口水挽整形	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y7/2(灰白) 5Y6/1(灰)	木葉下層跡部 9世紀後半			
	3	SD01	須恵器・無 台環	—	(8.0)	(1.3)	内外面ともにロ ケ口水挽整形。底 部は同径ヘラズリ	—	砂粒(白 多・透・ 赤)	良好	2.5YR4/4(黄) 2.5YR5/5(黄)	産地不明 奈良・平安時代			
	4	SD01	須恵器・有 台環	—	(11.0)	(2.4)	内外面ともにロ ケ口水挽整形	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y7/1(灰白)	木葉下層跡部 9世紀後半			
	5	SD01	須恵器・環 蓋	(14.0)	—	(2.0)	内外面ともにロ ケ口水挽整形	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y7/1(灰白)	木葉下層跡部 8世紀第3四半 期			
	6	SD01	須恵器・環 蓋	(15.2)	—	(1.8)	内外面ともにロ ケ口水挽整形	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y5/1(灰白) ～N4/O(灰) 7.5Y5/1(灰)	木葉下層跡部 8世紀第3四半 期			
	7	SD01	須恵器・高 環	最大径 (6.9)	—	(4.7)	内外面ともにロ ケ口水挽整形。 長方形通しは4 箇所	—	砂粒(白 多・透)	堅緻	2.5Y7/1(黄灰)	木葉下層跡部 8世紀第2四半 期			
	8	SD01	須恵器・甕	頸部径 (16.0)	—	(4.7)	内外面ともにロ ケ口水挽整形。 第153図10と 同一個体	—	砂粒(白 多・透)	良好	10YR6/1(黒灰) 10YR6/1(黒色 灰)～10YR7/1 (灰白)	木葉下層跡部 9世紀以降			
	9	SD01	須恵器・甕	頸部径 (16.0)	—	(4.7)	内外面ともにロ ケ口水挽整形。 第153図8と 同一個体	—	砂粒(白 多・透)	良好	10YR6/1(黒灰) 10YR6/1(黒色 灰)～10YR7/1 (灰白)	木葉下層跡部 9世紀以降			
	10	SD01	須恵器・甕	—	(18.0)	(6.0)	内外面ともにロ ケ口水挽整形。 底部立ち上がり 付近はヘラズリ 調整	—	砂粒(白・ 銀・透)	良好	5Y7/1(灰白) 5Y8/1(灰白)	産地不明 9世紀以降			
11	SD01	須恵器・短 頸甕	最大径 (19.0)	高台径 (11.4)	(8.2)	内外面ともにロ ケ口水挽整形	20	砂粒(白 多・透)	堅緻	7.5Y5/1(灰)	木葉下層跡部 8世紀第2四 半期				
12	SD01	須恵器・甕	最大径 (19.0)	—	(6.2)	内外面ともにロ ケ口水挽整形。 外面は平行叩き	—	砂粒(白 多・透)・ 骨針	良好	5Y7/2(灰白) ～5Y4/1(灰) 5Y6/1(灰) ～5Y7/1(灰白)	木葉下層跡部 9世紀以降				
13	SD01	須恵器・甕	—	—	(10.7)	外面は正格子 叩き。内面は 同心円叩き	—	砂粒(白・ 透・黒)	普通	5Y7/1(灰白) 5Y7/2(灰白)	山田宮跡部 7世紀第4 四半期				
154	14	SD01	須恵器・甕	—	—	(4.7)	外面は平行叩 き。内面は当 て具痕無し	—	砂粒(白・ 透・黒)	堅緻	2.5Y7/2(灰黄) 2.5Y5/2(黄灰) 2.5Y7/2(灰黄)	産地不明 奈良・平安時代			

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
155	1	一教塚遺跡 (第1地蔵2次)	遺構外	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.7)	上部に準筒刹委文 と灰(赤系)を多量 含み、下部に貝殻燻 文を施す	—	砂粒(白 多・透)	良好	10YR4/2 (灰黄緑)	前期後葉 浮島式		
	2		遺構外	弥生土器・ 甗	—	—	(3.5)	外面には附加条 繩文を回転施 施紋	—	砂粒(白 多・黒・ 透)・骨針	良好	10YR6/3 (にぶい 黄緑)～2.5Y4/1(黒灰) 10YR6/4 (にぶい 黄緑)～2.5Y4/1	後期 十王台式		
	3		遺構外	弥生土器・ 甗	—	(9.4)	(1.8)	外面には附加条 繩文を回転施紋、底 面には肌理の細かい 布目正痕	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	10YR7/4 (にぶい 黄緑) 10YR8/3 (浅黄緑)	後期 十王台式		
	4		遺構外	弥生土器・ 甗	—	—	(2.8)	外面には附加条 繩文を回転施 施紋	—	砂粒(白 多・透)・ 骨針	良好	10YR7/4 (にぶい 黄緑) 7.5YR6/6 (橙) 10YR7/4 (にぶい 黄緑)	後期 十王台式		
	6		遺構外	土師器・埴 輪	(10.9)	(5.0)	(10.9)	外面・内面ともにナ 子調整、口縁部外面 は一部ナ子調整、 胴部内部と底部外 面以外は赤彩	98	砂粒(白・ 透・黒)	良好	2.5Y3/1 (黒周) ～10R4/6 (赤) 10R4/6 (赤)	古墳時代前期 後半～末葉		
	7		遺構外	土師器・高 杯	—	—	(8.0)	外面は縦位の ミガキ調整で 赤彩	—	砂粒(白・ 透・黒)	良好	2.5YR4/4 (にぶい 赤黒)～7.5YR5/2 (灰黒)	古墳時代前期 後半～末葉		
	8		遺構外	土師器・甕	—	(5.8)	(3.3)	外面はヘラミ ガキ調整、内 面は刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	良好	10YR1.7/1 (黒) ～7.5YR5/6 (明 黄)～ 7.5YR7/6 (橙)	古墳時代前期 後半～末葉		
	10		遺構外	土師器・杯	(14.0)	—	(4.6)	体部外面はヘラケ ズリ調整、内面は ヘラミガキ調整、外 面及び内面の底部よ り上は赤彩	—	砂粒(白・ 透)	良好	5YR5/8 (明赤黒) ～5YR1.7/1 (黒) 5YR6/8 (橙)	6世紀前半 ～中葉		
	11		遺構外	須恵器・無 台杯	—	(8.0)	(3.4)	内外面ともにロ ク口水準整形、 底部はヘラケズ リ調整	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y6/1 (灰)	木葉下葉跡群 9世紀以降		
	158		1	台置型台座遺跡 (台置型群 6次)	SA01-P1 柱廻り方土層	須恵器・环 蓋	(12.0)	—	(1.0)	内外面ともにロ ク口水準整形	—	砂粒(白 多)	良好	10YR8/1 (灰白) 10YR5/1 (灰白)	山田宮跡群 7世紀第4 四半期
			2		SA01-P1 柱廻り方土層	須恵器・环 蓋	(16.0)	—	(1.7)	内外面ともにロ ク口水準整形	—	砂粒(白・ 銀・黒)	良好	10YR5/4 (に ぶい・黄緑)	新治宮跡群 7世紀第4 四半期
3		SA01-P1 柱廻り方土層	須恵器・短 脚环盤		—	最大径 (13.0)	(4.4)	内外面ともにロ ク口水準整形	—	砂粒(透・ 黒)	良好	2.5Y8/1 (灰白)	7世紀第4 四半期		
4		SA01-P1 柱廻り方土層	須恵器・甕		—	—	(3.1)	内外面ともにロ ク口水準整形折 り返し口縁上に 磨面を施す	—	砂粒(白 多)	良好	N4/0 (灰)	7世紀第4 四半期力		
5		SA01-P3a	須恵器・甕		—	—	(6.0)	外面は縦格子 状叩き、内面 は同心円文叩 き	—	砂粒(白 多・透・ 黒)	良好	7.5Y6/1 (灰)	山田宮跡群 7世紀第4 四半期		
6		SA01-P2 柱廻り方土層	土師器・甕		—	—	(3.0)	外面は粗い平 行叩き	—	砂粒(白 多・透多)	良好	2.5Y4/2 (明黄緑) 2.5Y6/2 (灰黄)			
7		SA01-P5 柱廻り方土層	須恵器・無 台杯		(12.0)	(8.5)	(3.2)	内外面ともにロ ク口水準整形	—	砂粒(白 多)	良好	5Y6/1 (灰)	山田宮跡群 7世紀第4 四半期		
8		SE01 覆土	須恵器・甕		—	—	(4.2)	外面は縦格子 状叩き、内面は 同心円文叩き	—	砂粒(白 多・透)	良好	10YR4/1 (濁灰) 10YR6/2 (灰黄)	山田宮跡群 7世紀第4 四半期		
9		SE01 覆土	須恵器・环 蓋		幅み径 (2.9)	—	(1.7)	内外面ともにロ ク口水準整形	—	砂粒(黒)	良好	2.5Y7/2 (灰黄)	瀬西跡群等		
10		SE01 覆土	瓦・平瓦		全長 (7.8)	厚さ (1.8)	重量 120g	凸面正格子叩 き、凹面は布 目に稜状正痕	—	砂粒(白 多)	良好	7.5Y7/1 (灰白)			
11		SE01 覆土	瓦・平瓦		全長 (7.8)	厚さ (1.9)	重量 92.8g	凸面正格子叩 き、凹面は布 目	—	砂粒(白 多・透)	良好	7.5Y6/1 (灰) N6/0 (灰)			
12		SE01 覆土	瓦・平瓦		全長 (5.3)	厚さ (2.5)	重量 134.6g	凸面縄叩き、 凹面は布目	—	砂粒(白多 透)・チャ ー卜	良好	10YR8/3 (浅黄緑) 10YR8/4 (浅黄緑)	木葉下葉跡群		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次級)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等		
					口径	底径	器高								
159	13	台渡里百舌淵跡 (台渡里第69次)	SE01 覆土	土器・カワ ラケ	—	(7.0)	(1.0)	轆轤成形/土 師質	—	砂粒(銀・ 赤)・骨 針	良好	5YR6/6(灰)	在地産力 近世以降		
	14		SE01 覆土	陶器・皿・ 折縁皿	(12.0)	(7.4)	(3.5)	轆轤成形/灰釉、外 面・器付・高台内無 縁/高台器付、貫入 あり、外面折縁部深 彫付	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 1600年代～ 1660年代		
	15		SE01 覆土	陶器・皿・ 灰釉碗皿	(16.0)	(10.3)	(2.9)	轆轤成形/灰釉、器 付・高台内無縁/削 出高台、内外貫入 あり	—	—	—	—	瀬戸・美濃産 17世紀中葉～ 18世紀創業		
	16		SE01 覆土	陶器・蓋物	(12.4)	(12.4)	6.9	轆轤成形/外面鉄施、 鉄施を削り取り取状 の文様をあらわす、 口縁部底彫、内面 無縁(一部無縁あり)、 底器無縁、二足器付、 重むね型付	50	—	—	—	在地産力 近世以降		
	17		SE01 覆土	土器・土鍋・ 瓦質	(17.2)	(12.0)	(4.5)	轆轤成形/内外 面保付着。外面 体部剥離著しい。	—	砂粒(銀・ 透)	良好	7.5Y3/1(オ リーブ黒)	在地産力 16世紀創業以 降、内耳土鍋 の可能性あり		
	18		SE01 覆土	土器・土鍋・ 土師質	(28.0)	—	(6.0)	轆轤成形/内 外面保付着	—	砂粒(銀・ 透)	良好	2.5Y2/1(黒) 2.5Y4/2(暗灰 黄)	在地産力 16世紀創業以 降、内耳土鍋 の可能性あり		
	19		SE01 覆土	土器・播鉢・ 瓦質	(32.0)	—	(6.3)	轆轤成形/内面 磨目4本、滑手、 23と同一個体カ	—	砂粒(白・ 黒・透)	良好	5Y5/1(灰)	在地産力 近世以降		
	20		SE01・13層	土器・土鍋・ 土師質	(36.0)	—	(5.8)	轆轤成形/内 外面保付着	—	砂粒(銀・ 透)	良好	2.5Y3/1(黒紺)	在地産力 16世紀創業以 降、内耳土鍋 の可能性あり		
	21		SE01 覆土	土器・土鍋・ 瓦質	(40.0)	—	(7.3)	轆轤成形/内 外面保付着	—	砂粒(銀・ 透)	良好	10YR2/1(黒)～ 10YR7/4(こぶ 黄緑) 10YR2/1(黒)	在地産力 16世紀創業以 降、内耳土鍋 の可能性あり		
	22		SE01 覆土	土器・風如・ 土師質	(23.7)	(22.0)	18.3	轆轤成形	70	砂粒(白・ 黒・赤)・骨 針	良好	10YR6/3(こぶ 黄緑)～10YR2/ 1(黒)	常滑産力 中世～近世		
	23		SE01 覆土	土器・播鉢・ 瓦質	(29.0)	(11.9)	(11.6)	轆轤成形/内面 磨目4本を放射 状に配置、滑手、 19と同一個体カ	—	砂粒(白・ 黒・透)	良好	5Y5/1(灰)	在地産力 近世以降		
	162		1	台渡里百舌淵跡 (台渡里第70次)	SD01 東区 上層	須恵器・環 蓋	磨み径 (3.9)	—	(1.2)	環状紐	—	砂粒(白・ 黒)	良好	7.5Y7/1(灰白)	新治窯跡群
			2		SD01 東区 上層	須恵器・環 蓋	(12.0)	—	(0.9)	内外面ともにロ ク口水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 黒)	良好	5Y8/1(灰)	山田窯跡群 もしくは大 塚下窯跡群 7世紀第4 四半期
3		SD01 東区 上層	須恵器・環 蓋		(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ ク口水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 多・黒多)	良好	10YR5/3(こぶ 黄緑) 10YR5/2(灰黄緑)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期		
4		SD01 東区 上層	須恵器・環 蓋		(12.0)	—	(1.8)	内外面ともにロ ク口水挽整形、 端部は折り返し	—	砂粒(白・ 多)	良好	5Y71(灰白) N7/0(灰白)	山田窯跡群 もしくは大 塚下窯跡群		
5		SD01 東区 上層	須恵器・長 頸壺		(16.0)	—	(2.3)	内外面ともにロ ク口水挽整形	—	砂粒(白・堅 緻)	良好	5Y4/3(暗オ リーブ)	湖西窯跡群		
6		SD01 東区 下層	須恵器・環 蓋		(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ ク口水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 透)	良好	5Y8/1(灰)	山田窯跡群 もしくは大 塚下窯跡群 7世紀第4 四半期		
7		SD01 東区 下層	須恵器・環 蓋		(14.0)	—	(0.9)	内外面ともにロ ク口水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 透)	良好	5Y8/1(灰)	山田窯跡群 もしくは大 塚下窯跡群 7世紀第4 四半期		
8		SD01 東区 下層	須恵器・環 蓋		(12.0)	—	(1.4)	内外面ともにロ ク口水挽整形、 端部は「く」字 状	—	砂粒(白・ 多・黒多・ 透)	堅緻	N6/0(灰) 10Y6/1(灰)	山田窯跡群 もしくは大 塚下窯跡群 7世紀末		

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
					口径	底径	器高							
162	9	台渡里百舌淵跡 (台渡里第70丸)	SD01 東区 下層	須恵器・無 台環	(14.0)	(11.0)	(4.0)	内外面ともにロ ク口水瓶整形	—	砂粒 (白 多)	堅緻	10Y2/1 (黒) 10Y4/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群	
	10		SD01 東区 下層	須恵器・甕	—	—	(3.7)	外面に同心円 文印き	—	砂粒 (白・ 銀・透)	やや 軟質	10Y8/6 (靑) 10Y8/3 (比赤 ・黄靑)	新治窯跡群	
	11		SD01 西区 上層	須恵器・環 蓋	幅み径 (2.8)	—	(1.3)	宝珠状だが 丸みを帯び扁 平に近い	—	砂粒 (白・ 銀・透)	良好	7.5Y5/1 (灰)	新治窯跡群	
	12		SD01 西区 上層	須恵器・環 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 内面にかえり	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透)	良好	5Y5/1 (灰)	新治窯跡群	
	13		SD01 西区 上層	須恵器・有 台環	—	高台径 (10.3)	(2.0)	内外面ともにロ ク口水瓶整形	—	砂粒 (白・ 銀・透)	やや 軟質	10Y8/3 (比赤 ・黄靑)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群	
	14		SD01 西区 上層	須恵器・環 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 端部は「く」字 状	—	砂粒 (白・ 黒多)	やや 軟質	7.5Y7/1 (灰白)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群	
	15		SD01 西区 上層	須恵器・環 蓋	(16.0)	—	(1.1)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 端部は「し」字 状	—	砂粒 (白・ 黒)	堅緻	N3/0 (灰)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群	
	16		SD01 西区 面視	須恵器・円 面視	—	最大径 (18.8)	(4.2)	脚部、割剣や 透しはない	—	砂粒 (白 多・透・黒・ 赤)	良好	7.5Y6/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群	
	17		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(6.6)	外面は菱格子 印き、内面は 当て具痕なし	—	砂粒 (白 多・黒多・ 透)	堅緻	7.5Y5/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群	
	18		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(2.6)	外面は正格子 印き、内面は 同心円文印き	—	砂粒 (白・ 赤・透)	良好	7.5Y4/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群	
	19		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(4.6)	外面は菱格子 印き、内面は 当て具痕なし	—	砂粒 (白・ 赤・透)	堅緻	N4/0 (灰)・ N6/0 (灰)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群	
	20		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(1.9)	外面は菱格子 印き、内面は 当て具痕なし	—	砂粒 (白・ 銀・透)	良好	7.5Y6/1 (灰)	新治窯跡群	
	21		SD01 西区 上層	土師器・甕	—	(12.0)	(1.9)	外面はヘラケ ズリ調整、底 部は本葉痕	—	砂粒 (白 多・銀多・ 透)	良好	5YR6/6 (靑) 10YR7/3 (比 赤・黄靑)	在地産カ	
	22		SD01 西区 下層	須恵器・環 蓋	幅み径 (4.1)	—	(1.3)	環状趾	—	砂粒 (白・ 銀多)	良好	5Y7/1 (灰白)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期	
	23		SD01 西区 下層	須恵器・環 蓋	(12.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 内面にかえり	—	砂粒 (白 多・銀多)	良好	7.5Y6/1 (灰)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期	
	24		SD01 西区 下層	須恵器・環 蓋	(14.0)	—	(1.4)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 内面にかえり	—	砂粒 (白・ 銀多)	良好	2.5Y7/2 (灰黄)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期	
	25		SD01 西区 下層	須恵器・環 蓋	(18.0)	—	(1.2)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 端部は「く」字 状	—	砂粒 (銀・ 黒)	良好	2.5Y7/1 (灰白)	新治窯跡群	
	26		SD01 西区 下層	須恵器・環 蓋	(12.9)	—	(1.8)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 端部は折り返し	—	砂粒 (白・ 銀・黒)	良好	2.5Y7/2 (灰黄) 10YR8/3 (浅 黄靑)	新治窯跡群	
	27		SD01 西区 下層	須恵器・無 台環	—	(8.0)	(1.3)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 底部は回転ヘ ラ切り	—	砂粒 (白・ 銀多・黒)	良好	5Y7/2 (灰白)	新治窯跡群	
	28		SD01 西区 下層	須恵器・脚 付長頸壺	胴部 最大径 (17.6)	—	(6.8)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 体部に横走る 沈線	—	砂粒 (白 多・黒多)	堅緻	5Y5/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群 7世紀第4 四半期	
	29		SD01 西区 下層	須恵器・甕	—	—	(3.2)	外面は菱格子 印き、内面は 同心円文の当 て具痕	—	砂粒 (白・ 透)	堅緻	5Y2/1 (黒) 5Y5/1 (灰)	山田窯跡群 もしくは本 葉下窯跡群	
	163	30		SD01 ベルト中	須恵器・環 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともにロ ク口水瓶整形 内面にかえり	—	砂粒 (白・ 銀多・黒)	—	2.5Y7/2 (灰黄)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代群
					口径	底径	器高						
163	31	台東区百輪遺跡 (台地部第70区)	SD01 ベルト中	須恵器・甕	—	—	(4.2)	外面は縦格子 印キ、内面は 当て具痕なし	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7/5Y4/1(灰) 2.5Y7/3(浅黄)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群
	32		SD01 ベルト中	土師器・環	—	—	(0.9)	底部外面は回転糸 切り、体部ヘラ ケズリ調整、内面 はミガキにより放 射状の暗文を表現	—	砂粒(白 多・透・黒)	良好	5YR6/6(橙) 2.5YR5/6(明赤) 2.5YR6/6(赤)	在地産カ
	33		SD01 ベルト中	須恵器・環 蓋	—	—	—	内外面ともにロ ク口水洗調整形 、端部は「く」字 状	—	砂粒(白 多・黒)	堅緻	N4/0(灰)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群
	34		遺構確認面	須恵器・無 台環	(13.0)	—	(4.0)	内外面ともにロ ク口水洗調整形	—	砂粒(白 多・黒)	良好	2.5Y7/3(浅黄)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群
	35		遺構確認面	須恵器・甕	—	—	(4.6)	外面は平行印 キ、内面は同 心内文印キ	—	砂粒(白 多)	良好	10YR7/1(灰) 10YR6/4(にぶ い黄緑)	山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群
	36		遺構確認面	土師器・甕	(14.0)	—	(5.7)	内外面ともに ナデ調整、口 縁部直下の内 面に沈痕	—	砂粒(白 多・黒・透)	良好	5YR5/6(明赤) 5YR3/3(暗赤)	在地産カ
167	1	堀遺跡 (第22地点 第2次)	SD01 南区上層	土師器・環	(12.6)	(6.6)	4.4	内外面ともにロ ク口水洗調整、 内面は丁寧なミ ガキ調整と黒色 処理、底部は回 転ヘラ切り、体 部外面に「南」 の墨書	38	砂粒(白 多・透) ・骨針	良好	5YR6/8(橙) 5Y2/1(黒)	在地産カ 9世紀第3 四半期～第 4四半期
	2		SD01 南区上層	土師器・高 台付環	—	(7.1)	(2.3)	内外面ともにロ ク口水洗調整、 内面は丁寧なミ ガキ調整と黒色 処理、底部は回 転糸切り後、ナ デ調整	20	砂粒(白 多・透)	良好	5YR6/8(橙) 2.5Y2/1(黒)	9世紀第2 四半期～第 3四半期
	3		SD01 南区上層	須恵器・無 台環	—	(6.4)	(2.4)	内外面ともにロ ク口水洗調整、 底部は回転ヘラ 切り後、ナデ調 整、「+」状のヘ ラ記号	—	砂粒(白 多・透) ・チャート ・礫	良好	5Y6/1(灰)	木葉下窯跡 群 9世紀第3 四半期
	4		SD01 南区上層	須恵器・有 台環	—	(7.5)	(2.7)	内外面ともにロ ク口水洗調整、 内面見込に降灰 痕	—	砂粒(白 多・黒)	堅緻	7.5YR6/1(褐 灰)	木葉下窯跡 群
	5		SD01 南区上層	須恵器・有 台環	—	(9.5)	(2.7)	内外面ともにロ ク口水洗調整、 底部は回転ヘラ 切り、内面見込 に墨痕、転用磁 カ	—	砂粒(白 多・透) ・チャート ・礫・骨針	堅緻	5Y5/1(灰)	木葉下窯跡 群
	6		SD01 南区上層	須恵器・高 台付甕	—	(11.0)	(3.1)	内外面ともにロ ク口水洗調整、 底部は回転ヘラ 切り	—	砂粒(白 多・透) ・骨針	堅緻	10Y4/1(灰)	木葉下窯跡 群
	7		SD01 南区上層	瓦・軒平瓦	全長 (11.5)	幅 (15.0)	厚さ (3.9) 重量 (699)g	凸面は長軸方向 のヘラケズリ及 びナデ調整、凹 面は短軸方向の ナデ調整。輪積 み痕が認められ 泥安盤築技法に よる製品	—	砂粒(白 多・透) ・2～5mm 大の礫多	堅緻	10YR5/1(褐 灰)	平安時代 3290型式も しくは3291 型式
	8		SD01 南区下層	須恵器・有 台環	—	(10.4)	(2.5)	内外面ともにロ ク口水洗調整、 底部は回転ヘラ 切り、底裏に墨 痕、転用磁カ	—	砂粒(白 多・透) ・チャート ・礫	堅緻	N5/1(灰)	木葉下窯跡 群
	9		SD01 南区下層	須恵器・有 台環	—	—	(2.5)	内外面ともにロ ク口水洗調整、 底部は回転ヘラ 切り、底裏にヘ ラ記号	—	砂粒(白 多・透) ・チャート ・礫	良好	5Y5/1(灰)	木葉下窯跡 群
	10		SD01 北区下層	須恵器・有 台環	—	(7.5)	(3.0)	内外面ともにロ ク口水洗調整、 内面見込に研磨 痕、転用磁カ	—	砂粒(白 多・透) ・チャート ・礫	堅緻	7.5Y5/1(灰)	木葉下窯跡 群 9世紀第2 四半期

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
				細別	口径	底径	器高	口径	底径							器高
167	11	麻道跡 (第22地点第2次)	SD01 北区上層	須恵器・無 台杯	(12.0)	—	(4.0)	内外前ともにロ ク口水挽整形	—	砂粒(白 多・黒多・ 赤)・骨針	良好	5Y6/2(オリ ア)	5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群		
			SD01 北区上層	須恵器・甕	—	—	(4.4)	外面は幅足の 平行時、内 面は当て具痕 なし。	—	砂粒(白 多・黒多・ 骨針)	聚積	7.5Y5/1(灰)	—	木葉下窯跡群		
	13		遺構礎礎面	須恵器・有 台杯	—	(9.6)	(2.4)	内外前ともにロ ク口水挽調整、内 面見込に障板輪	—	砂粒(白 多・透多)・ 骨針	良好	10YR5/3(に ぶい・黄緑)	7.5YR6/6(橙) ～10YR4/1(褐 灰)	木葉下窯跡群		
	14		SI01	土師器・環	(13.4)	—	(3.4)	口縁部外面は横位 のナデ調整。体部は ヘラケズリ調整。内 面は横位・斜位置の ナデ調整	30	砂粒(白 多・黒・赤・ 透)	良好	10YR7/4(に ぶい・黄橙)	7.5YR6/6(橙)	在地産カ 7世紀第4 四半期		
	15		SI01	土師器・甕	—	9.3	(6.9)	体部外面はヘラナ デ調整後へヘラミ ガキ調整。椀付蓋 底面はヘラナデ調 整	—	砂粒(白 多・黒多・ 透)	良好	7.5YR5/6(明 赤)	7.5YR6/4(に ぶい・橙)	在地産カ 7世紀第4 四半期		
16	SI01	土師器・甕	(26.0)	—	(10.9)	内外前ともに横位 のナデ調整。口縁部 外面に横位の浅い 沈線。内面に輪組み 痕残存	—	砂粒(白 多・透多・ 黒・赤)	良好	7.5YR5/6(橙)	—	在地産カ 7世紀第4 四半期				
170	1	谷田遺跡 (第1地点第2次)	SI1	土師器・環	(14.0)	(10.0)	(3.5)	丸底で体部に横を 行し、口縁部が外反。内面は 丁寧なヘラミガキ調整。 椀付蓋の底面。底面 外面はヘラケズリ調整	20	砂粒(白 多・黒多・ 赤・透)	良好	5YR6/6(橙) 5YR5/8(明赤 系)	—	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉		
			2	SI1	土師器・環	(16.0)	(12.6)	(4.3)	丸底で体部に横を 行し、口縁部が外反。内面は 丁寧なヘラミガキ調整。 椀付蓋の底面。底面 外面は反時計回りの方向 のヘラケズリ調整	30	砂粒(白・ 透)	良好	7.5YR3/1(黒 系)	7.5YR5/6(明赤 系)～2.5YR2/3 (輪組み赤系)	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉	
			3	SI1	土師器・環	(15.2)	(10.0)	(4.0)	丸底で体部に横を 行し、口縁部が外反。内面は 丁寧なヘラミガキ調整。 底面外面は時計回りの 方向のヘラケズリ調 整	30	砂粒(白 多・透・黒)	良好	7.5YR6/8(橙) 7.5YR5/6(明 赤系)	—	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉	
			4	SI1	土師器・環	(17.0)	(12.4)	(3.7)	丸底で体部に横を 行し、口縁部が外反。内面は 丁寧なヘラミガキ調整。 底面外面はヘラケズリ 調整	—	砂粒(白 多・透・黒)	良好	5YR6/6(橙) 5YR5/6(明赤 系)	—	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉	
			5	SI1	土師器・甕	(16.0)	—	(6.3)	内外前ともに横位 のナデ調整。外面に は前面による押さ えの痕跡。口縁部内 面には緩やかな稜	—	砂粒(白 多・透・黒・ 靑)	良好	2.5YR5/4(に ぶい・赤系)	—	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉	
			6	SI1	土師器・甕	(16.0)	—	(6.6)	内外前ともに横位 のナデ調整。外面に は板状工具による 横位のナデ調整の 痕跡。口縁部内面 には緩やかな稜	—	砂粒(白多 透多・黒・ チャート塵)	良好	5YR4/8(赤系)	—	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉	
			7	SI1	土師器・甕	—	(8.0)	(3.8)	胴部外面は、横位の ヘラケズリ調整後、 ミガキ調整。底面は ナデ調整。内面はナ デ調整	—	砂粒(白 多・透多・ 黒・靑)	良好	5YR17/1(黒 系)	～2.5YR4/6(赤 系)	2.5YR5/6(明 赤系)	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉
			8	SI1	土師器・甕	—	(9.0)	(3.2)	胴部外面は、横位の ヘラケズリ調整後、 ミガキ調整。底面・ 内面はナデ調整	—	砂粒(白 多・透・黒・ 赤)	良好	2.5Y2/1(黒)	—	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉	
			9	SI1	土師器・甕	—	(8.0)	(4.1)	胴部外面は、横位の ヘラケズリ調整後、 ミガキ調整。底面は ナデ調整。内面はミ ガキ調整	—	砂粒(白・ 透多・黒・ 赤)	良好	N2/0(黒)	～ 10YR6/4(にぶ い・黄系)	2.5Y3/1(黒系)	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉
			10	SI1	土師器・甕	—	(10.0)	(4.2)	胴部外面・底面は、 稜状による器面削 落が顕著。椀付蓋 内面はナデ調整	—	砂粒(白 多・透・黒・ 赤)	良好	5YR6/8(橙) ～5Y2/1(黒)	5YR5/6(明 赤系)	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉	

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
170	11	谷田道跡 (第1地点第 2次)	S11	土師器・甕	—	(6.9)	(2.0)	胴部外面は、横位の ヘラズリ調整後、 ミナキ調整。底面・ 内面はミガキ調整	—	—	砂粒(白 多・透・粗・ 黒)	良好	5YR1.7/1(黒) ～2.5YR4/6(赤 黒) 2.5YR5/6(明 赤黒)	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉	
	12		S11	土師器・碗	8.9	—	3.9	口縁部内・外面は横 位の子子調整。体部 ～底部外面はヘラ ズリ調整。底部内 面はヘラナデ	70	—	砂粒(白・ 透多・黒)	良好	2.5YR5/6(明赤黒) ～2.5YR1.7/1(赤 黒) 2.5YR5/6(明赤黒)	在地産カ 5世紀後葉～ 6世紀前葉	
171	13		S14	弥生土器・ 甕	頸部 最大径 (12.5)	—	(5.8)	折り返し口縁状と なり。単節R1.縄文 が横位に回転施祝。 直下に板状工具で 成形文と縦位区画 文を刻く。	—	—	砂粒(白多・ 透・粗)	良好	2.5YB/3(にぶい 黄黒)～2.5Y3/1 (黒黒) 2.5Y7/2(灰黄)	土台2b式 古墳時代 前期前葉	
172	14		S15	土師器・環	14.0	—	5.2	金属器模倣。底部は 丸底で、外面は平時 計回りの方向に丁 草なヘラズリ調整。 口縁部は横位に 外反。口縁部の内外 面は塗装	95	—	砂粒(白多・ 透・粗・赤 多)	良好	10YR2/3(黒黒)～ 7.5YR6/6(橙)～ 10YR7/4(にぶい 黄黒) 10YR3/2(黒黒)～ 10YR6/6(明黄黒) ～10YR5/4(にぶい 黄黒)	在地産カ 7世紀前葉	
	15		S15	土師器・環	(13.8)	—	(5.0)	金属器模倣。底部は 丸底で、外面は平時 計回りの方向に丁 草なヘラズリ調整。 口縁部は垂直に 立ち上がる。口縁部 の内外面は塗装	—	—	砂粒(白・赤 多)	良好	10YR7/3(にぶい 黄黒) 10YR5/4(にぶい 黄黒)	在地産カ 7世紀前葉	
	16		S15	土師器・環	(13.8)	—	(6.0)	金属器模倣。底部は 丸底で、外面は平時 計回りの方向に丁 草なヘラズリ調整。 口縁部は垂直に 立ち上がる。口縁部 の外面は塗装	—	—	砂粒(白・赤 多)	良好	10YR7/4(にぶい 黄黒) 5YR6/6(橙)	在地産カ 7世紀前葉	
	17		S15	縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.6)	縄文土器。単節R1. 縄文を回転施祝	—	—	砂粒(白・赤 粗)	良好	5YR5/6(明赤黒) 2.5YR4/6(赤黒)	黒浜式	
	18		S15	縄文土器・ 深鉢	—	—	(1.9)	単節R1.縄文を回転 施祝した後、縦位の 沈線で磨り消し	—	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	2.5YR5/6(明赤黒) 2.5YR4/4(にぶい 赤黒)	加曾利式	
	19		S15	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(6.6)	単節R1.縄文を回転 施祝	—	—	砂粒(白・赤 透多)	良好	10YR5/3(にぶい 黄黒)～10YR2/1 (黒) 10YR5/4(にぶい 黄黒)	堀之内式	
	20		S15	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(2.3)	無節縄文を回 転施祝	—	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	10YR5/3(にぶい 黄黒) 10YR4/4(にぶい 黄黒)	堀之内式	
	21		S15	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(2.1)	単節R1.縄文を回 転施祝	—	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	10YR7/6(明赤黒) 10YR7/4(にぶい 黄黒)～2.5YR6/6 (橙)	堀之内式	
	22		S15	須恵器・甕	—	—	(9.8)	外面は平行引き、内 面は平手で具痕なし。 筒状	—	—	砂粒(白多・ 透多・ 骨針)	良好	N5.0(灰) 7.5Y5/1(灰)	木葉下宮跡 奈良・平 安時代	
173	23		S16	土師器・環	(13.0)	(8.0)	(4.5)	内外面ともに口ロク 口を調整。内面は 丁寧なミガキ調整 の後、黒色思用。底 面は回転未切り。二 次底部面は回転ヘ ラズリ調整	30	—	砂粒(白多・ 透多・ 粗・赤)・ 骨針	良好	7.5YR7/6(橙) N1.5/0(黒)	在地産カ 9世紀第 4四半期	
	24		S16	土師器・甕	(14.0)	—	(8.4)	内外面ともに横位 の子子調整。口内 部～胴部外面に赤 彩	25	—	砂粒(白多・ 透多・ 粗多)	良好	10YR3/1(黒黒) 10YR4/1(黒灰)	在地産カ 9世紀第 4四半期	
	25		S16	土師器・甕	(22.0)	—	(6.5)	内外面ともに横位 の子子調整	—	—	砂粒(白多・ 透多・ 粗多)	良好	5YR6/6(橙)～ 10YR2/1(黒) 10YR5/3(にぶい 黄黒)～10YR2/3 (黒黒)	在地産カ 9世紀第 4四半期	
	26		S16	土師器・甕	(19.6)	—	(5.0)	内外面ともに横位 の子子調整	—	—	砂粒(白多・ 透多・ 粗多・赤)	良好	2.5YR6/8(橙) 5YR5/3(にぶい 赤黒)	在地産カ 9世紀第 4四半期	

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高	長さ	幅						
173	27	谷田遺跡 (第1地点第 2次)	S16	土師器・甕	—	(7.6)	(5.4)	胴部外面は縦位の ヘラケズリ調整。内 面は横位のナデ調 整。輪積み。底部 は木炭痕。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多・赤)	良好	10YR4/2 (灰 黄緑)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
	28		S16	土師器・甕	—	(9.0)	(7.0)	胴部外面は縦位の ヘラケズリ調整。内 面は横位のナデ調 整。輪積み。底部 は木炭痕。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多)	良好	7.5YR2/1(黒) 5YR3/4(赤黒) 7.5YR7/1(赤) 黒)～5YR6/6(黒) ～7.5YR2/1(黒)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
	29		S16	土師器・甕	—	(7.4)	(2.8)	胴部外面は横位の ヘラケズリ調整。内 面は横位のナデ調 整。輪積み。底部 は木炭痕。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多・赤)	良好	5YR5/6(明赤 黒)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
	31		S16	土製品・文 脚	長さ (14.7)	幅 (6.0)	重量 (400)g	被熱により器 面が著しく剥 落	90	—	良好	2.5Y7/3(淡黄)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
	32		S17	土師器・甕	(18.5)	—	(21.6)	口縁部内面は横位 のナデ調整。胴部 外面は横位のナデ 調整。胴部下半は 横位のヘラミケ調 整。	30	砂粒(白 多・透多・ 黒多・赤)	良好	5YR6/6(橙)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
	33		S17	土師器・甕	(18.0)	—	(19.1)	口縁部内外面は 横位のナデ調整。胴 部外面は横位のナ デ調整。	20	砂粒(白 多・透多・ 黒多・赤)	良好	10YR5/3(赤 黄黒) 7.5YR7/6(橙)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
174	32	水戸城跡 (第7地点第 27次)	S17	土師器・甕	(26.0)	—	(10.8)	口縁部内外面は 横位のナデ調整。胴 部内面は横位のナ デ調整。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多)	良好	10YR8/4(赤 黄黒)～10YR3/1 (黒) 7.5YR7/6(橙) ～10YR4/1(黄赤)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
34	S17		土師器・甕	(20.0)	—	(10.0)	口縁部内外面は 横位のナデ調整。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多・赤)	良好	10YR4/1(黄赤)	在地産カ 9世紀代			
35	S17		土師器・甕	(20.0)	—	(13.8)	口縁部内外面は 横位のナデ調整。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多)	良好	10YR4/3(赤 黄黒)～5YR4/4 (赤) 7.5YR4/2(灰黒)	在地産カ 9世紀代			
36	S17		土師器・甕	(24.0)	—	(7.2)	口縁部内外面は 横位のナデ調整。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多・赤)	良好	5YR6/6(橙) 7.5YR7/8(黄赤) ～10YR2/1(黒)	在地産カ 9世紀代			
37	S17		土師器・甕	(24.0)	—	(7.5)	口縁部内外面は 横位のナデ調整。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多)	良好	5YR5/8(明赤 黒)～2.5YR6/6 (橙)	在地産カ 9世紀代			
38	S17		土師器・甕	(8.0)	—	(13.5)	胴部外面は縦位の ヘラミケ調整。内 面は横位のナデ調 整。輪積み。外面 に炭付着。底部は 木炭痕。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多・赤)	良好	5YR6/6(橙) 10YR6/4(赤 黄黒)	在地産カ 9世紀代			
175	39		S17	土師器・甕	—	6.8	(17.0)	胴部外面は縦位の ヘラケズリ調整。内 面は横位のナデ調 整。輪積み。内面 に炭付着。底部は 木炭痕。	30	砂粒(白 多・透多・ 黒多)	良好	7.5YR5/6(明 赤黒) 7.5YR7/6(橙)	在地産カ 9世紀代		
40	S17		土師器・甕	—	(7.0)	(9.5)	胴部外面は横位の ヘラケズリ調整。内 面は横位のナデ調 整。輪積み。外面 に炭付着。底部は 木炭痕。	—	砂粒(白 多・透多・ 黒多)	良好	10YR11.7/1(黒) ～2.5YR4/6(赤 黒) 10YR4/1(褐色 灰)	在地産カ 9世紀代			
41	S17		土師器・甕	—	(7.0)	(7.3)	輪縁成形/透明釉 付付無釉。内面無 釉/外面・高台内白 土全面塗布。文線 なし/高台内ハリ直 1箇所。内面砂付着	20	—	—	—	肥前産 1680年代～ 1700年代			
178	1		水戸城跡 (第7地点第 27次)	藤欄柱5	磁器・碗・ 丸碗A	—	(6.0)	(5.9)	輪縁成形/透明釉 付付無釉。内面無 釉/外面・高台内白 土全面塗布。文線 なし/高台内ハリ直 1箇所。内面砂付着	35	—	—	—	七宝製陶所 (開製七宝焼) 1838(天保 9)年以降	
2	藤欄柱2	磁器・徳利・ 逆瓶形か		—	(9.2)	(7.3)	輪縁成形/透明釉 付付無釉。内面無 釉/外面・高台内白 土全面塗布。文線 なし/高台内ハリ直 1箇所。内面砂付着	35	—	—	—	七宝製陶所 (開製七宝焼) 1838(天保 9)年以降			

図版	番号	遺跡名 (地名・ 次敷)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高	全長	厚さ						
178	3	水戸城跡 (第7地点跡 27次)	藤棚柱 2	瓦・小丸軒 椀瓦	全長 (6.5)	厚さ (1.8)	重量 (135)g	板作り・型当て・型 押成形/焼しあり /小丸瓦当型欠失	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	産地不明 1841年前 後～		
			藤棚柱 2	瓦・小丸軒 椀瓦	全長 (6.4)	厚さ (1.8)	重量 (218)g	板作り・型当て・型 押成形/焼しあり	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	産地不明 1841年前 後～		
			藤棚柱 4	瓦・板状不 明	全長 (5.5)	厚さ (1.6)	重量 (107)g	板作り・型当て成形 /焼しあり/額印 丸に安	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	産地不明 1841年前 後～		
			藤棚柱 4	瓦・平瓦	全長 (13.3)	厚さ (2.2)	重量 (397)g	板作り・型当て成形 /焼しあり/穿孔 1箇所	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	産地不明 1841年前 後～		
			藤棚柱 4	瓦・板状不 明	全長 (7.5)	厚さ (2.0)	重量 (138)g	板作り・型当て成形 /焼しあり/額印 丸に安	—	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	産地不明 1841年前 後～		
179	1	愛宕山古墳	表面採集	内筒埴輪	—	—	(3.6)	外面には馬字形の 仏凸器を貼り付け、 凸部より上部に靑 色の刷毛目。凸部の 下部には方形の透 し。内面は横位の ナテ調整	—	砂粒(白 多・透多・ 黒)	良好	5YR6/6(靑)	古墳時代 中期前葉		
180	1	台湾里渡寺跡 (観音堂 山地区)	表面採集	軒丸瓦	内区径 (16.0)	厚さ (2.4)	重量 (180)g	外区外縁と中心通 り。丸瓦部を欠失。 眉縁産子は扇状を 呈し、細孔の花弁と サメの歯状の彫片 は丸みを帯びる	—	砂粒(白 多・透・ 黒)	良好	5YR6/1(灰)	奈良時代 3127A型式		
181	1	四又八窓跡 群	表面採集	須恵器無・ 台環蓋	最大径 (17.0)	—	(1.5)	内外面ともにロク ロ水鏡彫刻。つま み部・端部を欠失	—	砂粒(白多 ・透多・ 黒)	堅緻	10YR4/3(に ぶい黄褐)	8世紀第2四 半期～第3四 半期		
			表面採集	須恵器・有 台環	最大径 (17.0)	高台径 (12.4)	(3.0)	内外面ともにロク ロ水鏡彫刻。口縁 部を欠失	—	砂粒(白多 ・透多・ 黒)	堅緻	2.5Y5/1(黄灰)	8世紀第2四 半期～第3四 半期		
182	1	藤井町道跡	表面採集	縄文土器・ 粗製深鉢	—	—	(6.9)	外面には縦毛する沈 澱を塗らし、その間に 縞帯を貼り付け、新面 を削りつけて連続する 縞帯を呈している。内 面には5mm幅の縞を 呈する縞帯を3条塗ら す	—	砂粒(白 多・透多・ 赤)	良好	10YR4/2(灰黄 褐)	加曾利B式		
			表面採集	縄文土器・ 精製深鉢	—	—	(3.8)	3箇所の把手。外面 中央には2列の縦縞文 を配置。それに向かう に従って縞帯を狭く、内 面にも同様の縦縞 文を施す。下部は横 縞を呈す。底部は横 縞を呈す。中央に平 円形の突起を配置。左右 に長さ45mm程度の 竹管状工具で円形の 刺突文を配置	—	砂粒(白・ 透多)	良好	5YR4/6(赤褐) 7.5YR4/3(褐)	加曾利B1 式新段階		

・括弧内の数値は、復元された口径や底径、または現存高を示す。

・色調に記載の色については上段が外面、下段が内面を示す。複数の色調が認められる場合には、10YR/1(灰白)～10Y5/1(灰)のように示す。

〔第7表 凡例〕

※「胎」の記載には、次の記号を使用する。

「金」：金色を呈する風化した黒雲母片（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「黒」：黒色を呈する風化した白雲母片（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「赤」：赤色を呈する風化した白雲母片（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「白」：白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「黒」：黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「赤」：赤色で板状あるいは赤色チャートと考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「透」：透明で石英と考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

第8表 石器・石製品観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
13	8	大井古墳群 (第1地点第2次)	トレンチ2	磨製石斧	滑石カ	6.1	3.5	0.6	19.0	縄文時代
16	8	渡里町遺跡 (第11地点)	トレンチ1	砥石	不明	17.7	5.4	3.2	(455.0)	縄文時代不明
	9			砥石	流紋岩カ	(5.4)	(5.4)	(3.4)	(179.0)	縄文時代不明
19	4	渡里町遺跡(第12地点)	トレンチ一括	磨石/砥石	安山岩	(4.3)	(7.1)	(3.2)	(120.0)	縄文時代カ
75	16	坪遺跡(第16地点)	第2次調査 トレンチ4	磨製石斧	ホルンフェルスカ	(6.4)	3.2	1.6	56.7	縄文時代
152	36	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	SI01	か石	石英斑岩カ	(17.5)	(9.3)	(5.7)	(1134.0)	古墳時代前期
154	15		SD01	砥石	砂岩	15.0	8.7	7.1	(1898.0)	平安時代カ
155	5		遺構外		打製石斧	粘板岩カ	(7.2)	(3.9)	(1.1)	(45.0)
		双孔円板			滑石カ	(3.8)	(4.2)	(0.4)	(12.0)	古墳時代中期中葉
167	17	塚遺跡 (第22地点第2次)	SI01	軽石製品	軽石	7.8	6.3	5.3	(68.83)	7世紀第4四半期 魚鱗用の浮子カ
173	30	谷田遺跡 (第1地点第2次)	SI06	砥石	流紋岩カ	(7.6)	(7.4)	(3.4)	(195.79)	平安時代(9世紀代)

第9表 金属製品観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
49	5	台渡里官衙遺跡 (台渡里第76次)	トレンチ1	釘	鉄	14.1	1.2	0.7	32.96	奈良・平安
128	4	釜久保遺跡(第5地点)	トレンチ2	煙管	銅・真鍮	(5.3)	(0.9)	(0.35)	(2.78)	近世
146	8	香掛遺跡(第4地点)	遺構外	銭貨	青銅	(2.4)	(0.8)	(1.0)	(2.0)	銅一文古寛永(寛文 8(1669)年初鋳)カ
155	12	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	遺構外	鏡	青銅	3.9	2.0	最大厚 (0.4)	21.0	奈良・平安 刀身部長2.9cm、刀 身部幅0.3~0.7cm

引用・参考文献

- 井 博幸 2012 『茨城県中央部における前期・中期古墳の展開』『磐良岐考古』第34号 磐良岐考古同人会
- 井 博幸 2021 『常陸における前期・中期の埴輪』『古代文化』第72号第4号 公益財団法人古代学協会
- 井 博幸・小宮山達夫 1999 『第7章 内原町周辺の主要古墳と出土遺物』『牛伏4号墳の調査』内原町教育委員会
- 稲田健一 2010 『古墳時代の武田遺跡群』『武田遺跡群 総括・補遺編』ひたちなか市教育委員会・財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 井上義安編 1990 『薬王院東遺跡 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市薬王院東遺跡発掘調査会
- 井上義安・夢沼香未由・仁平妙子・根本睦子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 内原町教育委員会 1999 『牛伏4号墳の調査』
- 大洗町教育委員会 2018 『大洗町第2回埋蔵文化財企画展 太平洋を見下ろす大洗の王墓』
- 太田有里乃・染井千佳・土生朗治 2015 『小原遺跡(第3地点) 郡計道7・6・1号外3路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・渥美賢吾 2011 『台渡里22 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第79次)一』水戸市教育委員会
- 折原 覚 2007 『平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・渥美賢吾編 2009 『台渡里1 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第79次)一』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2009 『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2010 『平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2011a 『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2011b 『台渡里4 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第64次)一』水戸市教育委員会
- 川口武彦・木本孝周 2009 『台渡里摩寺跡出土軒瓦の新資料—3127型式と矢羽式軒平瓦の再検討—』『磐良岐考古』第31号 磐良岐考古同人会
- 川口武彦・米川暢敬・渥美賢吾・関口慶久 2020 『堀遺跡(第9地点区画No.1~12)一造成地内における個人住宅建築に伴う平成19~21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 河野一也・新垣清貴 2018 『東前原遺跡(第15地点第2次)一区画道路6-23号外1路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 栗原 悠 2018 『第二章 水戸市愛宕山古墳の測量調査(速報)』『茨城県中央部の古墳調査—測量報告(墳丘・石室・遺物)— 羽黒古墳 愛宕山古墳 三ツ塚古墳群 徳化原古墳 附・磯崎小学校敷地内第1号墳』茨城大学人文社会科学部考古学研究室
- 齊藤 新 2020 『那珂川久慈川流域の前期古墳の様相』『古代文化』第72号第2号 公益財団法人古代学協会
- 佐々木義明 1995 『木葉下遺跡群産杯A1の変化について—消費地における形態と調整技法の様相—』『磐良岐考古』第17号 磐良岐考古同人会
- 1997 『木葉下遺跡群の須恵器生産—奈良時代前半を中心に—』『磐良岐考古』第19号 磐良岐考古同人会
- 2001 『茨城県における8・9世紀の須恵器攷概観』『磐良岐考古』第23号 磐良岐考古同人会
- 2009 『武田遺跡群における平安時代土師器・小皿編年』『磐良岐考古』第31号 磐良岐考古同人会
- 2013 『木葉下遺跡群産須恵器有台杯・有台杯蓋・有台盤の編年』『磐良岐考古』第35号 磐良岐考古同人会
- 佐々木義明・早川麗司 2017 『茨城県における東北地方からの移民の痕跡—長煙道カマドと東北系遺物から倭因移転を考える—』『帝京大学文化財研究所研究成果公開シンポジウム「倭因・倭夷」と呼ばれたエミシの移転と東国社会—強制移住させられたエミシはどこに居たのか?そして何をしていたのか?—』帝京大学文化財研究所・山梨県考古学協会
- 眞保昌弘 2014 『出土瓦にみる中央集権国家形成期陸奥国支配体制の画期とその側面』『日本考古学』第37号

日本考古学協会

- 2018 『IV. 陸奥国古瓦の系譜と東国』『考古調査ハンドブック 18 古瓦の考古学』ニューサイエンス社
- 須田 勉 2005 「多賀城様式瓦の成立とその意義」『国士館大学文学部人文学紀要』第 37 号 国士館大学文学部
- 2013 『日本古代の寺院・官衙造営—長屋王政権の国家構想—』吉川弘文館
- 関口慶久編 2013 『日新塾跡 第 1 次～第 6 次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 関口慶久・川口武彦・ 2009 『吉田古墳Ⅲ 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第 1 号分の第 4・5 次発掘調査報告書』水戸市
渥美賢吾 教育委員会
- 関口慶久・川口武彦 2007 『吉田古墳Ⅱ 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第 1 号墳の第 3 次発掘調査報告書』水戸市教育
委員会
- 関口慶久・渥美賢吾・ 2017 『七面製陶所跡 遺構・遺物編 第 1～3 次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
米川暢敬編
- 藤沼香未由 2018 「事例（調査）磯浜古墳群の調査」『大洗町第 2 回埋蔵文化財企画展 太平洋を見下ろす大洗の
王墓 講演会発表資料集』大洗町教育委員会
- 藤沼香未由編 2019 『茨城県東茨城郡大洗町 磯浜古墳群 I 姫塚古墳・車塚古墳・日下ヶ塚（常陸鏡塚）古墳
平成 21～24 年度測量調査・範囲確認調査成果総括報告書』大洗町教育委員会
- 根本康弘 1983 『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 6 木葉下遺跡 I（京跡）』財団法人茨城県教育
財団
- 土生朗治・新垣清貴 2019 『茨城県水戸市 東前原遺跡（第 17 地点第 2 次）（仮称）ツルハドラッグ水戸東前店新築工
事にもなう埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 林 邦雄・渥美賢吾編 2013 『台渡里 15 一市道常磐 223 号線状あい道路整備工事及び公共下水道工事に伴う埋蔵文化財
発掘調査報告書（台渡里第 114 次）一』水戸市教育委員会
- 常陸古代窯業史研究会 1998 『水戸市山田窯跡群確認調査報告』『茨城県考古学協会誌』第 10 号 茨城県考古学協会
- 藤澤良祐 2005 「瀬戸美濃と志戸呂・初山」『陶磁器から見る 静岡県の中世社会—東でもない西でもない—』<
発表要旨・論考編>。菊川シンポジウム実行委員会
- 細谷弘一・佐藤次男・ 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—』内原町史編さん委員会
川井正一・根本康弘・
市毛美津子
- 米川暢敬・渥美賢吾・ 2019 『平成 21 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
色川順子・坂本幸子・
関口慶久・川口武彦編

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうにねんどみとしないいせきはつつちょうさほうこくしょ							
書名	平成22年度水戸市内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第126集							
編集者名	川口武彦							
著者名	川口武彦・米川暢敬・瀧美賢吾・関口慶久							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎029-224-1111 (代)					
発行年月日	2022 (令和4) 年3月29日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
金剛寺遺跡 (第8地点)	期江町字寺山 2113 外	08201	134	36° 24' 03"	140° 23' 40"	2010.4.13	208.5	ドクターヘリ発着所建設
舟形遺跡 (第5地点)	兒川町 2570-2	08201	167	36° 21' 33"	140° 26' 30"	2010.4.16	33.92	伐採・伐根
古田古墳群 (第9地点)	元古田町 84-2、84-9、85-9	08201	072	36° 21' 34"	140° 28' 22"	2010.4.23	18.0	個人住宅建築
古田古墳群 (第10地点)	元古田町字東組 706 番 1	08201	072	36° 21' 17"	140° 28' 33"	2010.4.23	18.0	個人住宅建築
大井古墳群 (第1地点第2次)	新富町 (市道新富 224号線)	08201	089	36° 25' 28"	140° 24' 50"	2010.5.11～5.12	54.6	掘溝埋設工事
渡里町遺跡 (第11地点)	渡里町 2819-4、-5	08201	121	36° 24' 27"	140° 26' 14"	2010.5.21	50.0	共同住宅建築
渡里町遺跡 (第12地点)	渡里町字八幡前 2503 番 1	08201	121	36° 24' 24"	140° 26' 21"	2010.8.3	72.0	宅地造成工事
赤塚遺跡 (第5地点第4次)	河和町 3丁目 2536	08201	042	36° 22' 16"	140° 24' 29"	2010.10.5	72.0	市立河和田保育園建設工事
赤塚遺跡 (第6地点)	河和町 3丁目 2824-1、-2、-3の 一部、8、9、2325-1の一部、 2327-1の一部	08201	042	36° 22' 16"	140° 24' 29"	2010.5.27	34.0	宅地造成
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 62 次・第 72 次)	渡里町字ラヤ 3057-2	08201	276	36° 24' 36"	140° 26' 52"	2010.6.1 (台渡里第 62 次) 2010.6.13 (台渡里第 72 次)	69.08	個人住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 63 次)	渡里町字前原 2865	08201	276	36° 24' 30"	140° 26' 50"	2010.6.9	59.1	宅地造成
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 65 次)	渡里町 2835-2、2835-11、2835- 12	08201	276	36° 24' 23"	140° 26' 07"	2010.08.10	14.0	駐車場造成
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 66 次)	渡里町字前原 2865-6	08201	276	36° 24' 28"	140° 26' 06"	2010.08.20	18.0	個人住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 67 次)	渡里町字前原 2865	08201	276	36° 24' 27"	140° 26' 07"	2010.08.20	13.8	個人住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 71 次)	渡里町字前原 2880-1、287703、 2879-2、2881-2の一部	08201	276	36° 24' 30"	140° 25' 59"	2010.09.21	3.75	物置及びカーポート建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 74 次)	渡里町字前原 2867	08201	276	36° 24' 29"	140° 26' 03"	2010.11.30	27.0	宅地造成
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 75 次)	渡里町字前原 2894-8、-2、-37 番 地	08201	276	36° 24' 23"	140° 25' 59"	2010.12.1	10.2	個人住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 76 次)	渡里町字前原 2832-9	08201	276	36° 24' 22"	140° 26' 08"	2010.12.2	15.0	個人住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 78 次)	渡里町字前原 2898-1	08201	276	36° 24' 25"	140° 25' 57"	2010.12.17	45.0	賃貸住宅建築
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 80 次)	渡里町字長者山 3070 地先～ 3082 地先 (市道常磐 223号線)	08201	276	36° 23' 37"	140° 25' 50"	2011.1.5～1.6	15.9	道路拡幅及び公 共下水道管理設
台渡里官衛遺跡 (台渡里第 82 次)	渡里町字宿原敷 3013-5	08201	276	36° 24' 30"	140° 26' 03"	2011.3.2	19.5	個人住宅建築
谷田古墳群 (第12地点)	酒門町 590-1 番地	08201	069	36° 20' 58"	140° 29' 52"	2010.6.4	49.0	共同住宅建築
釜神町遺跡 (第5地点)	釜前町 732 番地 8	08201	020	36° 22' 23"	140° 27' 52"	2010.6.4	44.0	個人住宅建築
釜神町遺跡 (第24地点)	釜前町 808 番地 2	08201	020	36° 22' 31"	140° 27' 31"	2010.12.24	4.5	個人住宅建築

所収道路名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	道路番号					
上平道路 (第1地点)	聖崎町字上平 2241-6	08201	193	36° 22' 31"	140° 27' 51"	2010.7.1	17.0	個人住宅建築
馬場尻道路 (第3地点)	田原町字馬場尻 168-1	08201	147	36° 25' 17"	140° 24' 54"	2010.7.6	35.0	店舗建築
馬場尻道路 (第4地点)	田原町 175、176の一部、177-2 番地	08201	147	36° 25' 21"	140° 24' 50"	2010.9.21	4.5	個人住宅建築
汗道路 (第13地点)	河和田 1丁目 1637-1, 1638	08201	015	36° 25' 21"	140° 24' 50"	2010.7.16	23.0	集合住宅建築
汗道路 (第14地点)	河和田 3丁目 2376-1, 2376-2	08201	015	36° 22' 19"	140° 24' 34"	2010.7.6 (第1次) 2010.10.29 (第2次)	36.0 (第1次) 42.0 (第2次)	個人住宅建築
汗道路 (第16地点)	河和田 2丁目 1713-10 外	08201	015	36° 22' 28"	140° 24' 34"	2011.2.4	60.0	宅地造成
釜工坂東道路 (第2地点第3次(区画No.2))	元吉田町字東組 573 番 15	08201	128	36° 21' 34"	140° 28' 41"	2010.7.15～7.16	6.0	個人住宅建築
釜工坂東道路 (第2地点第3次(区画No.3))	元吉田町字東組 573 番 16	08201	128	36° 21' 34"	140° 28' 41"	2010.7.15～7.16	6.0	個人住宅建築
釜工坂東道路 (第2地点第3次(区画No.6))	元吉田町字東組 573 番 20	08201	128	36° 21' 35"	140° 28' 42"	2011.2.10	9.6	個人住宅建築
飯道跡 (第3地点(区画No.1))	渡里町字高野台 3231 番 10	08201	064	36° 24' 33"	140° 25' 39"	2010.12.1	9.45	個人住宅建築
飯道跡 (第22地点)	渡里町字高野台 3307 番 20	08201	064	36° 24' 30"	140° 25' 32"	2010.7.28	17.25	個人住宅建築
飯道跡 (第24地点)	旭町字馬場東 307-2, 307-3	08201	064	36° 24' 28"	140° 25' 19"	2010.8.27	5.7	個人住宅建築
飯道跡 (第25地点)	旭町字馬場東 297-3	08201	064	36° 24' 29"	140° 25' 14"	2010.9.15	10.0	個人住宅建築
飯道跡 (第28地点)	旭町 382-1, 293-3	08201	064	36° 24' 27"	140° 25' 13"	2011.2.16	30.0	個人住宅建築
南台道路 (第3地点)	上岡井町 3906 番地	08201	036	36° 26' 49"	140° 26' 13"	2010.8.18	18.6	個人住宅建築
アラスカ道路 (第3地点(台 理室第68次))	渡里町字金沢 3111、アラスカ 3090-3	08201	024	36° 24' 30"	140° 25' 43"	2010.9.1	8.0	個人住宅建築
大瀬町道路 (第12地点)	元吉田町 2311-7 番地	08201	011	36° 21' 20"	140° 29' 04"	2010.9.10	15.0	個人住宅建築
西原道路 (第2地点)	渡里町字野木 3387 番 132, 133	08201	026	36° 24' 41"	140° 25' 22"	2010.9.15	9.3	個人住宅建築
文京1丁目道路 (第1地点(区画No.1))	文京1丁目 1898-8 番地	08201	023	36° 23' 57"	140° 26' 57"	2010.10.14	9.0	個人住宅建築
文京1丁目道路 (第1地点(区画No.2))	文京1丁目 1898-7 番地	08201	023	36° 23' 57"	140° 26' 58"	2010.11.25	10.5	個人住宅建築
丹田道路 (第1地点第2次)	谷田町 630-1	08201	002	36° 21' 17"	140° 30' 18"	2010.11.4	64.5	共同住宅建築
茨城高等学校道路 (第1地点第4次)	八幡町 8-54	08201	062	36° 23' 15"	140° 27' 35"	2010.11.24	4.0	八幡宮拝殿及び 幣殿の保存修理工 に伴う電気・水道 管埋設
下瀬田道路 (第2地点)	五平町字原屋敷 334-1	08305	179	36° 21' 03"	140° 20' 30"	2011.2.1	13.0	個人住宅建築
並久保道路 (第5地点)	大塚町字並久保 1612 番 2	08201	124	36° 23' 13"	140° 25' 55"	2011.2.8	36.0	寄附舎建築
下瀬田道路 (第3地点)	元石川町 1749-1 番地	08201	006	36° 19' 28"	140° 29' 58"	2011.2.10	41.5	個人住宅・農業 用倉庫建築
新地道路 (第2地点)	六反田町 955 番の一部	08201	184	36° 19' 28"	140° 29' 58"	2011.2.21	10.1	個人住宅建築
下本郷道路 (第4地点)	千波町 24 番地 1 ほか	08201	012	36° 19' 28"	140° 29' 58"	2011.1.21	0.9	個人住宅建築
下本郷道路 (第5地点)	千波町 688-1、-2, 686	08201	012	36° 19' 28"	140° 29' 58"	2011.2.22	37.5	宅地造成
水戸道路 (第7地点第25次)	三の丸 14-29 (旧沼田側)	08201	172	36° 22' 31"	140° 28' 38"	2010.10.4～10.8	2.0	史跡の残存に伴 う現状復旧
赤旗道路 (第4地点第2次)	足川町 2570 番 1, 4	08201	167	36° 21' 32"	140° 26' 41"	4月13日～6月11日	418.0	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
一ツ保遺跡 (第1地点第2次)	牛伏町181番1ほか	08201	069	36° 23' 35"	140° 21' 44"	7月13日～8月13日	168.32	個人住宅建築
飯沼遺跡 (第22地点第2次)	渡里町字高野台3307番20	08201	064	36° 24' 29"	140° 25' 32"	9月9日～10月2日	65.3	個人住宅建築
白渡里官衙遺跡 (第69次)	渡里町字前原2865番6	08201	276	36° 24' 29"	140° 25' 55"	10月2日～10月7日	67.26	個人住宅建築
白渡里官衙遺跡 (第70次)	渡里町字前原2865番	08201	276	36° 24' 28"	140° 26' 05"	10月2日～10月15日	68.0	個人住宅建築
飯沼遺跡 (第22地点第2次)	渡里町字高野台3307番20	08201	064	36° 24' 30"	140° 25' 32"	9月9日～10月2日	65.3	個人住宅建築
谷田遺跡 (第1地点第2次)	谷田町630-1	08201	062	36° 21' 17"	140° 30' 18"	11月15日	120.5	共同住宅建築
水戸遺跡 (第7地点第25次)	三の丸1丁目6-29(旧跡遺蹟)	08201	172	36° 22' 33"	140° 28' 40"	1月12日	—	史跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
金剛寺遺跡(第8地点)	古墳地	近世	溝跡2(うち近世1)・土坑4			土師質土器(近世)		
新藤遺跡(第5地点)	集落跡	時期不明				土師器		
吉田古墳群(第9地点)	集落跡	奈良・平安・中世				土師器・須恵器(奈良・平安)・土師質土器(中世)		
吉田古墳群(第10地点)	集落跡	近世以降	井戸跡(近世以降)			土師質土器		
大井古墳群 (第1地点第2次)	集落跡							
渡里町遺跡(第11地点)	集落跡	奈良・平安・近代	地下式坑1・土坑2・礎化面1			平瓦(奈良・平安)・磁器・土師質土器・瓦質土器(近代)		
渡里町遺跡(第12地点)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡6(古墳・奈良・平安)			穀類(縄文カ)・須恵器・土師器(奈良・平安)		
赤塚遺跡 (第5地点第4次)	集落跡	時期不明	井戸跡2					
赤塚遺跡(第6地点)	集落跡	近世	礎築土坑1(近世)			陶磁器・土製品・軒平瓦・牡蠣殻(近世)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第62次・第72次)	官衙跡	奈良・平安・近世・近代	竪穴建物跡1(奈良・平安)・溝跡2(奈良・平安)			須恵器・軒平瓦・平瓦・丸瓦(奈良・平安)・土師質土器・陶器(近世)・ガラス製品(近代)		白渡里官衙遺跡(長谷山地区)の正倉院史跡跡する内観土瓦製の区画溝跡を確定した。
白渡里官衙遺跡 (白渡里第63次)	官衙跡	古墳	竪穴建物跡2(古墳)			土師器・須恵器(古墳)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第65次)	官衙跡	奈良・平安				土師器・須恵器(奈良・平安)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第66次)	官衙跡	奈良	竪穴建物跡1			土師器・須恵器(奈良)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第67次)	官衙跡	古墳	溝跡1(古墳)			縄文土器(加曾利E4式)・須恵器(古墳)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第71次)	官衙跡	平安				土師器(平安)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第74次)	官衙跡	古墳・奈良・平安	竪穴建物跡2・竪立柱建物跡1・溝跡1			須恵器(古墳・奈良・平安)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第75次)	官衙跡	奈良・平安	溝跡1(奈良・平安)			土師器(奈良・平安)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第76次)	官衙跡	平安	竪立柱建物跡1(平安)			土師器・須恵器(平安)・鉄釘(平安)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第78次)	官衙跡	奈良・平安	溝跡2・土坑1・竪穴式遺構1			土師器(平安)・平瓦(奈良・平安)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第80次)	集落跡/官衙跡	縄文・奈良・平安	竪穴建物跡1・竪立柱建物跡1・溝跡2(うち近世以降1)・土坑1			縄文土器(加曾利B式)・平瓦・丸瓦(奈良・平安)		
白渡里官衙遺跡 (白渡里第82次)	官衙跡	古墳・奈良・平安	竪穴建物跡1(古墳時代終末期)・竪立柱建物跡1(奈良・平安)			土師器・須恵器		
谷田古墳群(第12地点)	古墳地	時期不明				土器		
釜神町遺跡(第5地点)	集落跡	縄文・近世・近代				縄文土器(中晩段階)・陶器・磁器(近世～近代)・土製品(近代)		
釜神町遺跡(第24地点)	集落跡	近世・近代				陶器・磁器(近世～近代)・ガラス製品(近代)		
上平遺跡(第1地点)	集落跡	近世	溝跡1(近世)			縄文土器(加曾利B式)・平瓦・丸瓦(奈良・平安)		
馬場町遺跡(第3地点)	集落跡	古墳				土師器(古墳時代前期)		
馬場町遺跡(第4地点)	集落跡	時期不明	竪穴建物跡1					
丹遺跡(第13地点)	集落跡	時期不明	溝跡1・土坑3(時期不明)					
丹遺跡(第14地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	溝跡3(中世以降)・土坑2・竪穴建物跡(奈良・平安)・ピット1			縄文土器(厨玉台1b式・加曾利E2～E3式・加曾利E4式・木木式)・磨製石斧(縄文)・土師器・須恵器(奈良・平安)・土師質土器(中世)		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
井原跡 (第16地点)	集落跡	縄文・近世	溝跡1 (近世)	縄文土器 (大木式・加曾利E2式)	
井原東遺跡 第2地点第3次区画 No.2)	集落跡	弥生・古墳	塚穴建物跡1 (弥生後期6)	弥生土器 (十王台式)・土師器 (古墳時代前期以降)	
井原東遺跡 第2地点第3次区画 No.3)	集落跡	奈良・平安	塚穴建物跡1 (奈良・平安)	土師器 (奈良・平安)	
井原東遺跡 第2地点第3次区画 No.6)	集落跡	平安	塚穴建物跡2 (平安)・土坑1	土師器・須恵器 (平安)	
飯沼跡 (第3地点区画No.1)	集落跡	奈良・平安	塚穴建物跡2 (奈良・平安)	土師器・須恵器 (奈良・平安)	
飯沼跡 (第22地点)	集落跡	古墳・奈良・平安	塚穴建物跡1 (古墳)・溝跡1 (平安)	土師器・須恵器 (古墳・奈良・平安)	
飯沼跡 (第24地点)	集落跡	奈良・平安	塚穴建物跡1 (奈良・平安)	土師器・須恵器 (奈良・平安)	
飯沼跡 (第25地点)	集落跡	奈良・平安		土師器 (奈良・平安)	
飯沼跡 (第28地点)	集落跡	奈良・平安		土師器・須恵器 (奈良・平安)	
南台遺跡 (第3地点)	包蔵地	奈良・平安末		土師器 (奈良・平安末)	
アヲヤ遺跡 (第3地点 (竹垣第68次))	集落跡	縄文・平安	土坑1 (縄文末)	縄文土器 (堀之内式・加曾利B式)・須恵器 (平安)	
大野遺跡 (第12地点)	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安	塚穴建物跡2 (古墳時代中期以前?)	縄文土器 (堀之内式)・弥生土器 (十王台式)	
西原遺跡 (第2地点)	集落跡	奈良・平安・近代	塚穴建物跡2 (奈良・平安)	土師器・須恵器 (奈良・平安)・陶器 (近代)	
文京1丁目遺跡 (第1地点区画No.1)	集落跡	縄文	土坑2 (縄文中期)	縄文土器 (大木8b式・加曾利E2式)	
文京1丁目遺跡 (第1地点区画No.2)	集落跡/古墳	縄文・古墳	土坑1 (縄文)・古墳周溝	縄文土器 (古墳時代中期)・須恵器 (古墳時代前期末~中期前期)	前方後円墳の可能性もある土器75~80cmの古墳の周溝が確認された。
谷田遺跡 (第1地点)	集落跡	古墳	塚穴建物跡3 (古墳時代中期)	土師器 (古墳時代中期)	
茨城高等学校遺跡 (第1地点第4次)	集落跡	縄文・平安・近世・近代	土坑4 (縄文)・礎石面	須恵器 (平安)・磁器 (近世・近代)・海老土製品 (近現代)・ガラス製品 (近代)	
下道田遺跡 (第2地点)	集落跡	古墳・奈良・平安		土師器・須恵器 (奈良・平安)	
墨久保遺跡 (第5地点)	集落跡	古墳・近世	塚穴建物跡1 (古墳時代前期)	土師器 (古墳時代前期)・磨石 (近世)	
下野遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・古墳	土坑4 (縄文)	縄文土器 (早明鉢末・加曾利B1式・加曾利E2式・加曾利E3式・加曾利E4式・堀之内1式・堀之内2式・加曾利B1式・晩期)	
新地遺跡 (第2地点)	包蔵地	中世・近世		土師製土器 (中世~近世)	
下本郷遺跡 (第4地点)	包蔵地	時期不明		銅片 (漢朝石製)	
下本郷遺跡 (第5地点)	包蔵地	縄文・古墳		縄文土器 (加曾利E1式・曾利式・連弧文系)・須恵器	筑波山開拓もしくは常陸大田市元山田山部の製品と考えられる須恵器片が出土し、当遺跡内に未確認の古墳が存在する可能性が出てきた。
水戸遺跡 (第7地点第25次)	城跡跡	近世	大野門部土坑1・溝状遺構 (近世)	陶器・磁器・土師製土器・軒瓦・平瓦 (近世)	正庁の建設会所の床下から弘道遺造以前の丹戸跡が検出され、石材・瓦・土器・磁器の他に多量の焼土や炭灰や粒子が出土し、多数の焼土や炭灰や粒子が出土し、焼土に包まれる遺構もしくは検出した建造物等の存在が想定された。
青柳遺跡 (第4地点第2次)	集落跡	縄文・古墳・近世	土坑15(近世1・時期不明14)・ピット10(古墳時代1・時期不明9)	縄文土器 (加曾利E1式・後期以降)・土師器 (古墳前期)・土師製土器・瓦 (近世)	
一保野遺跡 (第1地点第2次)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	塚穴建物跡1 (古墳)・溝跡1 (奈良・平安)	縄文土器 (浮島式)・打製石斧・弥生土器 (十王台式)・双孔門板 (古墳)・青銅附屬 (奈良・平安)・土師器 (古墳)・平石 (古墳)・須恵器 (古墳・奈良・平安)・砥石 (古墳)	牛伏古墳群に直接する本地点からは、古墳時代前期の塚穴建物跡が検出されるとともに、古墳時代中期の石製稲垣石や古墳時代終末期の土器等も出土し、古墳水田部の調査に際した集落遺跡である可能性が出てきた。また、断面が崩壊を呈する奈良・平安時代の遺跡も確認され、掘により関係する何らかの施設があったことが明らかになった。
台原里官衙遺跡 (第69次)	官衙跡	古墳・奈良・平安・近世	欄干1 (古墳)・井戸跡 (近世)	土師器 (古墳)・須恵器 (古墳・奈良)・瓦 (奈良・平安)・土師製土器・陶器 (近世)	斜め方位を採用する7世紀後半に造営された欄干が確認された。
台原里官衙遺跡 (第70次)	官衙跡	古墳・奈良・平安	溝跡1 (古墳)	土師器 (古墳・奈良)・須恵器 (古墳・奈良)	7世紀後半に掘削され、8世紀初頭に埋設した区画溝が確認された。
飯沼跡 (第22地点第2次)	集落跡	古墳・奈良・平安	塚穴建物跡1 (古墳)・溝跡1 (平安)・土坑1 (時期不明)	土師器 (古墳・平安)・須恵器 (奈良・平安)・瓦 (平安)	7世紀後半の塚穴建物跡と9世紀第2四半期に掘削されたと思われるいた官衙関係施設の区画溝が重複して確認され、区画溝の掘削年代が平安時代であることが確定した。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石田遺跡 (第1地点第2次)	集落跡	縄文・古墳・平安	埋穴建物跡5 (古墳3・平安2)	縄文土器 (黒沢式・加曾利E式・堀之内式)・土師器 (古墳)・須恵器 (奈良)・平安・磁石 (平安)・土製支脚 (平安)	これまで縄文時代と古墳時代前期の集落遺跡と認識されていた当該遺跡内において、古墳時代前期・後期・新石器・奈良時代・平安時代の埋穴建物が発見され、古墳時代前期・平安時代などこれまで知られていなかった土地利用が明らかとなった。
水戸城跡 (第7地点第27次)	城跡	近世	—	磁器・小丸軒椀瓦・板状瓦・平瓦 (近世)	

水戸市埋蔵文化財調査報告 第126集

平成22年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 令和4年3月29日

発行 令和4年3月29日

編集 水戸市教育委員会

発行 水戸市教育委員会

印刷 佐藤印刷株式会社

〒310-0043 水戸市松が丘2丁目3番23号

TEL 029-241-1212 (代)